

## 三陸鉄道沿線地域等公共交通計画



久慈市・野田村・普代村・田野畑村  
岩泉町・宮古市・山田町・大槌町・釜石市  
大船渡市・洋野町・陸前高田市・岩手県

令和6年12月策定

# 目次

第1章 計画の概要	1
1-1 計画策定の背景及び目的	1
1-2 計画の位置付け	2
1-3 計画の区域及び対象範囲	3
1-4 計画期間	3
第2章 三陸鉄道沿線地域等公共交通の課題	4
2-1 三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画の計画目標の評価（中間）について	4
2-2 課題の整理	18
2-3 課題解決に向けた対応の方向性	23
第3章 基本方針、目標及び目標達成のために行う事業	24
3-1 基本方針	24
3-2 計画の目標及び施策体系	25
3-3 目標を達成するために行う事業及び実施主体等	31
第4章 計画の達成状況の評価	42
4-1 評価方法	42
4-2 実施体制	42
第5章 三陸鉄道沿線地域等の概況	43
5-1 沿線地域の特性	43
5-2 人口減少・少子高齢化の動向	44
5-3 通勤、通学等の流動	47
5-4 自動車利用環境の動向	50
5-5 道路交通網の変化	52
5-6 観光動向	54
5-7 公共交通に関連する市町村計画	57
5-8 復興まちづくり事業	58
第6章 三陸鉄道沿線地域等公共交通の現況	60
6-1 三陸鉄道の沿革	60
6-2 三陸鉄道の現況	61
6-3 三陸鉄道の利用状況	70
6-4 三陸鉄道の経営状況	90
<参考資料>	92

## 第1章 計画の概要

### 1-1 計画策定の背景及び目的

三陸沿岸地域は、北は洋野町から南は陸前高田市までの南北に長い地域であり、リアス式海岸と山地に囲まれた狭小な平地部に人口が集中しており、多くの地域と同様に人口減少・少子高齢化が進展している。

地域交通の状況としては、地域住民の主な移動手段は自家用車であり、公共交通は高校生の通学や高齢者の通院・買い物等による利用が多くを占めている状況である。

その中で三陸鉄道は、旧国鉄から廃止転換された久慈線、宮古線、盛線及びこれらを結ぶ新線（田老～普代、吉浜～釜石）の完成をうけ、昭和59年4月に全国初の国鉄地方交通線転換の第三セクター鉄道として開業した鉄道であり、三陸鉄道の開業は、三陸沿岸の住民にとって、明治以来の悲願であった。

以後、平成5年度まで順調に黒字経営を行っていたが、モータリゼーションや人口減少・少子高齢化の進展、沿線公共施設の移転など、様々な環境の変化により、輸送人員が減少を続け、平成6年度から収支欠損を生じている。

このような厳しい経営状況の中にあっても、三陸鉄道は、地域の通勤、通学、通院、買物、高齢者などの交通弱者の日常生活の足として重要な役割を果たし、また、本県屈指の観光資源である三陸海岸を走る鉄道として、観光産業等においても重要な地域振興基盤となっている。

そのような中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、三陸鉄道は橋りょう、レール、駅舎等が流出するなど甚大な被害を受けたところであるが、地域住民をはじめ国内外から多くの声援と支援を受け、地域にとって必要不可欠な鉄路という認識のもと、平成26年4月には全線運行を再開した。更に平成31年3月には、宮古～釜石間がJR東日本から三陸鉄道に移管され、三陸鉄道リアス線として運行している。

地域公共交通は、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が激減し、新しい生活様式の定着によりその回復が遅れ、さらに燃料費高騰等による運行コストの増大、運転士不足の深刻化などの複合的な要因が重なり、地域公共交通は依然として厳しい状況が続いており、その維持・確保のため、更なる取り組みが求められている。

地域公共交通関連法の動向としては、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下「地域交通法」という。）の令和2年度の改正により、「地域公共交通網形成計画」が「地域公共交通計画」となり、計画の対象や内容、位置づけ等が拡充され、地方公共団体による策定が努力義務化されるとともに、令和5年度の改正により、目的規定に自治体・公共交通事業者・地域の多様な主体等の関係者の連携・協働が追加された。

こうしたことから、現行の「三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画」（計画期間：平成31年3月～令和11年3月）を基本とし、令和6年3月に実施した中間評価や社会情勢の変化を踏まえ、国・県・市町村や交通事業者、住民、NPO、各種団体・機関等が一丸となって取り組むための「三陸鉄道沿線地域等公共交通計画」を策定するものである。

## 1-2 計画の位置付け

本県は、県の最上位計画である総合計画「いわて県民計画（2019～2028）」の実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方策を盛り込んだ「第2期アクションプラン」（計画期間：令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度））を策定している。また、同計画の実現のため、「岩手県地域公共交通計画」（計画期間：令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度））を策定している。本計画の計画区域は「岩手県地域公共交通計画」に包含されるが、次の理由により「岩手県地域公共交通計画」と整合・連携を図った上で、個別に計画を策定することとするもの。

- 三陸鉄道沿線地域等は、人口減少等の課題に加え、沿線地域の実情を踏まえた上で公共交通の在り方を検討する必要があること
- 三陸鉄道のより一層の経営の合理化及び効率化を図るとともに、県・市町村においては、利用者の増加に向けた各般の取組を実施するなど、持続可能な運営を行うに当たっての施策を個別に検討する必要があること

なお、本計画の策定に当たっては、各市町村で策定する地域公共交通計画等と整合・連携を図ることとするもの。

また、観光利用者増加の観点としては、みちのくいわて観光立県基本条例に基づく「みちのく岩手観光立県第4期基本計画」を踏まえ、2次交通としての役割や乗車を楽しんでもらえるような企画列車の役割を果たすなど、観光面での計画との整合・連携も図るもの。

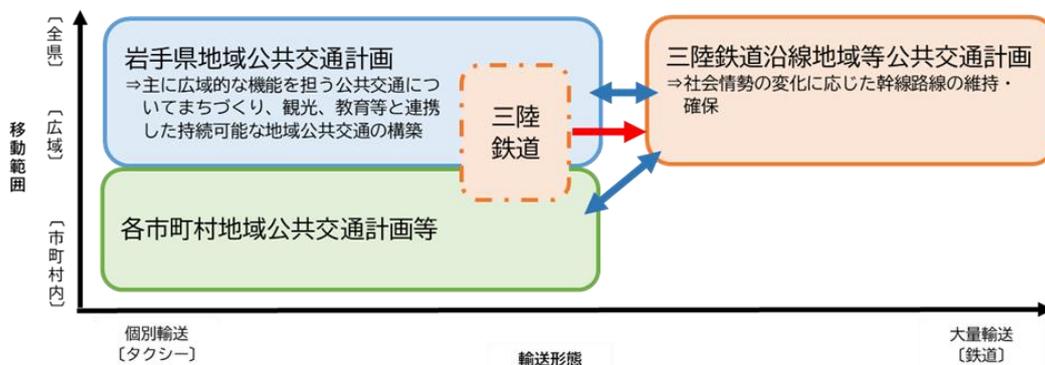


図1 各地域公共交通計画の関係

年度	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
いわて県民計画	計画期間（平成31年度～令和10年度）				
観光立県計画	計画期間（令和6年度～令和10年度）				
岩手県地域公共交通計画	計画期間（令和6年度～令和10年度）				
三陸鉄道沿線地域等公共交通計画	現行計画	本計画：計画期間（令和6年度～令和10年度）			

図2 関連計画の計画期間

## 1-3 計画の区域及び対象範囲

### (1) 計画の区域

#### 三陸鉄道沿線地域等 12 市町村

(久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、洋野町及び陸前高田市)

### (2) 計画の対象範囲

本計画では、三陸鉄道沿線地域等における鉄道や複数市町村を運行するバスなどの広域的な移動を支える基幹路線（幹線路線）及び域外利用者増加に資する公共交通を対象とする。

#### ① 鉄道

三陸鉄道、東日本旅客鉄道

#### ② バス

岩手県交通、岩手県北自動車、ジェイアールバス東北

## 1-4 計画期間

令和6年（2024年）12月から令和11年（2029年）3月までの5年4ヶ月間  
(令和11年（2029年）3月までの計画期間としている現計画の「三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画」と終期を合わせるもの。)

## 第2章 三陸鉄道沿線地域等公共交通の課題

### 2-1 三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画の計画目標の評価（中間）について

「三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画（計画期間：平成31年（2019年）3月～令和11年（2029年）3月）」について、令和6年（2024年）3月に中間評価を実施した。

#### 1 三陸鉄道の輸送人員及び収支の状況

##### （1）輸送人員

（単位：人）

	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
輸送人員合計	908,645	635,519	607,316	610,118	618,958
定期	512,622	429,363	402,274	367,761	348,449
定期外	396,023	206,156	205,042	242,357	270,509
個札	303,090	178,906	178,616	201,230	218,672
一般団体	31,078	8,595	12,666	13,558	20,506
観光団体	61,855	18,655	13,760	27,569	31,331

##### （2）収支

（単位：千円）

	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
経常収益	684,982	398,443	412,973	436,165	457,676
経常費用	1,088,463	983,716	1,103,120	1,091,182	1,124,887
経常損益	▲403,481	▲585,273	▲690,147	▲655,017	▲667,211
特別損益等	554,710	589,025	685,646	654,211	705,186
当期損益※1	151,229	3,752	▲4,501	▲806	26,778

※1 特別損益には令和元年度は累積損失補填（約2.4億円）を、令和2年度から令和5年度は新型コロナウイルス感染症等に係る運行支援交付金（約1.7億円～約1.9億円）を含む。

## 2 計画目標に対する評価（中間）

### 【目標1】地域の足としての役割の維持・向上

#### （1）数値指標

指標名	現状値 (2017年度)	中間評価時 (2022年度)	目標値 (2028年度)
①三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数（沿岸12市町村）	12.5回	11.4回	12.5回
②県民意識調査における公共交通に対する満足度	2.5点	2.5点	3.0点

#### （2）実施事業

事業内容	これまでの実施事業状況（主なもの）	実施内容・実績																						
1 利用促進施策の実施及び支援	<p>○各事業者において、新型コロナウイルス感染症対策を実施するとともに、利用しやすいダイヤの見直し等を実施</p> <p>○三陸鉄道の主な利用促進事策（岩手県三陸鉄道強化促進協議会事業として実施）</p> <p>・沿線等利用促進事業の推進</p> <p>各沿線12市町村等が企画した利用促進策の実施</p> <p>・利用者補助事業の実施</p> <p>・三鉄園児お絵かき募集への支援</p> <p>・さんてつアプリ（列車の位置情報配信等）</p>	<p>・三陸鉄道では、沿線の全高等学校への個別訪問による説明の上、ダイヤ改正を実施</p> <p>・沿線等利用促進事業の実施内容は、事業内容「20三陸鉄道沿線等住民への公共交通の利用促進」に記載のとおり</p> <p>・利用者補助事業の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>41,148</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>20,786</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>20,558</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>33,141</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 団体利用等補助、貸切列車借上げ料補助の合計</p> <p>・園児お絵かき応募作品数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>応募作品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>702</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>690</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>633</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>577</td> </tr> </tbody> </table> <p>・さんてつアプリ累計ユーザー数 5,092 (令和6年1月5日現在)</p>	年度	利用者数（人）	R元	41,148	R2	20,786	R3	20,558	R4	33,141	年度	応募作品数	R元	570	R2	702	R3	690	R4	633	R5	577
年度	利用者数（人）																							
R元	41,148																							
R2	20,786																							
R3	20,558																							
R4	33,141																							
年度	応募作品数																							
R元	570																							
R2	702																							
R3	690																							
R4	633																							
R5	577																							

事業内容	これまでの実施事業状況（主なもの）	実施内容・実績
2 沿線公共交通ネットワークの再編・強化	<p>○バス路線について、国庫補助路線及び県単補助路線において、新型コロナウイルス感染症に係る補助要件緩和の特例措置を実施</p> <p>○「地域公共交通活性化推進事業費補助」において、市町村の行う地域公共交通計画の策定支援や実証運行等に要する経費に対して支援を実施</p> <p>○令和5年度に創設した「人口減少対策路線確保事業」により、バス補助路線から転換した代替交通を運行する市町村への支援を実施</p> <p>（令和2年度から令和4年度は「補助路線代替交通確保維持事業」より支援）</p> <p>○「バス路線活性化検討会」を開催し、市町村やバス事業者における利用促進の取組・再編等について情報共有を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る国庫・県単補助路線に対する補助要件緩和を実施し、路線の維持を図った</li> <li>・市町村の行う実証運行や補助路線代替交通等の取組に対して支援を行うことにより、公共交通ネットワークの再編・強化に取り組んだ</li> </ul>

事業内容	これまでの実施事業状況（主なもの）	実施内容・実績																									
3 駅を中心としたまちづくり	○宮古駅に隣接する宮古市役所庁舎が供用開始（平成30年10月） ○陸中山田駅や大槌駅、鶴住居駅など旧JR山田線区間においても駅周辺に公共施設や飲食店等を整備	・駅周辺に公共施設のほか、飲食店等が整備されてきており、駅を中心としたまちづくりが実施されている。																									
4 新駅の設置	○平成31年3月 リアス線開通に併せて八木沢・宮古短大駅、弘川駅開業 ○令和2年5月 新田老駅開業	・新設駅の年間乗降者数（人） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>八木沢・宮古短大</th> <th>弘川</th> <th>新田老</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>16,130</td> <td>10,485</td> <td>6,905</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>15,685</td> <td>9,955</td> <td>14,648</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>15,072</td> <td>12,538</td> <td>16,365</td> </tr> </tbody> </table>		八木沢・宮古短大	弘川	新田老	R 2	16,130	10,485	6,905	R 3	15,685	9,955	14,648	R 4	15,072	12,538	16,365									
	八木沢・宮古短大	弘川	新田老																								
R 2	16,130	10,485	6,905																								
R 3	15,685	9,955	14,648																								
R 4	15,072	12,538	16,365																								
5 被災地通学支援事業	○平成30年度から児童・生徒が通学のため公共交通機関を利用する場合に支援を実施（支援額1/2）	・支援実績額（千円） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>三陸鉄道</th> <th>岩手県交通</th> <th>岩手県北バス</th> <th>JRバス東北</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 元</td> <td>46,252</td> <td>18,752</td> <td>21,155</td> <td>797</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>44,109</td> <td>21,184</td> <td>20,694</td> <td>1,822</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>40,540</td> <td>22,841</td> <td>18,337</td> <td>2,963</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>36,223</td> <td>19,680</td> <td>17,961</td> <td>3,864</td> </tr> </tbody> </table>		三陸鉄道	岩手県交通	岩手県北バス	JRバス東北	R 元	46,252	18,752	21,155	797	R 2	44,109	21,184	20,694	1,822	R 3	40,540	22,841	18,337	2,963	R 4	36,223	19,680	17,961	3,864
	三陸鉄道	岩手県交通	岩手県北バス	JRバス東北																							
R 元	46,252	18,752	21,155	797																							
R 2	44,109	21,184	20,694	1,822																							
R 3	40,540	22,841	18,337	2,963																							
R 4	36,223	19,680	17,961	3,864																							

### (3) 評価

- ・評価期間がコロナ禍と重なっており、移動需要の減少や不特定多数との接触を避ける動きなどが生じたことから、三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数（沿岸12市町村）は減少した。数値目標の達成には一層の取組が必要。
- ・公共交通に対する満足度は横ばいで推移したが、沿岸地域の基幹的な交通手段である三陸鉄道においては、コロナ禍においても減便等を行わず持続的な運行を継続したことなどにより、満足度の低下を招かなかったものと評価。
- ・宮古市本庁舎の整備（宮古駅）、観光交流施設・体育館等の整備（鶴住居駅）、新駅の開業（新田老駅など）など、駅を中心としたまちづくりが着実に推進し、駅の交通結節点としての機能が向上するとともに、地域公共交通の地域の足としての役割が維持。
- ・沿岸市町村等から要望がある被災地通学支援事業を継続して実施し、沿岸12市町村に居住している生徒の通学定期券購入費を助成することで、沿岸地域の生徒の金銭的な負担を軽減するとともに、児童生徒が公共交通を利用するきっかけを創出しているものと評価。

## 【目標2】三陸地域の公共交通における域外からの利用拡大

### (1) 数値指標

指標名	現状値 (2017年度)	中間評価時 (2022年度)	目標値 (2028年度)
①観光団体利用者数（三陸鉄道において）	40千人	28千人	68千人
【参考】 ②宿泊者数（延べ人数 県内全施設）	607.6万人泊	503.9万人泊	628.1万人泊 (2022年度)
【参考】 ③外国人宿泊者数（延べ人数 県内全施設）	18.8万人泊	2.6万人泊	39.3万人泊 (2022年度)

### (2) 実施事業

事業内容	これまでの実施事業状況 (主なもの)	実施内容・実績
6 域外からの観光 誘客支援	<p>○岩手県三陸鉄道強化促進協議会による事業として実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者補助事業（観光団体利用助成等）</li> <li>・戦略的情報発信事業（観光列車運行の新聞広告や旅行雑誌広告）</li> <li>・誘客強化支援事業（観光ガイド派遣等）</li> <li>・三鉄沿線 駅—1 グルメ旅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に令和元年度はリアス線開通ブームも相まって、利用促進事業により域外からの誘客を図ることができたほか、コロナ禍中は大手観光会社等の集客による域外からの誘客を控え、主に県内観光客をターゲットした集客に切り替えて実施</li> </ul> <p>【参考】三陸鉄道総輸送人員</p> <p>令和元年度 908,645人(観光団体 61,855人)</p> <p>令和2年度 635,519人(同 18,655人)</p> <p>令和3年度 607,316人(同 13,760人)</p> <p>令和4年度 610,118人(同 27,569人)</p>
7 県・沿線等12市 町村等の観光施策 との連携	<p>○観光列車やJR共催によるイベント列車を運行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な観光列車 「プレミアムランチ列車」 「洋風こたつ列車」 「こたつ列車」</li> <li>・JRとの共催列車 「ありがとうリゾートうみねこ」(R2) 「びゅうコースター風っこ」(R2、R3) 「リゾートあすなろ「銀河リアス号」」(R3、R4) 「三陸鉄道で行く！大船渡線乾杯列車」(R5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍があったものの、観光列車運行により沿線地域への観光客呼び込み及び地域の観光資源や伝統芸能の紹介等に注力</li> </ul>

事業内容	これまでの実施事業状況 (主なもの)	実施内容・実績																																					
<p>8 三陸鉄道を活用した経済交流・活性化の促進</p>	<p>○経済交流を目的とした企画列車 ・「かいけつゾロリ列車」 ○企業ヘッドマーク、ラッピング車両の運行 ○駅-1 グルメ旅 ○震災学習列車 ○サイクルトレインの実施</p>	<p>・かいけつゾロリ列車</p> <table border="1" data-bbox="927 304 1426 521"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>乗客数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 元</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>459</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>409</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>R 5</td> <td>516</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ヘッドマーク：ブラザー工業(株)、岩手日報広告社、KDD I (株)、クラブツーリズム(株) ほか ・車両ラッピング：イオン東北(株)、ライオンズクラブ、東北電力(株)、(株)岩手リオン、(株)ポケモン ほか ・駅-1 グルメ旅：第1弾 2,250人 第2弾 2,009人 第3弾 1,336人 ・震災学習列車</p> <table border="1" data-bbox="927 893 1426 1072"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>乗客数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 元</td> <td>160</td> <td>6,484</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>132</td> <td>5,613</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>190</td> <td>9,577</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>249</td> <td>11,997</td> </tr> </tbody> </table> <p>・サイクルトレイン実績</p> <table border="1" data-bbox="927 1111 1426 1290"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 元</td> <td>未集計</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	乗客数 (人)	R 元	258	R 2	459	R 3	409	R 4	400	R 5	516	年度	件数	乗客数 (人)	R 元	160	6,484	R 2	132	5,613	R 3	190	9,577	R 4	249	11,997	年度	利用数 (人)	R 元	未集計	R 2	9	R 3	13	R 4	5
年度	乗客数 (人)																																						
R 元	258																																						
R 2	459																																						
R 3	409																																						
R 4	400																																						
R 5	516																																						
年度	件数	乗客数 (人)																																					
R 元	160	6,484																																					
R 2	132	5,613																																					
R 3	190	9,577																																					
R 4	249	11,997																																					
年度	利用数 (人)																																						
R 元	未集計																																						
R 2	9																																						
R 3	13																																						
R 4	5																																						
<p>9 復興道路・復興支援道路の整備に伴う公共交通の活用</p>	<p>○令和3年3月宮古盛岡横断道路全通 ・106 急行バスでは一部便において宮古～盛岡間の速達性を向上する便を設定 ○三陸沿岸道路は令和3年12月に残工事区間の普代～久慈間が開通し、仙台～八戸間が全通 ○三陸鉄道では、復興道路・復興支援道路の全通を好機と捉え、観光需要の取込を模索</p>	<p>県内陸部や八戸、仙台方面から沿岸部へのアクセス性が向上したことから、三陸鉄道では仙台・八戸方面からの集客拡大の好機と捉え、企画列車を運行</p> <p>・R3 冬の味覚三昧ツアー（観光庁既存観光拠点再生交付加価値化推進事業） 【釜石～盛】2本、乗客 46人（仙台日帰り） 【盛～釜石・鶴住居～恋し浜】1本、乗客 19人（仙台1泊2日） 【久慈～宮古】1本、乗客 16人（八戸1泊2日） 【宮古～釜石】2本、乗客 29人（盛岡1泊2日）</p> <p>・R3 仙台⇄山田⇄宮古実証運行バス＋三鉄2日間フリーパスモニターツアー（みちのりトラベル東北主催） 10月23日～1月25日の間16回催行 54名</p> <p>・さんてつ縦断駅伝列車の旅（盛～久慈） R4 仙台発2本 47人・八戸発2本 46人 R5 八戸発2本 47人</p>																																					

事業内容	これまでの実施事業状況 (主なもの)	実施内容・実績																								
<p>10 宮古・室蘭フェリー就航及びクルーズ客船の寄港に併せた公共交通の活用</p>	<p>○平成30年6月22日の宮古～室蘭間フェリー就航に伴い、運行計画に合わせたパッケージ商品の開発等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就航に併せた「藤原埠頭～宮古駅間の路線バス」の整備</li> <li>・県内向け利用促進（広報・宣伝等）の実施</li> <li>・室蘭エリア向け利用促進（広報・宣伝等）の実施</li> </ul> <p>※宮古・室蘭間フェリーは、令和2年3月31日をもって宮古港への寄港を当面休止し、その後、八戸港と室蘭港を結ぶ航路として運行されたが、令和4年2月1日をもって航路を休止</p> <p>【参考】県内湾口へのクルーズ船寄港回数(R2はコロナの影響)</p> <table border="1" data-bbox="544 1021 898 1249"> <thead> <tr> <th></th> <th>久慈港</th> <th>宮古港</th> <th>大船渡港</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		久慈港	宮古港	大船渡港	R元	3	5	2	R2	0	0	0	R3	0	2	2	R4	1	5	4	R5	0	8	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古・室蘭間フェリーについては、県、宮古市及び室蘭市において、運航再開に向けた取組を進めているところ</li> <li>・三鉄では、宮古港へのクルーズ船寄港に合わせ、個人観光客用のバウチャー券発売や震災学習列車等の運行を実施</li> </ul> <p>R4 大型客船寄港OPツアー(1件55名)</p> <p>R5 貸切列車運行(2本) 震災学習列車運行(1本) バウチャー券販売(28枚)</p>
	久慈港	宮古港	大船渡港																							
R元	3	5	2																							
R2	0	0	0																							
R3	0	2	2																							
R4	1	5	4																							
R5	0	8	2																							
<p>11 沿岸地域の大規模イベントの開催に併せた公共交通の活用</p>	<p>○令和元年「三陸防災復興プロジェクト2019」開催</p> <p>○同年「ラグビーワールドカップ2019」が釜石鶴住居復興スタジアムで開催</p>	<p>・県内外から沿岸部への誘客に一定の効果が得られ、三鉄では大規模イベントに合わせた臨時列車や企画列車を運行することで、公共交通の活用が図られた。</p>																								
<p>12 いわて花巻空港の国際線と連携したインバウンドの誘客拡大</p>	<p>○令和元年9月、陸中海岸魚彩王国実行委員会と県空港利用促進協議会とで台湾の旅行会社を訪問し、沿岸誘客について営業活動を実施</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月から国際線が運休となっていたことから令和3～4年度は事業を見合わせたものの、令和5年5月に台北線の運航が再開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年の台湾旅行会社への訪問では、台湾側のニーズを確認</li> <li>・令和5年度台湾団体利用実績(R5.4～R6.1) 90件 2,339名</li> </ul>																								

### (3) 評価

- ・評価期間がコロナ禍と重なっており、観光団体利用者数が減少しているが、今後、利用者数を回復し、数値目標を達成するためには一層の取組強化が必要。
- ・三陸鉄道による企画列車の運行、沿線市町村等が連携した企画切符の販売、ホームページの外国語対応など、域外からの利用拡大に向けた取組を着実に実施しているものと評価。
- ・復興道路・復興支援道路の整備に伴い、仙台圏・八戸圏からの誘客強化の取組を実施し、交流人口の拡大に寄与。
- ・令和4年度には震災学習列車の乗車人員が過去最高の249件11,997人となり、三陸鉄道の復興のシンボルとしての認知度の向上及び交流人口の拡大につながったものと評価。
- ・沿岸地域の大規模イベント（三陸防災復興プロジェクト2019、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>釜石開催）等での安定的な来場者輸送等に寄与。
- ・大型クルーズ船の入港に伴うバウチャー券の販売や、花巻空港を利用した台湾からの団体利用の増加など、インバウンドの取り込みも進んでいるものと評価。

## 【目標3】持続可能な運営体制の構築

### (1) 数値指標

指標名	現状値 (2017年度)	中間評価時 (2022年度)	目標値 (2028年度)
①最終損益（三陸鉄道において）	▲30,573 千円	▲806千円	最終利益を 確保
②定期（通学・通勤）及び地元団体の利用者数（三陸鉄道において）	301千人	381千人	490千人
③平均乗車密度（広域的・幹線的バス路線において）	3.4人	2.9人	3.8人

### (2) 実施事業

事業内容	これまでの実施事業 状況（主なもの）	実施内容・実績																								
13 設備投資等 に対する財政支 援	○三陸鉄道が行う老 朽施設等の更新に係 る設備投資等に対し て、国、県、市町村に よる財政支援を実施。	<p>・主な財政支援実績（千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>安全輸送 設備等整 備費補助</th> <th>設備維持 補助</th> <th>運行支援 交付金 (運営支 援補助)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元</td> <td>224,618</td> <td>192,700</td> <td>238,200</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>214,603</td> <td>217,483</td> <td>190,000</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>261,887</td> <td>241,767</td> <td>174,000</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>299,795</td> <td>271,713</td> <td>194,000</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>312,702</td> <td>301,030</td> <td>180,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※～R4は実績額、R5は予算額</p>		安全輸送 設備等整 備費補助	設備維持 補助	運行支援 交付金 (運営支 援補助)	R元	224,618	192,700	238,200	R2	214,603	217,483	190,000	R3	261,887	241,767	174,000	R4	299,795	271,713	194,000	R5	312,702	301,030	180,000
	安全輸送 設備等整 備費補助	設備維持 補助	運行支援 交付金 (運営支 援補助)																							
R元	224,618	192,700	238,200																							
R2	214,603	217,483	190,000																							
R3	261,887	241,767	174,000																							
R4	299,795	271,713	194,000																							
R5	312,702	301,030	180,000																							
14 路線バスの 維持に係る財 政支援	○複数市町村にまた がるバス路線の運行 欠損額に対し、国・ 県による支援のほ か、市町村単独補助 により支援を実施 ○「バス事業者運行支 援交付金」「バス事業 者運行支援緊急対策 交付金」により、新型 コロナウイルス感染 症及び燃料費高騰の 影響を受けた乗合バ ス事業者に対する支 援を実施	<p>・国、県、市町村において路線バスを支援し、地域の公共交通を確保</p> <p>・バス事業者運行支援交付金、バス事業者運行支援緊急対策交付金交付実績（千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>岩手県 交通</th> <th>岩手県北 バス</th> <th>JRバス 東北</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>130,500</td> <td>49,800</td> <td>10,800</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>89,000</td> <td>41,000</td> <td>8,600</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>128,200</td> <td>59,560</td> <td>11,120</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>179,676</td> <td>82,656</td> <td>14,868</td> </tr> </tbody> </table>		岩手県 交通	岩手県北 バス	JRバス 東北	R2	130,500	49,800	10,800	R3	89,000	41,000	8,600	R4	128,200	59,560	11,120	R5	179,676	82,656	14,868				
	岩手県 交通	岩手県北 バス	JRバス 東北																							
R2	130,500	49,800	10,800																							
R3	89,000	41,000	8,600																							
R4	128,200	59,560	11,120																							
R5	179,676	82,656	14,868																							

事業内容	これまでの実施事業状況（主なもの）	実施内容・実績																				
15 地域交通再編加速事業による再編等の支援	○市町村が、人口減少・高齢化社会に対応した持続的な地域公共交通ネットワークの構築および利用促進に係る事業を実施する際に要する経費に対し、事業費補助により支援を実施。（令和元年度から「地域公共活性化推進事業」として事業継承の上で実施）	各市町村が地域事情に根差した公共交通のネットワーク構築や利用促進事業を実施しており、三陸鉄道沿線市町村関係では、下記の事業に支援を実施 【釜石市】（R 2） 第2期釜石市地域公共交通網形成計画策定事業（補助額：1,853千円）。 【大槌町】（R 3） 大槌町内の主要な公共交通機関である路線バスと鉄道路線のダイヤ再編に合わせ、乗継体系や経路等の情報を集約した公共交通機関の総合的な時刻表を作成し、利用者の利便性の向上及び利用促進を図る事業。（補助額：62千円） 【久慈市】（R 4） 市民バスの見直しや地域公共交通計画策定に向けた市民アンケート調査等を実施する事業（補助額：2,249千円）																				
16 事業の実施主体の変更（JR→三陸鉄道）	平成31年3月、三陸鉄道へ経営移管済み	・山田線区間が三陸鉄道に移管後、リアス線として鉄道事業を運営																				
17 沿線市町による鉄道資産の保有（山田線分）	平成31年3月の経営移管に併せ、鉄道資産を沿線市町が保有	・沿線市町が継続して保有することで三陸鉄道の固定資産税負担を軽減し、三陸鉄道の経営を支援																				
18 沿線市町村による鉄道資産の保有（南北リアス線分）	継続して一部の鉄道資産を沿線市町村が保有	・市町村が継続して保有することで三陸鉄道の固定資産税負担を軽減し、三陸鉄道の経営を支援																				
19 三陸鉄道を活用した地域内交流の推進	○岩手県三陸鉄道強化促進協議会による事業（マイレールさんてつ推進事業）として、三陸鉄道が乗車機会の創出を目的として地元住民向けに実施するイベント（宮古車両基地まつり、久慈さんてつまつり）への事業補助を実施（R 2～）	<p>・三陸鉄道イベント参加人数（三鉄調べ・概数）</p> <table border="1" data-bbox="788 1386 1390 1693"> <thead> <tr> <th></th> <th>久慈さんてつまつり</th> <th>宮古車両基地まつり</th> <th>3つの鉄道まつり（又は盛駅前てつどうまつり）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 2</td> <td>500</td> <td>1,000</td> <td>-（中止）</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>400</td> <td>500</td> <td>-（中止）</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>500</td> <td>1,000</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>R 5</td> <td>500</td> <td>1,500</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>		久慈さんてつまつり	宮古車両基地まつり	3つの鉄道まつり（又は盛駅前てつどうまつり）	R 2	500	1,000	-（中止）	R 3	400	500	-（中止）	R 4	500	1,000	1,000	R 5	500	1,500	500
	久慈さんてつまつり	宮古車両基地まつり	3つの鉄道まつり（又は盛駅前てつどうまつり）																			
R 2	500	1,000	-（中止）																			
R 3	400	500	-（中止）																			
R 4	500	1,000	1,000																			
R 5	500	1,500	500																			

事業内容	これまでの実施事業状況（主なもの）	実施内容・実績
20 三陸鉄道沿線等住民への公共交通の利用促進	<p>○岩手県三陸鉄道強化促進協議会による事業として沿線利用促進事業（沿線各市町村等の独自企画行事への補助）を実施</p> <p>○三陸鉄道利用者補助事業（地元団体利用助成等）等を実施</p> <p>※実施状況は事業内容番号1「利用促進施策の実施及び支援」利用者補助事業の実施に記載のとおり。</p> <p>○住民のマイレール意識向上と新たな車窓風景の創出のため、令和2～3年度に野田村を適地としてシバザクラの植栽活動を実施。十府ヶ浦海岸付近「十府ヶ浦公園」約300mに植栽</p> <p>○県・市町村・事業者による「バス路線活性化検討会」において、利用促進の取組方向等の情報共有を実施。</p> <p>○岩手県公共交通利用推進協議会では、「公共交通スマートチャレンジ月間」を設定し、公共交通機関の利用促進を呼びかけた。（令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施見合わせ）</p>	<p>・これまでの沿線利用促進事業実施例</p> <p><u>久慈市</u> 「三陸鉄道で行く“青の国ふだい”豪華グルメツアー」 久慈市民、洋野町民を対象に、三陸鉄道を利用した乗車ツアーを展開（みちのく潮風トレイルハイライトトレッキング、地元企業見学等）</p> <p><u>野田村</u> 「三鉄で遠足に行こう」（小学生＋保護者対象） 久慈琥珀博物館見学・発掘対象</p> <p><u>宮古市</u> 「宮古市公共交通まつり」 ワードラリー（三鉄グッズ等景品付き）等</p> <p><u>釜石市</u> 「クリスマス列車」（子供＋保護者対象） 恒例の三陸鉄道に親しむ行事 ゲーム大会、ケーキ等の会食</p> <p><u>大船渡市</u> 「撮影学習列車」 高校生による撮影学習と地元観光資源発見の学校授業として乗車</p> <p><u>三陸鉄道</u> 「合格祈願ポストカード配布」 通学生の増加を目的に県立高校入試日等に配布</p>

### (3) 評価

- ・利用者数の減少により公共交通事業者の経営は厳しい状況が続いている。
- ・県、沿線 12 市町村等により、三陸鉄道が行う設備投資に対する財政支援や、複数市町村にまたがるバス路線（広域的・幹線的路線）の補填等を行い、広域的な地域公共交通の維持につながっているものと評価。
- ・持続可能な運営体制の構築に向け、三陸鉄道の沿線自治体が鉄道施設の修繕・維持管理費等を負担（コスト上の上下分離）することにより、引き続き三陸鉄道の費用負担を軽減していく必要。
- ・沿線住民の利用促進や地域内交流の拡大など、収益確保に向けた取組の一層の強化が必要。

## 【目標 4】安全運行の確保

### (1) 数値指標

指標名	現状値 (2017 年度)	中間評価時 (2022 年度)	目標値 (2028 年度)
計画期間中の事故件数（三陸鉄道において）	0 件	0 件	0 件

### (2) 実施事業

事業内容	これまでの実施事業 状況（主なもの）	実施内容・実績															
21 計画的設備 投資等の実施	○三陸鉄道は、安全・安心な輸送を確保するため、通信ケーブルの増設、踏切保安設備更新、橋梁の改修や枕木の PC 化等を実施	・計画的に設備更新等を実施しており、鉄道事故 0 件を継続															
22 安全運行体制の構築	○三陸鉄道では、異常時運転取扱訓練会を実施したほか、社員の外部訓練会への参加、安全管理委員会の定例開催、安全総点検等を実施計画的に人材確保及び人材育成を実施	・定期的な訓練、安全点検を実施しており、鉄道事故 0 件を継続 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>採用</th> <th>退職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 元</td> <td>7</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> ・社員の退職・採用の状況 ※ J R 出向者は含まず		採用	退職	R 元	7	2	R 2	9	6	R 3	6	6	R 4	7	5
	採用	退職															
R 元	7	2															
R 2	9	6															
R 3	6	6															
R 4	7	5															

### (3) 評価

- ・計画的な設備投資、事業者による安全運行体制構築に向けた取組の実施により、安全運行が確保。
- ・数値目標の達成を継続するため、引き続き安全運行の確保に向けた取組の実施が必要。

### 3 課題と今後の方向性

#### (1) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、令和5年5月8日から「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になり、社会経済活動が正常化したものの、観光利用がコロナ禍前まで回復しておらず、観光利用の拡大に向けた取組の強化が必要。
- ・沿線人口の減少等により定期利用の減少が続いており、日常的な利用も含め、地域における一層の利用促進が必要。
- ・物価高騰等の影響を踏まえると経費を大幅に削減していくことは困難と見込まれることから、収支の改善には収益の拡大が重要であり、マイレール意識の醸成による沿線利用の拡大、観光を中心とした交流人口の拡大、各種企画の収益性の向上に向けた取組などが必要。

#### (2) 今後の方向性

##### ア 三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画の修正・変更

中間評価や社会動向の変化等を踏まえ、計画の修正・変更を検討する。

##### 【参考】

令和5年度から国の交付金である社会資本整備総合交付金の基幹事業に「地域公共交通再構築事業」が追加され、当該交付金にアクセスするためには三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画の変更及び鉄道事業再構築実施計画の再認定が必要。

当該交付金では、持続可能性・利便性・効率性の向上に資する施設整備が支援の対象とされていることから、三陸鉄道において有利に活用することができるか検討していく。

##### イ 外部専門家による経営支援

三陸鉄道の地域における価値の共有や収支改善を図るため、鉄道の専門家の知見を活用し、利便性向上施策の検討や運行体制等の最適化等を目指した経営支援を実施する。

##### 【外部専門家の想定】

- 京都大学名誉教授・富山大学特別研究教授（元富山大学副学長） 中川 大
  - ・富山県地域交通政策監、あいの風とやま鉄道取締役
  - ・「地方鉄道活性化支援プロジェクト」を実施し、地方鉄道の再生・活性化を目指す自治体や鉄道事業者を支援
- 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
  - ・東日本大震災津波からの三陸鉄道の復旧工事を実施
  - ・鉄道ホームドクター事業（ローカル鉄道再構築の取組に対する支援事業）により鉄道事業者・地方自治体等を支援

ウ 利用促進の取組の強化

- 令和6年度（2024年）の三陸鉄道の開業40周年にあわせて、記念企画やPR等を実施する。
- 三陸鉄道強化促進協議会による利用促進の取組を引き続き実施するとともに、事業内容については不断の見直しを行い、利用実績や収益性が向上するよう取り組む。

## 2-2 課題の整理

沿線地域の状況及び三陸鉄道をはじめとする公共交通の現況及び令和5年度に実施した中間評価を基に、本計画で対応すべき課題を整理する。

### <地域住民の利用環境>

#### 課題① 地域住民の生活行動ニーズに合わせたきめ細かいサービスの提供

- ✓ 三陸沿岸地域では、生産年齢人口や公立学校の児童・生徒数の減少とともに、公共交通の主な利用者である通勤・通学者数が将来的に大きく減少することが見込まれる。(現状でも、三陸鉄道の定期利用者は開業当初より大幅に減少している。)  
[P44]
- ✓ 住民から三陸鉄道等公共交通に対して重要度が高い項目として挙げられている、運行本数、運賃、乗り継ぎの待ち時間については、満足度が全ての項目で低くなっている。[P83]
- ✓ 三陸鉄道の利用者においても、運行本数、ダイヤ、乗り継ぎに改善要望が多く挙げられている。[P74]
- ✓ 公共交通が地域住民の生活移動手段として機能し、安定した利用を確保するためには、生活行動ニーズに合わせたきめ細かいサービスの提供が必要である。

#### 課題② 日常生活移動において自動車利用に過度に依存しない公共交通環境の整備

- ✓ 自動車保有台数は、三陸沿岸地域で人口減少に伴い減少傾向にある。しかし、日常の移動手段をみると、自動車の分担率が8~9割を占めており、鉄道利用は通勤・通学目的に限った場合でも約5%、バス利用は7%に留まっている。自動車への依存が高まっている。[P48, 80]
- ✓ 三陸鉄道と並行する三陸沿岸道路が全線で供用を開始した。三陸沿岸道路の全線供用により、自動車の速達性が三陸鉄道を上回る状況である。
- ✓ 日常生活移動において公共交通の利用を促進するためには、自動車利用に対し経済性や快適性で遜色がなく、利用価値のある公共交通網を構築することが必要である。

#### 課題③ 三陸鉄道とアクセス交通が連携した地域交通ネットワークの構築

- ✓ リアス式海岸の狭い平野部に人口が集中する地域特性により、三陸鉄道、JR山田線の駅1km圏及び接続するバス路線のバス停300m圏人口カバー率は、沿線自治体人口の約5割となっている。
- ✓ 三陸鉄道及びJR山田線代替バス利用者の2~3割においては、鉄道やバスからの乗り継ぎが認められており、特に買い物や通院ではバスとの乗り継ぎが多くなっている。
- ✓ 一方でバスの便数は多くなく、鉄道との接続性も十分に確保されていない。

- ✓ 利用者の改善要望、住民の満足度の低い項目としても、乗り継ぎが挙げられている。[P74～76]
- ✓ 鉄道とバス等との乗り継ぎの利便性を向上させるため、交通事業者間で利用しやすいダイヤ設定や運賃制度等、住民が望むような地域交通ネットワークを構築する必要がある。

#### 課題④ 高齢者が容易に利用できる環境の整備

- ✓ 三陸沿岸地域では、高齢化率が上昇しており、2050年には52%に達する見込となっている。[P43]
- ✓ 久慈駅や釜石駅、盛駅などでは駅舎外から改札口までのスロープ、岩泉小本駅や新田老駅、宮古駅でエレベーターの設置が行われているが、階段が特に多い普代駅、摂待駅、平田駅、跨線橋を越える必要がある久慈駅、綾里駅など、バリアフリー対策において課題がある。
- ✓ 三陸鉄道では、3割以上が60代以上の利用者であり、改善要望もバリアフリー等の高齢者対応が他の世代より多く挙げられている。[P71, 76]
- ✓ バス交通においては、令和4年度時点、県内のバス車両計502台のうち、ノンステップ車両は213台となっており、導入が拡大しているものの、半数には達していない状況となっている。
- ✓ 今後も高齢者による運転免許自主返納者は一定数が見込まれる。[P49]
- ✓ 車両や駅舎のバリアフリー化や二次アクセスの確保、乗り継ぎの利便性向上など、今後、地域住民の多くを占める高齢者が容易に公共交通を利用できる環境を構築する必要がある。

#### 課題⑤ 復興まちづくりに合わせた生活の移動手手段の確保

- ✓ 災害公営住宅や公立学校の復旧整備が完了するとともに、復興道路である三陸沿岸道路や、復興支援道路である宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線の整備完了し、沿岸部内及び沿岸部と内陸部間の所要時間が短縮された。[P51]
- ✓ 災害公営住宅入居者の生活の移動手手段を引き続き確保する必要がある。
- ✓ 市町村の復興まちづくりや、復興道路等の整備状況を踏まえた広域的なバス路線や便の見直しを行う必要がある。

#### 課題⑥ 鉄道駅における地域の生活拠点としての機能向上

- ✓ 県や市町村の復興計画において、駅を都市、地域の核としての機能を持たせた拠点として位置づけ、駅を中心としたまちづくりが進められた。[P56, 57]
- ✓ 現状で地域の交流拠点となる施設を併設する駅としては、観光協議会のある久慈駅、レストラン・カフェ等のある陸中野田駅、普代駅、公民館のある田野畑駅、役場支所のある岩泉小本駅、新田老駅、吉浜駅などが挙げられる。
- ✓ 駅を中心としたまちづくりにより、住民の生活利便性を高めるとともに、日常生

活や観光の目的地としての機能も有することで公共交通の利用促進にもつながることから、鉄道駅における地域の生活拠点としての機能向上を図る必要がある。

### <域外利用者の受入れ環境>

#### 課題⑦ 個人・団体ともに安定した観光需要の確保

- ✓ 新型コロナウイルス感染症により観光入込客数は減少していたものの、感染症が5類に移行したことなどに伴い、徐々に回復の兆しがみられる。[P52]
- ✓ 三陸沿岸道路の全線開通等により、沿岸各都市間や内陸との移動時間が大幅に短縮されたことに加え、国内及び外国船社クルーズ船の増加により、他地域との結びつきが強まっていることを活かし、交流人口の拡大につなげていく必要がある。
- ✓ 震災からの復興や観光に係る様々な動きとあわせ、多様な企画・プロモーションやエージェントへの積極的な働きかけ等により、観光利用の促進を図っていく必要がある。

#### 課題⑧ 外国人観光客が容易に利用できる環境の構築

- ✓ 三陸沿岸地域を訪れた外国人観光客数は、1万人を超えている。新型コロナウイルス感染症5類移行により、回復傾向が見られる。[P52]
- ✓ 大型客船の入港やみちのく潮風トレイルによる外国人観光客も増加している。
- ✓ 機会を捉え、外国人の観光利用を増やすため、地域の行政や民間企業と連携しながら、周遊の足となる公共交通において外国人等が利用しやすい環境を構築する必要がある。

#### 課題⑨ 乗車や利用が目的や楽しみとなる更なる工夫や企画

- ✓ 岩手県への旅行に求めるものとして「美味しいものを食べる」、「岩手の人と触れ合う」、「被災地を見る」等が挙げられており、三陸沿岸地域においても海の幸をはじめとした食や名所・旧跡の観光、復興ツーリズムなどのニーズが想定される。
- ✓ 三陸鉄道では、「夏のお座敷列車」、「冬のこたつ列車」、「ランチ&スイーツ列車」などの様々なイベント列車運行や、三陸鉄道スタディーツーリズム等に取り組んでいる。
- ✓ 三陸鉄道の利用を増やすための要素として、魅力ある企画列車の運行を住民の約半数以上、観光客でも約3割が挙げている。[P88]
- ✓ 三陸鉄道において観光目的での利用が多い現状も踏まえ、長時間の乗車であっても、乗車や利用そのものが目的や楽しみともなるような工夫や企画による利用者の確保が必要である。

#### 課題⑩ 広域幹線交通網と三陸鉄道が連携した広域交通ネットワークの構築

- ✓ クルーズ観光の活発化、復興道路・復興支援道路の整備（仙台空港、いわて花巻空

港とのアクセス改善) など、広域的な交通環境が大きく変化した。[P50, 51]

- ✓ 観光目的での三陸鉄道利用者の乗車前の交通手段として、観光バス利用が 46%と最も多いが、鉄道利用の割合も 22%と高く、鉄道間の接続が重要である。[P73]
- ✓ 広域的な鉄道間や都市間バス等との乗り継ぎの利便性を向上するため、地域交通と同様、交通事業者のみならず、行政間の協調・連携を強化し、利用しやすいダイヤ設定や運賃制度等、主に観光客を主眼とした広域交通ネットワークを構築する必要がある。

#### <地域の支援体制>

##### 課題⑪ 官民一体となった公共交通運営への財政支援

- ✓ 三陸鉄道の経常損益については、平成 6 年度から経常損失を計上。特に平成 14 年度以降は毎年 1 億円以上の損失となっており、県、市町村が様々な形で支援をしている状況である。[P89]
- ✓ 路線バスにおいては、自治体により赤字路線維持費補助制度による損失補填を行っている。
- ✓ 三陸鉄道をはじめとした公共交通の収支改善を図りつつ、維持運営にかかる財政支出を抑えながら、地域活力向上を牽引する持続可能性の高い公共交通網を維持確保するため、自治体においては公共交通支援財源の確保、公共交通の効率化（運行資源の有効活用や統合等）が必要である。

##### 課題⑫ 公共交通利用に対する住民意識の醸成

- ✓ 三陸沿岸地域の住民は、「日常の交通手段として」「観光資源として」「地域活性化の資源として」「地域のシンボルとして」といった理由で、約 7 割が三陸鉄道を必要だと思っている。[P86]
- ✓ 一方で、約 8 割が最近 1 年間、三陸鉄道を利用しておらず、必要性の認識と実際の利用のギャップが大きい状態となっている。[P81]
- ✓ 公共交通非利用者も含む沿線地域住民の公共交通利用の意識を醸成し、公共交通活性化につながる実際の利用や支援等を積極的に展開していくことが必要である。

#### <安全基盤>

##### 課題⑬ 車両や施設の計画的な更新

- ✓ 三陸鉄道のトンネル、橋りょう等について、建設時から 45 年経過しているものもあり、老朽化が進んでいる状況である。
- ✓ 軌道においても、レール締結装置や木マクラギの腐食が数多く確認され、通信ケーブルにおいても、経年劣化による絶縁不良等が確認されている。
- ✓ 三陸鉄道の車両・設備や軌道・電気・通信施設等の老朽化を防ぎ、列車の安全かつ

円滑な運行への支障を回避するため、これらを効果的・効率的に更新するための計画を定め、的確に更新していく必要がある。

#### 課題⑭ 運転士や技術職員等の確保、技術継承

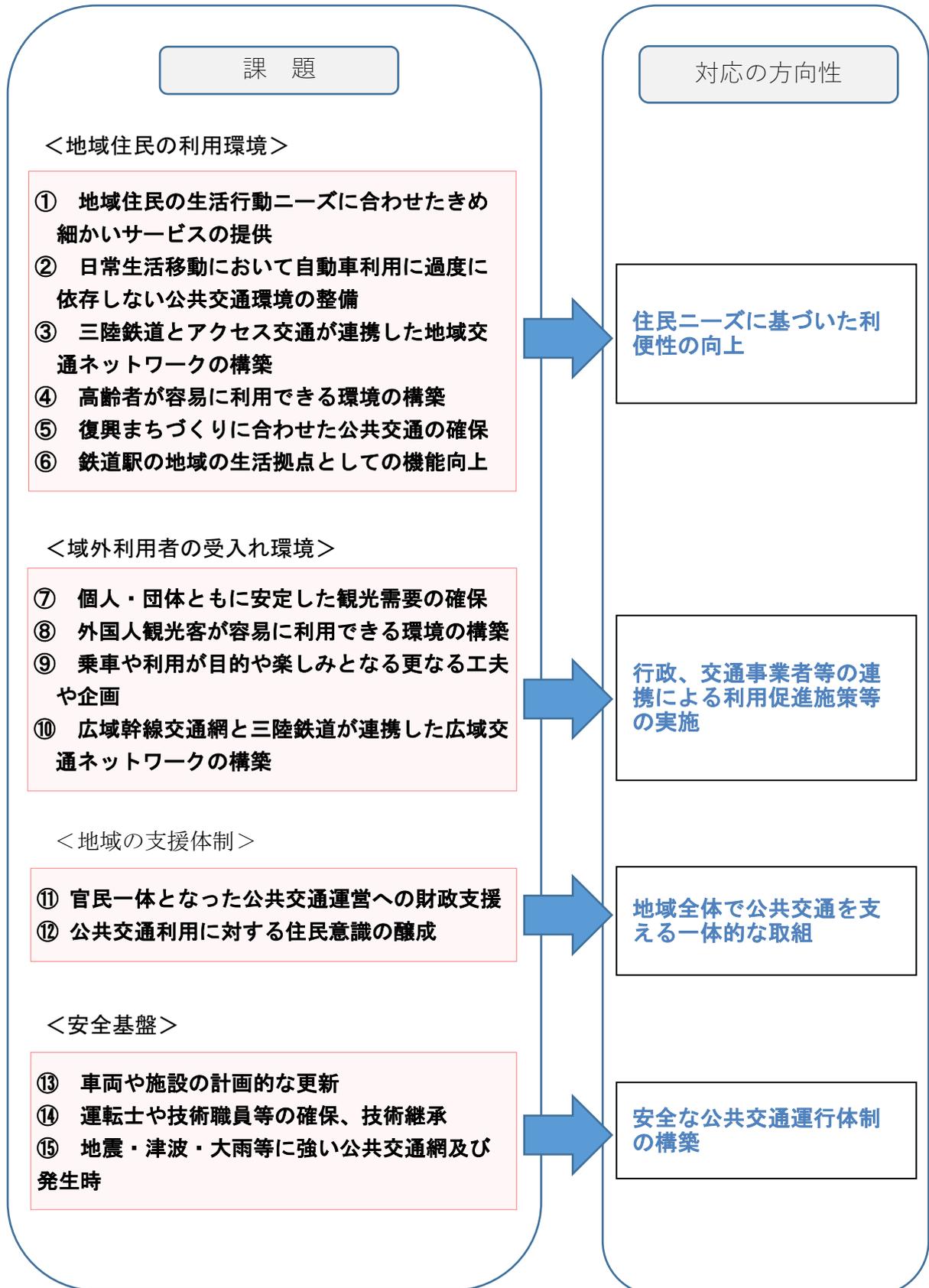
- ✓ 少子高齢化の進展に伴い、生産年齢層も減少が見込まれる。[P44]
- ✓ 三陸鉄道等公共交通の安全・快適な運行を持続的に提供するため、人口減少や若年層流出による運転士や技術職員の不足に対応する要員確保・育成の計画的実施、技術継承体制づくり、魅力ある雇用環境づくりを行なう必要がある。
- ✓ 三陸鉄道等の利用者による改善要望の中で、待遇についてはほとんど挙げられておらず、沿線住民のサービス満足度・重要度のいずれにおいても、乗務員・社員の待遇への評価も高くなっていることから、これらのサービス水準の維持・向上も重要である。[P74]

#### 課題⑮ 地震・津波・大雨等に強い公共交通網/発生時の円滑な対応への備え

- ✓ 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、死者・行方不明者 5 千人以上の甚大な被害を受けたが、三陸沿岸地域は歴史的に大規模な地震・津波災害が繰り返されてきた地域である。
- ✓ 近年、気候変動に伴う自然災害の発生頻度が高まり、鉄路を含め、災害が多発している。
- ✓ 災害時の連携体制、復旧体制など、災害時のネットワークの確保にも配慮し、災害に強い公共交通網を構築する必要がある。
- ✓ また、地震・津波等災害発生時にも円滑に乗客の安全を確保できるよう、また乗客への影響を最小限とできるよう、資機材の確保、防災訓練、BCP（Business continuity planning:事業継続計画）策定等の備えが必要である。

## 2-3 課題解決に向けた対応の方向性

前項で整理した課題に向けた対応の方向性を次のとおり示すもの。



## 第3章 基本方針、目標及び目標達成のために行う事業

### 3-1 基本方針

前章で整理した課題及び課題解決に向けた対応の方向性を踏まえ、三陸鉄道沿線地域等における公共交通網において、次のとおり基本方針を掲げる。

**基本方針1** 地域住民の生活の足として、利便性の高い有機的な公共交通網を形成する。

**基本方針2** 行政、交通事業者等が連携した利用促進施策を実施することにより、域外からの公共交通利用拡大を図る。

**基本方針3** 三陸鉄道及びバス事業者においては、県及び沿線市町村等の支援及び地域住民が利用し支えることにより、持続可能な運営体制を構築する。

**基本方針4** 安全運行体制の構築により、利用者に安心・安全を提供する。

### 3-2 計画の目標及び施策体系

前述の基本方針に即して、次のとおり目標を掲げる。

なお、目標の達成状況を明確にするため、現状値及び目標値を設定する。

#### 1 計画目標の評価指標

目標	数値指標	現状値 (R4年度)	目標値 (R10年度)	実施事業
<b>●基本方針1：地域住民の生活の足として、利便性の高い有機的な公共交通網を形成する。</b>				
【目標1】 地域の足としての役割の維持・向上	① 三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数 (沿岸12市町村において)	①11.4回	①12.5回	1 日常利用の増加に向けた利用促進 [拡充]
				2 高齢者や障がい者に対応した利用促進 [継続]
				3 通学生に対応した利用促進 [継続]
	② 県民意識調査における公共交通に対する満足度	②2.5点	②3.0点	4 公共交通利用の意識醸成 [継続]
				5 ユニバーサルデザインに対応した環境整備 [継続]
				6 八木沢・宮古短大駅アクセス路の整備【新規】
				7 沿線公共交通ネットワークの再編・強化 [継続]
<b>●基本方針2：行政、交通事業者等が連携した利用促進施策等を実施することにより、域外利用者が公共交通を利用したくなる環境を整備する。</b>				
【目標2】 三陸地域の公共交通における域外からの利用拡大	① 定期外利用者数（地元団体を除く） (三陸鉄道において)	①229千人	①450千人	8 域外からの観光誘客支援 [拡充]
				9 県・沿線等12市町村等の観光施策との連携 [拡充]
	【参考】 ② 宿泊者数 (延べ人数 県内全施設)	② 503.9万人泊	② 816.0万人泊	10 三陸鉄道を活用した経済交流・活性化の促進 [継続]
				11 復興道路・復興支援道路の整備に伴う公共交通の活用 [継続]
				12 交通DXによる地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性の向上 [拡充]
③ 外国人宿泊者数 (延べ人数 県内全施設)	③2.6万人泊	③59.2万人泊	13 いわて花巻空港の国際線と連携したインバウンドの誘客拡大【新規】	

目標	数値指標	現状値 (R4 年度)	目標値 (R10 年度)	実施事業
<b>●基本方針 3 : 三陸鉄道及びバス事業者においては、県及び沿線市町村等の支援及び地域住民が利用し支えることにより、持続可能な運営体制を構築する。</b>				
<b>【目標 3】</b> 持続可能な 運営体制の 構築	①最終損益 (三陸鉄道において)	① ▲ 806 千円	① 最終利益を確保 (各年度において概ね 収支均衡を達成)	14 設備投資等に対する財政支援 [継続]
	②定期 (通学・通勤) 及び 地元団体の利用者数 (三陸鉄道において)	②381 千人	②371 千人	15 路線バスの維持に係る財政支援 [継続]
	③平均乗車密度 (広域的・幹線的バス路線において)	③2.9 人	③3.2 人	16 市町村によるバス補助路線の広域的な代替交通の運行に対する支援 [継続]
				17 沿線市町による鉄道資産の保有 [継続]
				18 三陸鉄道を活用した地域内交流の推進 [継続]
<b>●基本方針 4 : 安全運行体制の構築により、利用者に安心・安全を提供する。</b>				
<b>【目標 4】</b> 安全運行の 確保	計画期間中の 事故件数 (三陸鉄道において)	0 件	0 件	19 計画的設備投資等の実施 [継続]
				22 安全運行体制の構築 [継続]

## 2 指標の算定方法と目標の設定方法

### 目標1 地域の足としての役割の維持・向上

#### 指標①三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数

公共交通の利用状況を示すものであり、路線の維持に直接的につながることを示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
11.4回	12.5回

#### 【指標の算定方法】

- ・各交通事業者からの報告を基に把握する。
- ・利用者数は三陸鉄道沿線地域等12市町村における、三陸鉄道、岩手県北自動車、岩手県交通、ジェイアールバス東北を対象にする。

#### 【目標の設定方法】

- ・前計画（三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画（2019～2029））の目標値を用いる。
- ・人口減少の影響を踏まえつつ、各施策の実施により、利用者の増加を目指すもの。

#### 指標②県民意識調査における公共交通に対する満足度

地域公共交通に対する満足度を充足することで、日常利用を促し、路線の維持につながることを示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
2.5点/5点	3.0点/5点

#### 【指標の算定方法】

- ・県で毎年度実施している「県の施策に関する県民意識調査」の中で、「鉄道、バスなどの公共交通機関が維持・確保されていること。」に対する満足度の値を用いる。
- ・値は沿線地域等12市町村のみを抽出し、指標とする。

#### 【目標の設定方法】

- ・前計画（三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画（2019～2029））の目標値を用いる。
- ・公共交通の利用者・非利用者を問わず、満足度5点満点中、3.0点を目指すもの。

## 目標2 三陸地域の公共交通における域外からの利用拡大

### 指標①定期外利用者数（地元団体を除く）

三陸鉄道の定期外利用者数により、域外の利用拡大を示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
229千人	450千人

#### 【指標の算定方法】

- ・三陸鉄道からの報告を基に把握する。
- ・定期外利用者数から地元団体（一般団体）利用者数を除いた値とする。

#### 【目標の設定方法】

- ・令和5年度の利用者数を基準とし、各種施策の実施により、利用拡大を目指すもの。
- ・目標値は再構築実施計画と整合を図る。

#### 【参考】

### 指標②宿泊者数（延べ人数・全施設）

県内の宿泊者数により、観光利用を示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
503.9万人泊	816.0万人泊

#### 【指標の算定方法】

- ・県内の宿泊施設の延べ宿泊者数を用いる。

#### 【目標の設定方法】

- ・県で策定した「みちのく岩手観光立県第4期基本計画（令和6年度～令和10年度）」の目標値を用いる。
- ・令和6年にコロナ禍前（平成31/令和元年）の水準まで回復させ、国の観光立国推進基本計画を参考にしながら、令和8年には719.8万人を目指す。また、令和9年及び10年についても同水準の毎年48.1万人延ばすこととし、本指標の目標値を816.0万人に設定。

### 指標③外国人宿泊者数（延べ人数・全施設）

県内の外国人宿泊者数により、インバウンドを示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
2.6万人泊	59.2万人泊

#### 【指標の算定方法】

- ・県内の宿泊施設の外国人延べ宿泊者数を用いる。

#### 【目標の設定方法】

- ・県で策定した「みちのく岩手観光立県第4期基本計画（令和6年度～令和10年度）」の目標値を用いる。
- ・令和6年にコロナ禍前（平成31/令和元年）の水準まで回復させ、国の観光立国推進基本計画を参考にしながら、令和8年には46.6万人を目指す。また、令和9年及び10年についても同水準の毎年6.3万人延ばすこととし、本指標の目標値を52.9万人に設定。

### 目標3 持続可能な運営体制の構築

#### 指標①最終損益

三陸鉄道の最終損益により、持続可能な運営体制を示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
▲806千円	最終利益を確保

##### 【指標の算定方法】

- ・三陸鉄道からの報告を基に把握する。

##### 【目標の設定方法】

- ・本計画に位置付ける事業の実施により利用者（収入）の増加を目指す。
- ・各年度において概ね収支均衡を目指す。

#### 指標②定期（通学・通勤）及び地元団体の利用者数

三陸鉄道の地域住民利用を指標にすることで、地元利用を示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
381千人	371千人

##### 【指標の算定方法】

- ・三陸鉄道からの報告を基に把握する。
- ・三陸鉄道の通学・通勤定期及び地元団体（一般団体）の利用者数を用いる。

##### 【目標の設定方法】

- ・今後も三陸鉄道沿線の生徒数は減少が見込まれる。
- ・令和5年度の利用者数を基準とし、各種施策の実施により、現状維持を図るもの。
- ・目標値は再構築実施計画と整合を図る。

#### 指標③平均乗車密度（広域的・幹線的バス路線）

バス路線の平均乗車密度により、持続可能な広域的なバス路線のネットワークが構築されていることを示す指標として設定。

現状値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
2.9人	3.2人

##### 【指標の算定方法】

- ・バス事業者からの報告を基に把握する。
- ・三陸鉄道沿線地域等12市町村の広域的・幹線的バス路線の値を用いる。

##### 【目標の設定方法】

- ・県で策定した「岩手県地域公共交通計画（2024～2028）」目標値を用いる。
- ・人口減少の影響を踏まえつつ、コロナ以前の水準への回復を目指すもの。

## 目標 4 安全運行の確保

### 指標①計画期間中の事故件数

三陸鉄道の事故件数により、安全運行を示す指標として設定。

現状値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
0 件	0 件

#### 【指標の算定方法】

- ・ 三陸鉄道からの報告を基に把握する。

#### 【目標の設定方法】

- ・ 安全運行体制の構築により、利用者に安心・安全を提供する。
- ・ 計画期間中において、事故件数 0 を継続するもの。

### 3-3 目標を達成するために行う事業及び実施主体等

前述の目標を達成するため、実施する事業、その実施主体及び実施時期を次のとおり定める。

#### 【目標1】地域の足としての役割の維持・向上

1 日常利用の増加に向けた利用促進【拡充】	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等12市町村
事業内容	<p>通勤、通学、通院、買い物等の日常的な利用者の増加に向け、地域公共交通を利用しやすい環境づくりや効果的な情報発信を行い、利用促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運行情報、利用情報の提供〔各交通事業者〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんてつアプリ、バスロケーションシステム運用等</li> </ul> </li> <li>○ 公共交通マップ、総合時刻表等の作成・配布〔市町村、各交通事業者〕</li> <li>○ 地域公共交通の乗り継ぎ環境の整備〔市町村、交通事業者〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続拠点やバス停におけるベンチ、案内板の設置などによる乗り継ぎ環境の整備・改善の実施</li> </ul> </li> <li>○ 運行ダイヤのパターンダイヤ化等〔三陸鉄道〕【新規】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行ダイヤのパターン化や増便等の利便性向上策を実施することにより、観光を目的とした沿線地域への訪問者や沿線住民の利用の拡大を図る</li> </ul> </li> </ul>
実施時期	2024～2028年度

2 高齢者や障がい者に対応した利用促進【継続】	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等12市町村
事業内容	<p>運転免許を返納した高齢者、障がい者など、公共交通に頼らざるを得ない利用者の需要に対応した利用促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者や障がい者等を対象とした利用促進策の実施〔市町村、各交通事業者〕 現在実施している主な取組は以下のとおり</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【主な取組事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許自主返納者に対する割引の実施〔三陸鉄道〕 65歳以上の運転免許返納者を対象に、三陸鉄道全線で料金半額</li> <li>・高齢者・運転免許返納者へのバス・タクシーチケット、利用助成券の交付など〔市町村〕</li> <li>・身体障がい者割引、精神障がい者割引の実施〔市町村、各交通事業者〕</li> </ul> </div>
実施時期	2024～2028年度

3 通学生に対応した利用促進 [継続]	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等 12 市町村
事業内容	<p>高校生など、公共交通に頼らざるを得ない利用者の需要に対応した利用促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通学者等のニーズに応じたダイヤの編成〔各交通事業者〕</li> <li>○ 被災地における通学定期購入費の助成〔県〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸 12 市町村に居住している生徒等の通学定期券購入費に対し助成することで、被災地における学びを支援し運賃における利便性の向上を図る</li> <li>・ 対象交通機関：三陸鉄道、岩手県交通、岩手県北自動車、JR バス東北</li> <li>・ 補助金額：通学定期購入費の 1/2（震災遺児・孤児は 2/3）</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A[県] -- "④助成金交付" --&gt; B[三陸鉄道・バス事業者]     B -- "②通学定期券の販売" --&gt; C[生徒&lt;br/&gt;(保護者)]     C -- "①通学定期運賃の1/2の額を支払い" --&gt; B     B -. "③実績報告" .-&gt; A     </pre> <p>※ 遺児・孤児は1/3の額を支払い</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通学生を対象とした利用促進策の実施〔市町村、交通事業者〕</li> </ul> <p>現在実施している主な取組は以下のとおり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【主な取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R 山田線の通学定期券購入費用の一部を地域商品券で助成〔宮古市〕</li> <li>・ 三陸鉄道で村内高等学校に通学する高校生の定期券購入費を助成〔野田村〕</li> </ul> </div>
実施時期	2024～2028 年度 ※被災地通学支援事業は 2027 年まで（2028 年度以降の継続可否については、財源と併せて検討するもの。）

4 公共交通利用の意識醸成 [継続]	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等 12 市町村
事業内容	<p>通勤、通学、通院、買い物など日常的な公共交通利用を働きかけるため、地域住民の地域公共交通に対する意識醸成や利用促進に向けて、モビリティマネジメントの取り組みを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共交通スマートチャレンジ月間による県民意識の醸成、利用促進〔県〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通の利用促進及び環境負荷の軽減を図る「公共交通スマートチャレンジ月間」を実施、参加企業や実施期間の拡大、効果的な周知を実施</li> </ul> </li> <li>○ 市町村によるモビリティマネジメントの実施等に対する支援〔県〕 （地域公共交通活性化推進事業費補助 補助率 1/2 補助上限 500 万円）</li> <li>○ 公共交通利用の意識醸成に向けた取組の実施〔国、県、市町村、各事業者〕</li> </ul> <p>現在実施している主な取組は以下のとおり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【主な取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おでかけ交通博の開催〔国〕</li> <li>・ 職員向け利用促進デーの実施〔宮古市〕</li> <li>・ 高校生対象の公共交通の維持存続に関するワークショップの開催〔久慈市〕</li> <li>・ 広報誌等による公共交通利用の意識啓発の実施〔各市町村〕</li> </ul> </div>
実施時期	2024～2028 年度

5 ユニバーサルデザインに対応した環境整備 [継続]	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等 12 市町村
事業内容	<p>全ての人が移動しやすい環境を整備するため、ノンステップバスの導入や主要な接続拠点である駅におけるバリアフリー環境の構築を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノンステップバス等の導入推進 [バス事業者]</li> <li>○ ノンステップバス等の導入に対する支援 [国、県]</li> <li>○ 鉄道駅のバリアフリー環境の構築 [鉄道事業者]</li> <li>○ バリアフリー環境の構築に対する支援 [県、市町村]</li> </ul> <p>(公共交通バリアフリー化設備等整備費補助 補助率 1/2 上限エレベーター 1 基あたり 10,000 千円)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>▲宮古駅構内のバリアフリー化 (2024 年 3 月供用開始)</p>
実施時期	2024～2028 年度

6 八木沢・宮古短大駅アクセス路の整備【新規】 ※鉄道事業再構築事業	
実施主体	三陸鉄道、宮古市
事業内容	<p>沿線の住宅地や大学等の教育機関からの駅へのアクセスを向上させるため、駅施設へのアプローチ等の環境の整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八木沢・宮古短大駅アクセス路整備事業 [三陸鉄道、宮古市] <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31 年 3 月に開業した八木沢・宮古短大駅のホームは八木沢地区側に設置されており、河南地区側からアクセスしにくい状況である。河南地区側からの利用者は、最寄りの竹洞踏切へ迂回する必要がある、不便を強いられている</li> <li>・ホームの南側に踏切を設置することにより、河南地区側からのアクセスを容易にする</li> <li>・本事業は、鉄道事業再構築実施計画に位置付け、鉄道事業再構築事業として実施する</li> </ul> </li> </ul>
実施時期	2024 年度：用地取得、2025 年度：工事

7 沿線公共交通ネットワークの再編・強化 [継続]	
実施主体	沿線等 12 市町村、県、各交通事業者
事業内容	<p>人口減少による地域公共交通に対する需要の減少や、国庫補助の特例措置終了等を見据え、地域の特性や需要等に合わせた持続性の高い地域公共交通ネットワークへの見直しや、支援の在り方について検討する。</p> <p>○ 広域幹線路線と地域内バス路線との接続〔交通事業者、市町村〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係市町村において広域幹線路線（三陸鉄道、JR 線、都市間急行バス）と地域内バス路線との接続に配慮したバス路線の再編等を実施する。</li> </ul> <p>○ 復興まちづくりに合わせた移動手段の確保〔交通事業者、市町村〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災からの復興において、関係市町村が実施した駅に近接した公共施設や災害公営住宅の整備、駅周辺での土地区画整理事業により、駅を中心としたまちづくりを推進する</li> <li>・ 国庫補助の特例措置終了等を見据え、地域の特性や需要等に合わせた持続性の高い地域公共交通ネットワークの見直しや支援の在り方について検討</li> <li>・ 広域幹線路線（三陸鉄道、JR 線、都市間急行バス）と地域内バス路線との接続に配慮したバス路線の再編等を実施</li> </ul> <p>※沿線地域等公共交通ネットワークを立体的に捉える上で、三陸鉄道の駅を次のとおり分類するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●主要拠点駅 4 駅（久慈駅、宮古駅、釜石駅、盛駅） <ul style="list-style-type: none"> <li>→JR 線との接続（八戸線、大船渡線（BRT）、山田線（盛岡・宮古間）、釜石線）</li> <li>→広域バスとの接続（スワロー号、106 急行等）</li> <li>→地域内バス（支線）との接続</li> </ul> </li> <li>●地域拠点駅 12 駅（陸中野田駅、普代駅、田野畑駅、島越駅、岩泉小本駅、新田老駅、陸中山田駅、大槌駅、鶴住居駅、平田駅、唐丹駅、綾里駅） <ul style="list-style-type: none"> <li>→地域内バス（支線）との接続</li> </ul> </li> <li>●上記以外の駅 <ul style="list-style-type: none"> <li>→上記拠点駅へのアクセス</li> </ul> </li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度

**【目標2】 三陸地域の公共交通における域外からの利用拡大**

8 域外からの観光誘客支援 [拡充]	
実施主体	県、沿線等 12 市町村、三陸鉄道
事業内容	<p>県と沿線等 12 市町村は、「岩手県三陸鉄道強化促進協議会」を通じて、三陸鉄道が行う誘客施策を支援する。(事業費の負担及び施策の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三陸鉄道の広報・宣伝等支援 (インターネットを活用した情報発信の強化等)</li> <li>○ 企画列車への観光ガイド (なもみ等) を派遣</li> <li>○ 三陸鉄道の旅行商品造成支援 (かいけつゾロリ列車等)</li> <li>○ 利用者補助制度等の実施 (旅行代理店などを通じた団体利用に対し割引等)</li> <li>○ インバウンドの誘客拡大に向けた多言語標記や情報発信を実施【新規】</li> <li>○ 観光客に人気のあるレトロ列車やお座敷列車を有効活用するため、これまで実施してきた企画列車の提供サービス、料金設定等において、その魅力を最大限に発揮し、付加価値を高める【新規】</li> <li>○ 国内外のクルーズ船寄港時の鉄道・バスを組み合わせたオプションツアーの実施【新規】</li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度

9 県・沿線等 12 市町村等の観光施策との連携 [拡充]	
実施主体	県、沿線等 12 市町村、各交通事業者
事業内容	<p>県と沿線等 12 市町村は、観光施策において三陸鉄道をはじめとした交通事業者の利活用策を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県、沿線等市町村におけるお祭りやイベントに併せた臨時列車等の運行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三陸鉄道による「ジョイフルよ市きっぷ」など</li> <li>・ JR による宮古市内イベントに合わせた臨時列車 (盛岡～宮古間) の運行 等</li> </ul> </li> <li>○ 沿線の観光施設と一体となった周遊フリーチケット等を販売し、沿線地域に初めて訪れる利用者の満足度と継続した利用の実現可能性を高める【新規】</li> <li>○ 沿線関係団体 (観光協会、NPO 等) との連携による企画列車等の造成 (グリーン・ブルーツーリズム、ジオパーク、食、アニメツーリズム等)</li> </ul> <p>※三陸鉄道においては、「岩手県三陸鉄道強化促進協議会」事業費による支援</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>公共交通学習列車 (久慈市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>宮古毛ガニまつりツアー (宮古市)</p> </div> </div>
実施時期	2024～2028 年度

10 三陸鉄道を活用した経済交流・活性化の促進 [継続]	
実施主体	三陸鉄道、県、沿線等 12 市町村、沿線住民、関連事業者
事業内容	<p>三陸鉄道という地域資源を活用し地域外との交流を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 復興支援で新たに繋がった企業等との連携による企画列車等の運行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かいけつゾロリ列車（夏休み期間）</li> <li>・ベアレンビール列車</li> <li>・くずまきワイン列車</li> <li>・アサヒスーパードライ号 等</li> </ul> </li> <li>○ 地場企業等と域外企業等との連携による商品開発と発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読売新聞との連携による沿線の特産品等の紹介を掲載する大型広告</li> <li>・三鉄ギフトの販売（夏・冬）</li> <li>・地場企業等との商品開発（三鉄アイス・三鉄プレミアムラガー等）</li> </ul> </li> <li>○ JR 東日本との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北本線リアス号（三鉄車両の東北本線乗り入れ）</li> <li>・さんりくりアス号（旧山田線での相互乗り入れ）</li> </ul> </li> <li>○ ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドマーク（ブラザー工業、KDD I 等）</li> <li>・ラッピング（イオン東北、東北銀行等）</li> </ul> </li> <li>○ 「ふるさと岩手応援寄附（ふるさと納税）」 の継続により、全国からの三鉄支援の輪を広げる</li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度

11 復興道路・復興支援道路の整備に伴う公共交通の活用 [継続]	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等 12 市町村
事業内容	<p>沿岸地域の復興道路・復興支援道路の整備により移動時間が大きく短縮された。北は八戸エリア、南は仙台エリア等から自家用車及びバス利用の観光客の増加が期待される。また、県内陸部（盛岡及び花巻エリア等）から沿岸部への、県外観光客の沿岸部への観光客増加も期待されるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 域外エリアに対する三陸鉄道企画列車等の周知を強化</li> <li>○ 自家用車利用者向けの利便性向上（パークアンドライドの利用等）</li> <li>○ 沿岸地域の都市間移動が容易になることによる、新たなバス周遊ルートの設定・周知</li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度



12 交通DXによる地域公共交通の利便性・持続可能性・生産性の向上〔継続〕	
実施主体	各交通事業者、県、沿線等 12 市町村、連携事業者
事業内容	<p>新技術の活用による運行の効率性の向上や、データを活用した路線や便の見直しによる持続可能性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新技術を活用した地域公共交通の課題解決の検討・実施〔市町村、交通事業者、連携事業者〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のデータ収集と利便性の向上を図るため、企画列車等の乗車券を購入できる予約・決済システム等の導入を検討する【新規】</li> <li>・現在実施している主な取組は以下のとおり</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【主な取組事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんてつアプリの導入による車両位置情報等の表示〔三陸鉄道〕</li> <li>・バスロケーションシステムの導入〔バス事業者〕</li> <li>・北いわて MaaS の展開（鉄道事業者、バス事業者、観光・飲食事業者等）</li> <li>・TOHOKU MaaS の展開（鉄道事業者、バス事業者、観光・飲食事業者等）</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運行情報、利用情報の提供（さんてつアプリ、バスロケシステム運用等）</li> <li>○ 市町村が行う新技術を活用した地域公共交通の実証運行等に対する支援〔県〕 （地域公共交通活性化推進事業費補助 補助率 1/2 補助上限額 500 万円） ※一定条件のもと 750 万円</li> <li>○ 交通系 IC カードの導入推進〔交通事業者〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通系 IC カードの導入拡大による利便性の向上</li> </ul> </li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度

13 いわて花巻空港の国際線と連携したインバウンドの誘客拡大〔拡充〕	
実施主体	県、沿線等 12 市町村、各交通事業者
事業内容	<p>近年増加している訪日外国人旅行者に対応した取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海外に向けた三陸鉄道の情報発信〔県、市町村、交通事業者〕</li> <li>○ 海外旅行会社への三陸鉄道の利用や三陸地域の旅行商品の造成の働きかけ</li> <li>○ 外国人受入れ体制の整備〔鉄道事業者、市町村〕【新規】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅構内や駅前広場にピクトグラム等の案内標識を設置することによる利用者の観光地や医療施設、教育施設等への円滑な移動をするための取り組みを進める</li> <li>・外国のオンライン旅行サイトや SNS 等による情報発信の強化、観光地の最寄り駅に多言語案内標識を設置することなどにより、インバウンドが利用しやすい環境整備を促進する</li> <li>・ホームページ等の WEB コンテンツの多言語化や情報発信を強化し、台湾便の再開や大型クルーズ船の寄港、みちのく潮風トレイルにより沿線地域へ訪れるインバウンドの取込みを図る</li> </ul> </li> </ul>
実施時期	2019～2028 年度

### 【目標3】持続可能な運営体制の構築

14 設備投資等に対する財政支援 [継続]	
実施主体	県、沿線等 12 市町村、国
事業内容	<p>三陸鉄道が行う老朽施設等の更新に係る設備投資等に対する財政支援を実施。</p> <p><b>【設備投資の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全輸送整備等整備事業費補助（補助率：国 1/2、県 1/4、市町村 1/4*） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三陸鉄道が行うトンネル、橋梁、信号・通信設備等の整備等費用に対して補助を実施</li> <li>※釜石市及び大船渡市は財政力指数 0.46 以上に伴い、補助率 1/3 ずつ</li> <li>・ 鉄道の老朽施設の更新には多額の費用が必要になることから、従来の鉄道軌道安全輸送設備事業から令和 5 年度に社会資本整備総合交付金の基幹事業に新たに追加された地域公共交通再構築事業の活用など、安定的な財源の確保を図る</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【設備の修繕・維持管理費用の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 設備維持補助金（補助率：県 1/2、市町村 1/2）</li> </ul> <p>三陸鉄道が行う鉄道施設・車両に係る修繕・維持管理費用（修繕費、維持管理に係る人件費相当額、土木構造物保険料及び構築物等に係る固定資産税）への補助</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><b>【第2白浜トンネル(H29点検時)】</b> アーチからの漏水状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><b>【第2普代川橋梁(H29点検時)】</b> 塗膜劣化状況</p> </div> </div>
実施時期	2024～2028 年度
備考	県・沿線等 12 市町村による三陸鉄道への直接補助

15 路線バスの維持に係る財政支援 [継続]	
実施主体	県、沿線等 12 市町村、国
事業内容	<p>複数市町村にまたがるバス路線（広域的・幹線的路線）の収支欠損分に対する補填を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国・県協調補助路線（補助率：国 1/2、県 1/2）</li> <li>○ 県・市町村補助路線（補助率：県 1/2、市町村 1/2）</li> </ul>
実施時期	2024～2028 年度
備考	県・市町村補助路線の補助要件は、平均乗車密度が 4 人以上であること等

16 市町村によるバス補助路線の広域的な代替交通の運行に対する支援 [継続]	
実施主体	県
事業内容	<p>廃止された補助路線の広域的な代替路線を確保する市町村に対して、県が補助を行うもの。</p> <p>○ 地域バス交通等支援事業費補助（人口減少対策路線確保事業） 補助率：1/2、補助上限額：225万円</p>
実施時期	2024～2028年度

17 沿線市町村による鉄道資産の保有 [継続] ※ 鉄道事業再構築事業	
実施主体	三陸鉄道、沿線 10 市町村
事業内容	三陸鉄道から沿線 10 市町村に無償譲渡された鉄道用地及び一部の鉄道施設を継続して保有。三陸鉄道の経営を支援（三陸鉄道の固定資産税負担を回避）
実施時期	2024～2028年度
備考	県・沿線等 12 市町村による三陸鉄道への直接補助

18 三陸鉄道を活用した地域内交流の推進 [継続]	
実施主体	三陸鉄道、県、沿線等 12 市町村、沿線住民
事業内容	<p>三陸鉄道という地域資源を地元住民が活用することで、地域内の交流を促進するとともに三陸鉄道を支える</p> <p>○ 地元利用者補助制度の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元団体利用者（8名以上）に対する運賃半額</li> <li>・ 地元利用者の列車運賃貸切利用料を半額補助 等</li> </ul> <p>○ 園児お絵かき遠足列車運行支援</p> <p>○ 地域密着型企画列車運行支援（各種まつりに併せた企画列車等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通学習列車（出発進行おおのっ子号）、ジョイフルよ市きっぷ、客船「飛鳥Ⅱ」を見に行こう！列車 等</li> </ul> <p>○ さんてつアプリの運用</p> <p>○ 新・マイレール 30 万人運動の実施</p> <p>SNS、さんてつアプリ、三鉄ファンクラブ等を活用した三陸鉄道応援企画として、「新・30 万人運動」を展開</p>
実施時期	2024～2028年度
備考	「岩手県三陸鉄道強化促進協議会」事業費による支援

**路線バス久慈大野線・三陸鉄道利用促進事業「帰って守ろう！公共交通」**

**出発進行おおのっ子号！**

～公共交通学習列車～

路線バス久慈大野線と三陸鉄道を結び、三陸鉄道から三陸鉄道に乗り継ぎ、三陸海沿いを走るツアーを予定しています。旅費を兼ねながら、乗車記念ゲームを楽しもう。さらには「久慈駅到着後、「運命列車」の発生など、盛りだくさんの内容となっています。このチャンス、参加しなかつたら後悔します！

**期日** 平成 29 年 6 月 24 日 (土曜日)

**料金** 通常のバス運賃のみ 860 円 (途中大野駅 ⇨ 久慈駅の乗車)

**乗車定員** 先着 30 人限定 ※先着順に申し込んでください。

**申込締切** 平成 29 年 6 月 20 日 (火曜日) まで

**行 程** ① 三陸鉄道 久慈駅発 大野駅行 行きます。

9:00 途中大野駅 (途中のバスで無事乗車) ⇨ 9:50 久慈駅着

10:00 久慈駅発 (三陸鉄道) ⇨ 車中 乗車記念ゲームと昼食 ⇨ 最終駅到着後 ⇨ 12:00 久慈駅着 ⇨ 12:15 乗降場を降参 ② 大野駅着

13:30 久慈駅発 (途中のバスで無事乗車) ⇨ 14:20 途中大野駅着

**乗車準備物** 乗車 (車に乗り、飲み物など)

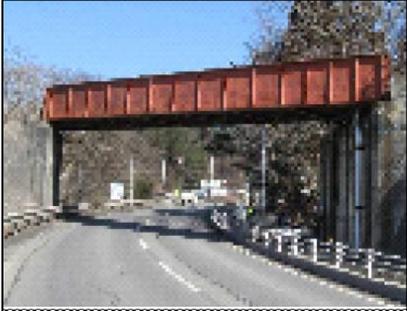
**【参加者特典】**

- 1 三陸鉄道 久慈駅到着記念乗車 (運賃無料) 6 車程乗車券 1 冊！
- 2 参加者全員に三陸鉄道 さんてつアプリをプレゼント！
- 3 参加者全員に三陸鉄道 列車用 LED ライト付ミニホルダーをプレゼント！

主催：洋野町・久慈市 共催：岩手県三陸鉄道強化促進協議会  
【問い合わせ先：洋野町役場 企画課 電話 77-2111 担当：奥山】

## 【目標4】安全運行の確保

19 安全運行体制の構築 [継続]	
実施主体	三陸鉄道
事業内容	<p>三陸鉄道の安全運行体制の構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的な人材採用を実施 (運転士や技術者など専門性の高い人材の育成には時間を要するもの。)</li> <li>○ 安全運行確保のための訓練・人材育成等(各種研修、災害時対応訓練等)を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月、部門ごとに勉強会を開催</li> <li>・ 東北鉄道協会主催の研修に参加(運転、車両、土木、電気の各部門)</li> <li>・ 鉄道運転協会の指導者講習会に参加</li> <li>・ 安全管理委員会の定例開催(年4回)、安全総点検の実施</li> <li>・ 実車を用いての異常時運転取扱訓練会の実施(年1回) 例) 地震・津波、列車火災、テロ等を想定</li> </ul> </li> </ul> <p>【参考：バス事業者において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠時無呼吸症候群簡易検査の実施</li> <li>・ 事故惹起者への再発防止</li> <li>・ 運転士教習事前研修会 等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 踏切事故防止運動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブや町内会などの高齢者向けにチラシ、グッズなどを配布</li> <li>・ 春・秋の全国交通安全運動に併せたキャンペーンの実施 等</li> </ul> </li> </ul>
	
	踏切訓練会の様子
実施時期	2024～2028 年度

20 計画的な設備投資等の実施 [継続]	
実施主体	三陸鉄道、沿線 10 市町村、県
事業内容	<p>三陸鉄道の老朽施設等について、計画的な施設の更新を実施する。</p> <p><b>【主な設備投資項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 橋りょう改修（高欄改修、断面改修等）</li> <li>○ トンネル改修（漏水対策工等）</li> <li>○ 設備改修（ATS-PS 新設、通信ケーブル更新、風速計新設等）</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p><b>【第2白浜トンネル(H29点検時)】</b> 軌間内に漏水</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><b>【十三塚架道橋】</b> 塗膜劣化状況</p> </div> </div>
実施時期	2024～2028 年度
備考	「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業」による財政支援を実施

## 第4章 計画の達成状況の評価

### 4-1 評価方法

計画期間の最終年度に前章で定めた目標値と実績値を比較し、目標達成状況进行评估する。  
また、実施事業に対する評価は、事業実施状況を把握し、目標に対して効果的に実施できているか等について、PDCA サイクルに基づき毎年度評価を行うこととする。

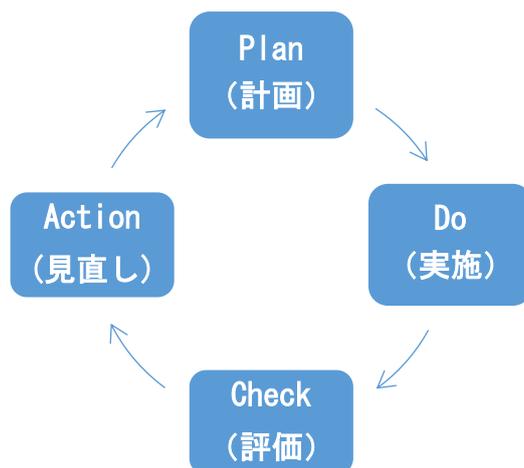


図4 実施事業の推進に係る PDCA サイクル

### 4-2 実施体制

毎年度開催する三陸鉄道沿線地域等公共交通活性化協議会（参考資料を参照）において、実績の評価を行う。

実施項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
施策の検証	○	○	○	○	○
指標のモニタリング	○	○	○	○	○
計画の全体評価					○
次期計画の検討					○

## 第5章 三陸鉄道沿線地域等の概況

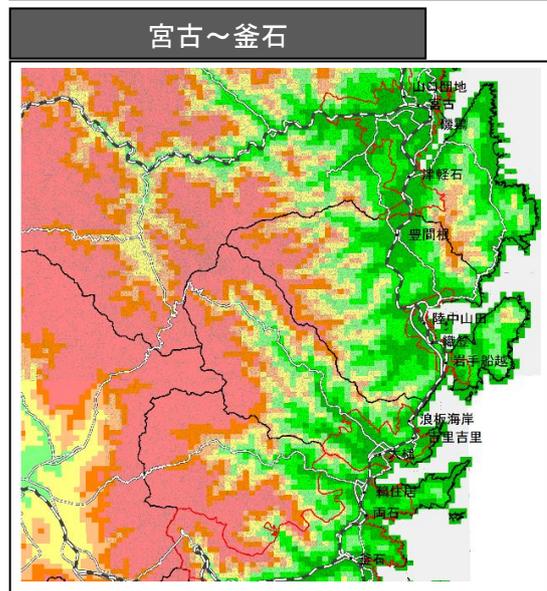
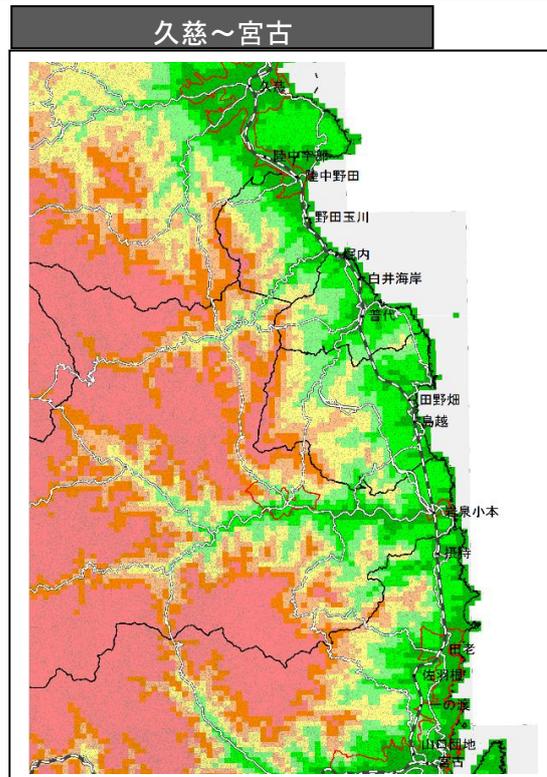
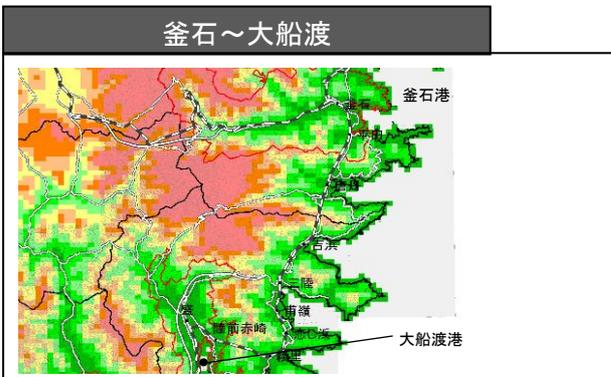
### 5-1 沿線地域の特性

三陸沿岸地域は、本州最東端に位置し、北は洋野町から南は陸前高田市までの南北に長い地域であり、リアス式海岸と山地に囲まれた狭小な平地部に人口が集中し、主に久慈駅、宮古駅、釜石駅、盛駅などの周辺に市街地が分布している。

地域の総面積は約5千km<sup>2</sup>であり、風光明媚な陸中海岸や天然の良港、さらには世界的な漁場等の豊かな自然環境に恵まれた地域である。このような地理的利点を活かした水産業のほかにも、精密機械関連産業や鉄鋼業、セメント製造業等の産業が立地しているとともに、本県内陸地域等で生産された工業製品の積み出し港となる4つの重要港湾を有し、陸海の交通ネットワークを形成している地域でもある。

また、海岸線の総延長は708kmにおよび、国内ではほとんど類例を見ないほどの変化に富んだ美しい海蝕景観を形成するリアス式海岸となっており、ほぼ全域が陸中海岸国立公園に指定されている。

一方で、地震及び津波の多い地域でもあり、平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、死者（関連死含む）・行方不明者6千人以上の甚大な被害を受けた。



凡例	
	道路(県道以上)
	鉄道
	都市計画区域
	市町村界
	標高600m以上
	500～600m
	400～500m
	300～400m
	200～300m
	100～200m
	標高100m未満

図5 三陸沿岸地域の地勢図 出典：国土数値情報（H23）

## 5-2 人口減少・少子高齢化の動向

### (1) 年齢階層別人口・高齢化率の推移

三陸沿岸地域の人口は、三陸鉄道の開業時から比較して著しく減少しており、1980年の約37万人から、2020年には約23万人と約4割減少している。

2020年の国勢調査による年齢3区分別人口は、15歳未満の年少人口の構成比が9.9%、15歳～64歳の生産年齢人口の構成比が51.5%、65歳以上の高齢者の人口構成比が38.7%となっている。65歳以上の高齢者の人口構成比が1980年の9.9%から2020年には38.7%まで上昇し、高齢化率が高水準で推移している。

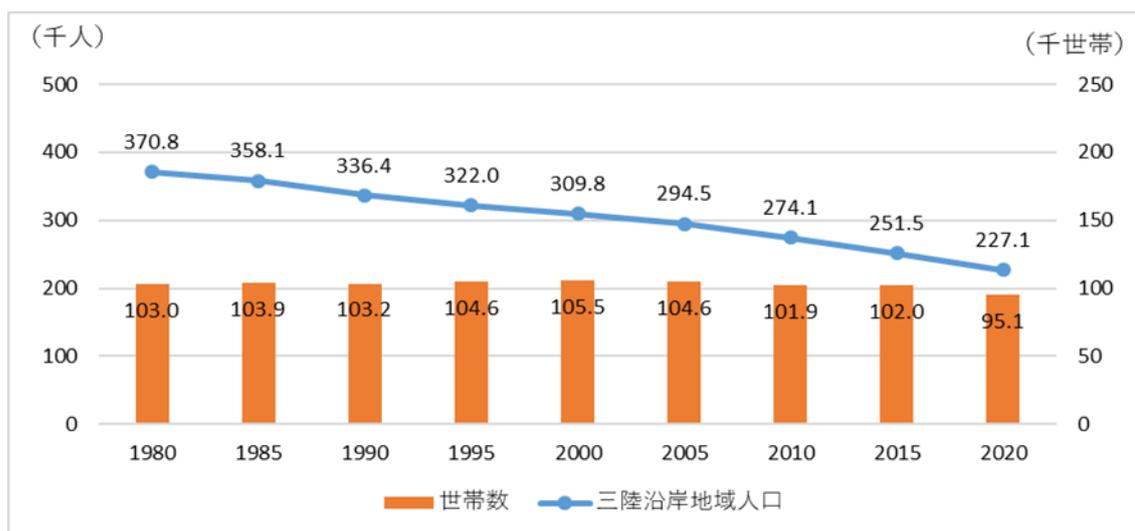


図6 人口・世帯数の推移【三陸沿岸地域】

出典：国勢調査（S55～R2）

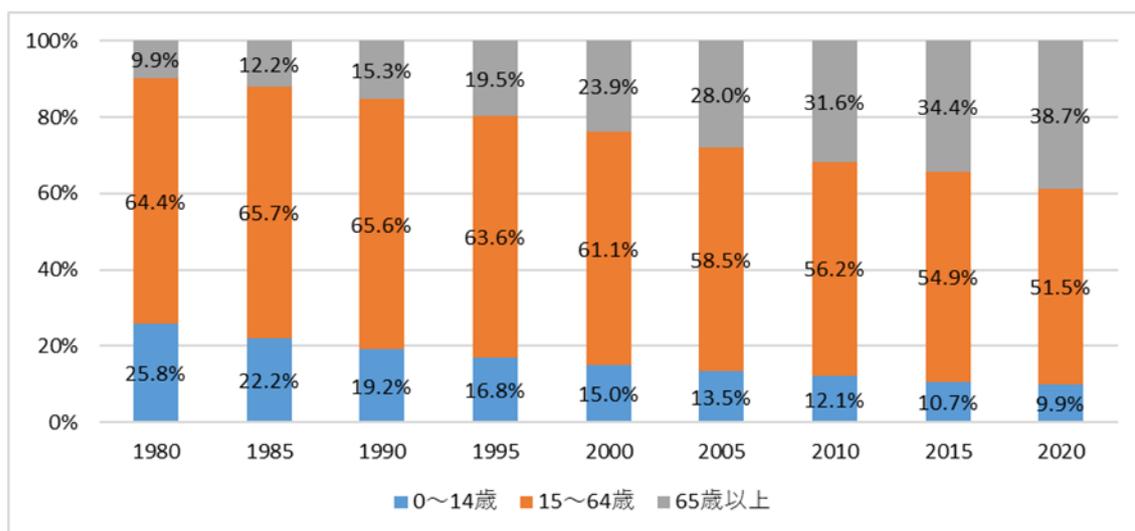


図7 年齢階層別人口の推移【三陸沿岸地域】

出典：国勢調査（S55～R2）

## (2) 将来人口の推計

三陸沿岸地域の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計では減少を続け 2050 年には約 11.7 万人まで落ち込む予測となっている。

また、人口構成の推移では、15 歳未満の年少人口の構成比は、1980 年は 25.8%であったが、2050 年には 6.5%まで低下すると推計されている。一方、65 歳以上の高齢者の人口構成比は、1980 年では 9.9%であったが、2050 年には 52.2%まで増加すると推計されている。

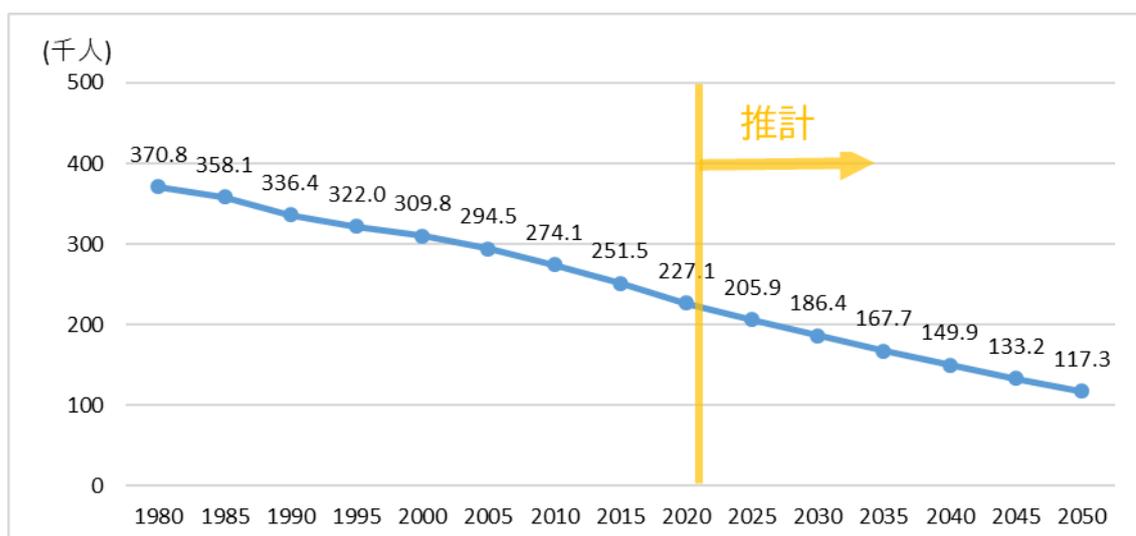


図8 人口の推移と今後の推計【三陸沿岸地域】

出典：国勢調査（1980～2020）、国立社会保障・人口問題研究所推計値（2025～）

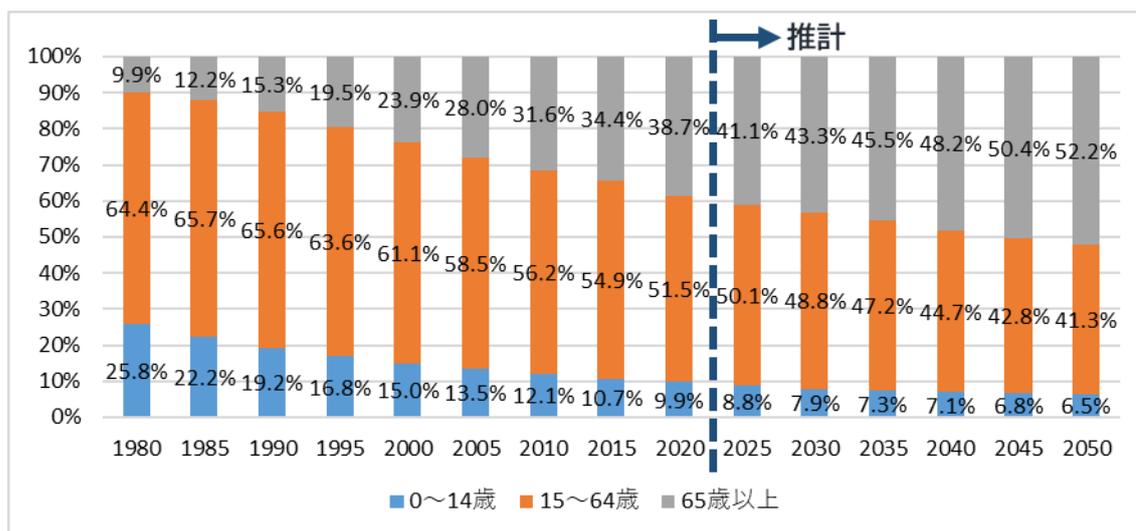


図9 人口構成の推移と今後の推計【三陸沿岸地域】

出典：国勢調査（1980～2020）、国立社会保障・人口問題研究所推計値（2025～）

### (3) 公立学校児童・生徒数の推移

三陸沿岸地域の公立学校児童・生徒数は、直近の10年で約3割減少しており、将来的にも更なる年少人口の減少が見込まれる。

また、三陸沿岸地域には、2つの大学（短大・一部の学部を含む）が宮古市に、専門学校が釜石市と宮古市にそれぞれ1校立地している。

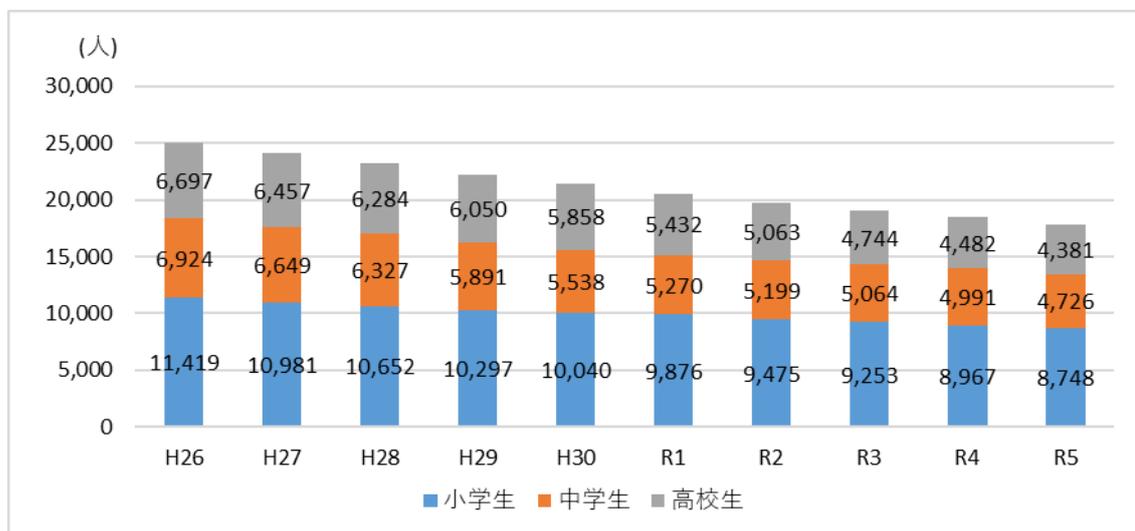


図10 公立学校児童・生徒数（小学校・中学校・高校）の推移【三陸沿岸地域】

出典：岩手県教育委員会 HP

表1 大学・専門学校の令和6年度募集人員【三陸沿岸地域】

市町村	学校名	募集人員（人）
宮古市	岩手県立大学宮古短期大学部	100
	国立宮古海上技術短期大学	45
	岩手県立宮古高等看護学院	32
釜石市	釜石市国際外語大学校	40

出典：岩手県立大学 HP、国立宮古海上技術短期大学 HP、岩手県立宮古高等看護学院 HP、釜石市国際外語大学校 HP

## 5-3 通勤、通学等の流動

### (1) 通勤の流動

通勤について、北リアス線沿線では、久慈市は自市内、野田村、普代村からの流動、岩泉町と田野畑村及び宮古市間の流動、南リアス線沿線では、釜石市、大船渡市とも、自市内での流動、J R山田線沿線では、宮古市は自市内、山田町からの流動、釜石市は自市内、大槌町からの流動が多くなっている。特に、昼夜間人口比率が100%を超える久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市への他町村からの流動が顕著である。

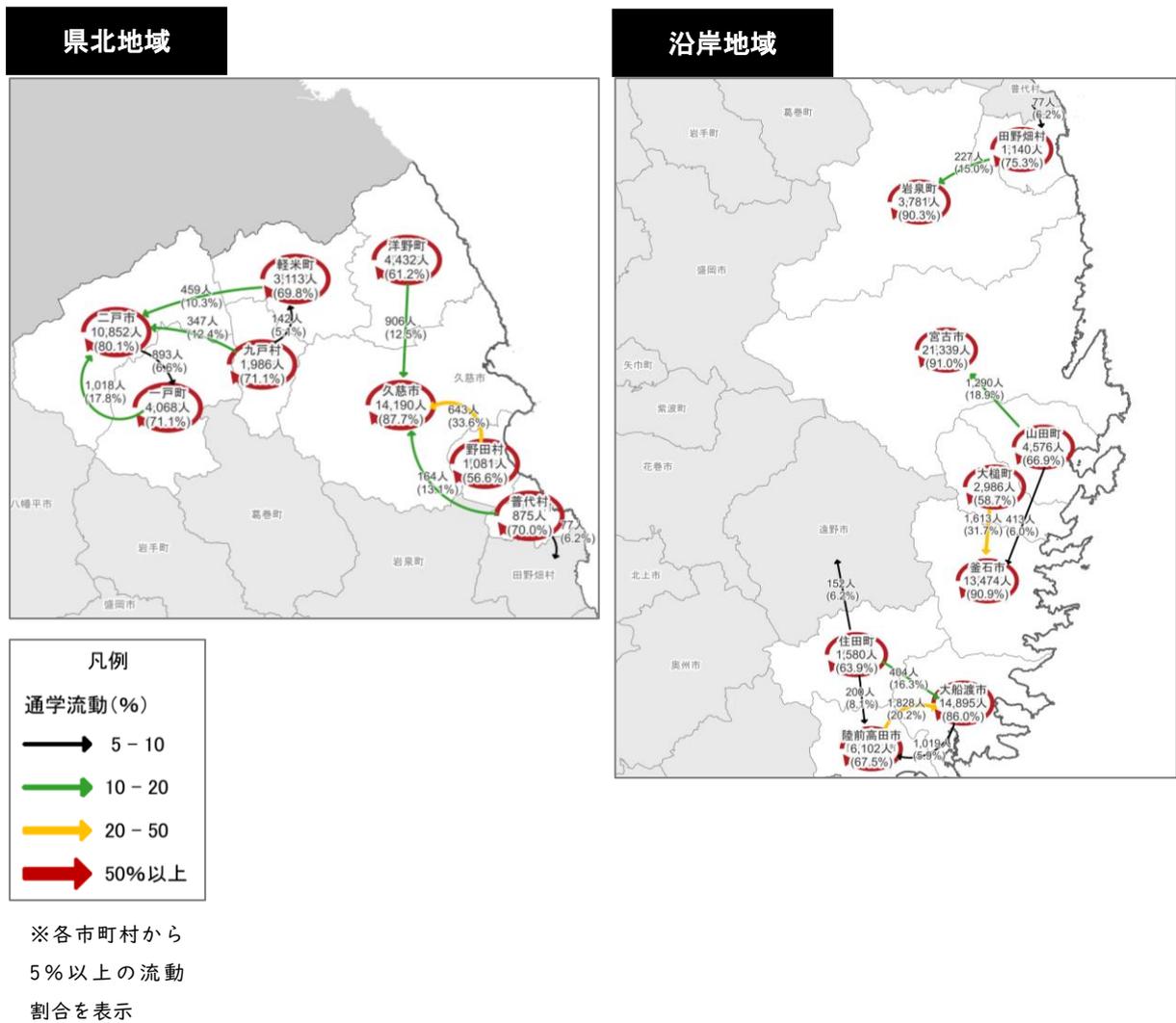


図11 通勤流動

出典：国勢調査 (R2)



### (3) 通院の流動

通院について、北リアス線沿線では、久慈市は自市内、野田村、普代村、洋野町からの流動、宮古市へ岩泉町からの流動、南リアス線沿線では、釜石市は自市内、大槌町からの流動、大船渡市は自市内、陸前高田市からの流動、J R山田線沿線では、宮古市は自市内、山田町、岩泉町からの流動、釜石市は自市内、大槌町からの流動が多くなっている。

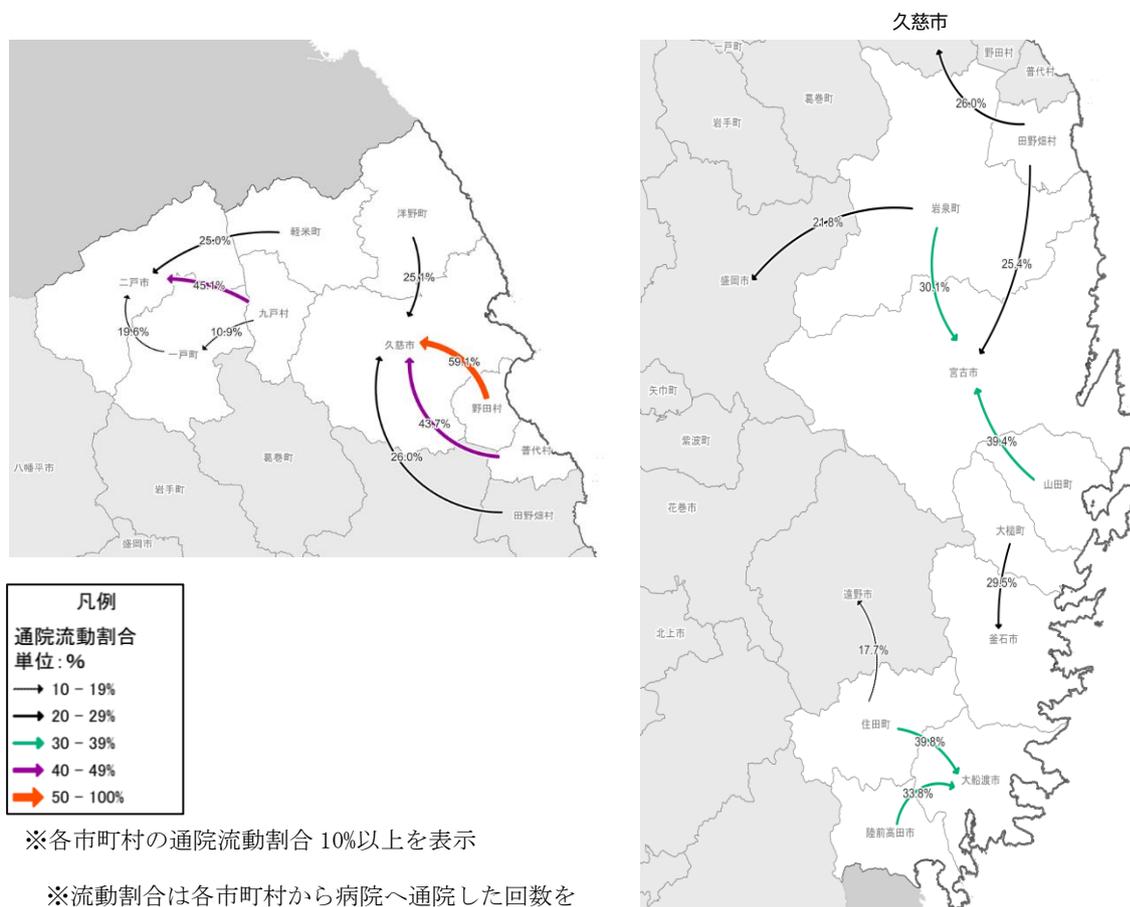


図 13 通院流動

出典：岩手県医療等ビッグデータ利活用システム

## 5-4 自動車利用環境の動向

### (1) 自動車保有台数の推移

三陸沿岸地域における、令和5年度の自動車保有台数は188,639台となっている。モータリゼーションの進展に伴い増加してきた自動車保有台数は、著しい人口減少に伴い、保有台数の推移をみると、近年減少傾向にある。

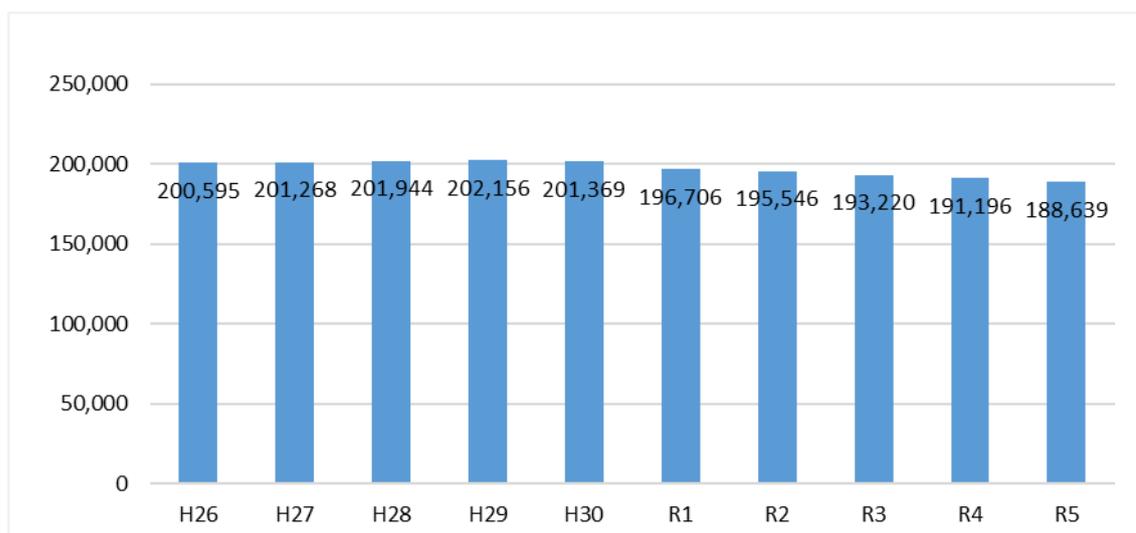


図14 自動車保有台数の推移【三陸沿岸地域】

出典：東北運輸局資料

## (2) 運転免許の保有状況

三陸沿岸地域において、運転免許保有者数は70歳～74歳がピークになっている。75歳以上になると運転免許保有者は減少していく。

高齢化の進展と相まって、令和元年までは運転免許自主返納者数が年々増加にあった。しかし、令和2年度以降は減少傾向にある。日常生活の移動に自身で自動車が使えない住民が今後急激に増加していく見込みである。

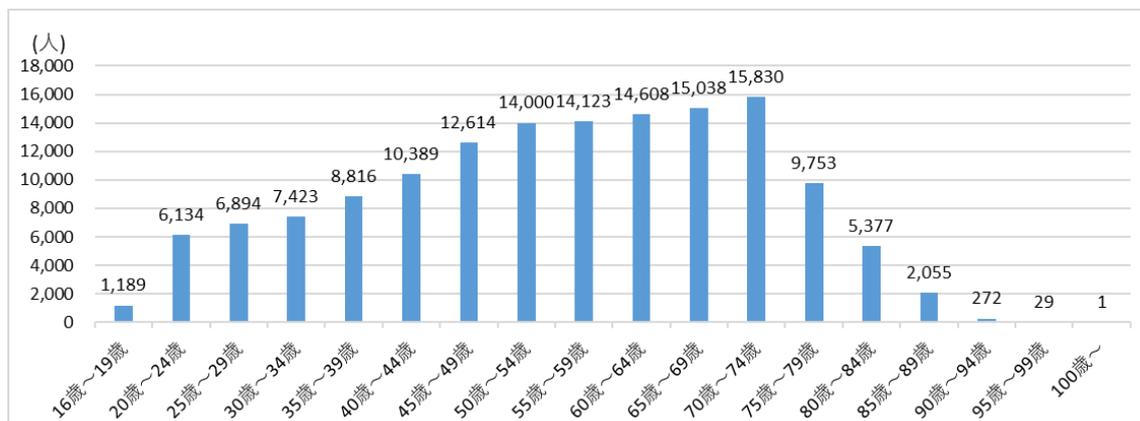


図15 年齢別運転免許保有者数【三陸沿岸地域】

出典：岩手県警資料

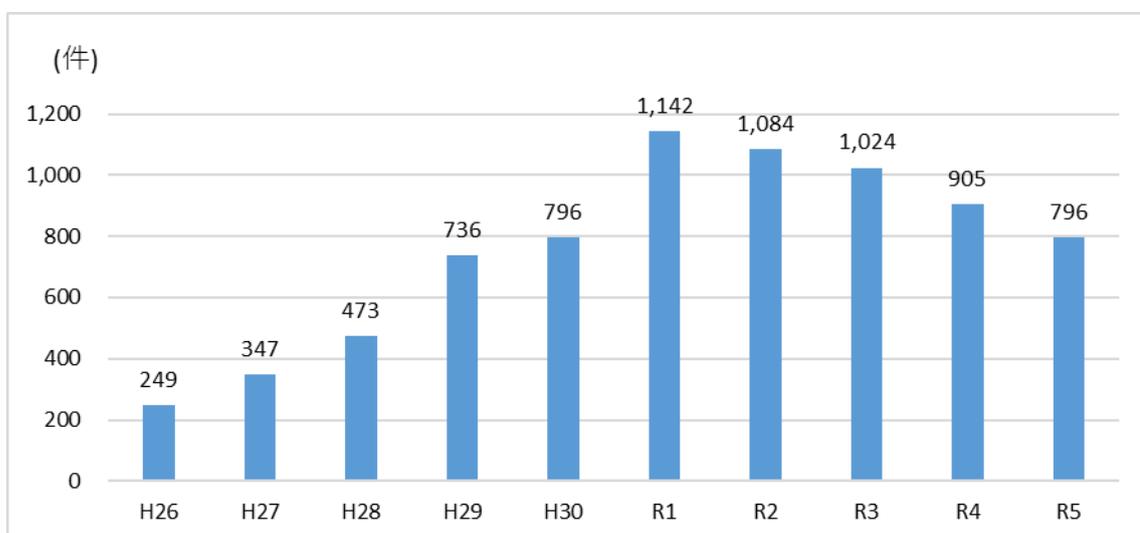


図16 運転免許自主返納者数の推移【三陸沿岸地域】

出典：岩手県警資料

## 5-5 道路交通網の変化

### (1) 復興道路・復興支援道路の整備

東日本大震災からの被災地の復興に向け、復興道路・復興支援道路として整備されていた三陸沿岸道路（三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道；仙台～八戸間総延長359km）、宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線が令和3年度までに全線開通した。広域的な道路ネットワークを活用した交流人口の拡大や産業振興が期待されている。



図17 復興道路・復興支援道路の整備状況

出典：国土交通省東北地方整備局資料



## 5-6 観光動向

### (1) 観光入込客数の推移

三陸沿岸地域を訪れる観光客数は、令和5年において年間約600万人で、新型コロナウイルス感染症の影響等による減少からの回復が見られている。

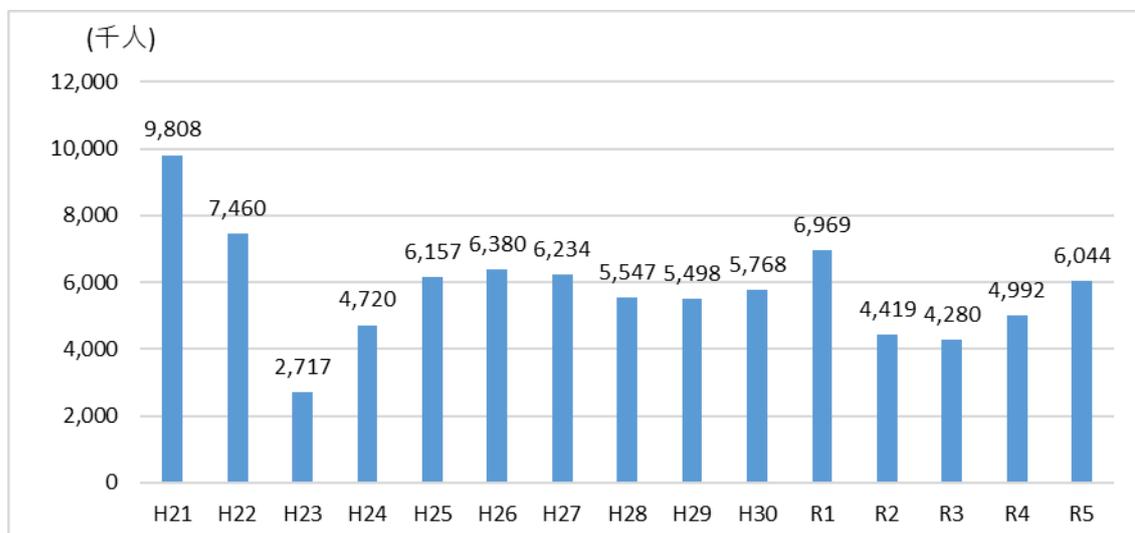


図19 年間観光入込客数の推移【三陸沿岸地域】

出典：岩手県観光統計（H21～R5）

### (2) 外国人観光客数の推移

令和5年に三陸沿岸地域を訪れた外国人観光客の入込数は、約12,000人となっている。新型コロナウイルス感染症の影響等による減少からの回復が見られている。

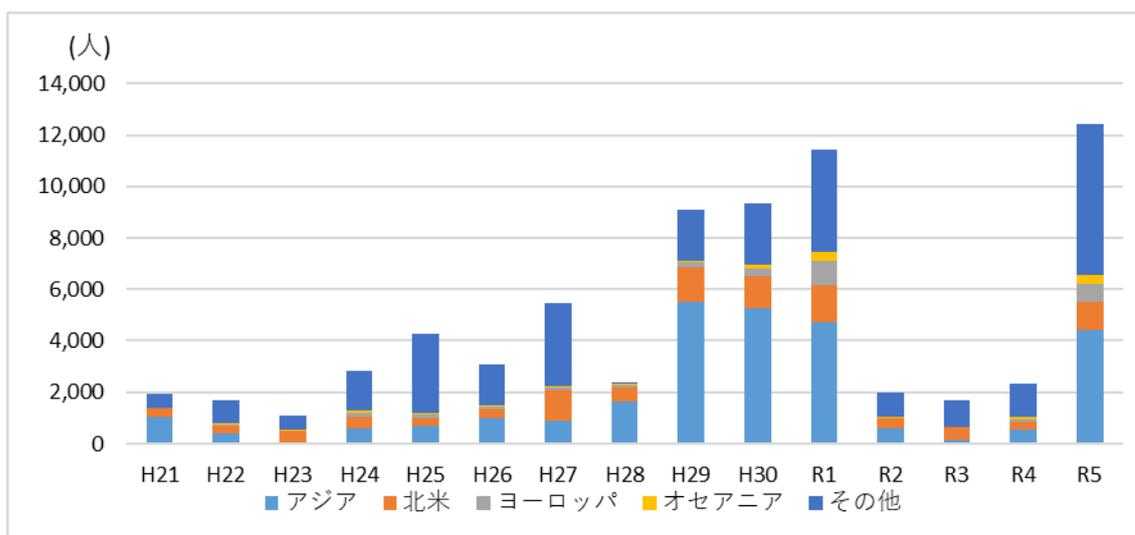


図20 外国人観光客数の推移【三陸沿岸地域】

出典：岩手県観光統計（H21～R5）

#### (4) 教育旅行者数の推移

三陸沿岸地域の教育旅行者数は、平成 23 年の東日本大震災以降、増加しており、令和 5 年には約 39,000 人と、東日本大震災前の約 3 倍となっている。

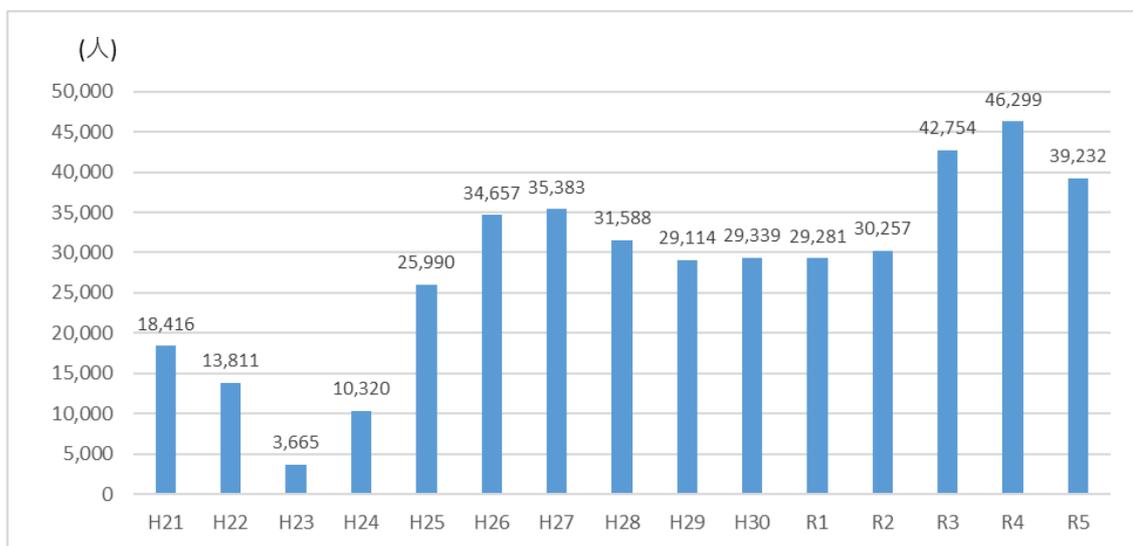


図 21 教育旅行者数の推移【三陸沿岸地域】

出典：岩手県観光統計（H21～R5）

#### (6) 三陸ジオパークの取組概要について

三陸沿岸地域を中心とする三陸ジオパークは、平成 25 年 9 月、地球活動遺産を見どころとする自然公園「日本ジオパーク」に認定された。エリアは青森県八戸市から宮城県気仙沼市に及ぶ南北約 220km、海岸線は約 330km に及ぶ日本一広大なジオパークである。これを受け、地質学や地理学などの科学的観点を持つ「ジオツーリズム」の推進による三陸沿岸地域の観光振興や交流人口の拡大に向けた取組が進められている。

## 5-7 公共交通に関連する市町村計画

### (1) 地域公共交通計画（旧制度含む）

三陸鉄道沿線市町村における地域公共交通計画（旧制度上の地域公共交通網形成計画含む）の策定状況は、9市町村が策定済みであり、3町村が未策定である。

### (2) 都市計画区域マスタープラン

三陸鉄道沿線では、8地域において都市計画マスタープランを策定しており、そのうち宮古市と大槌町で公共交通機関等の整備方針が記載されている。

**表2 都市計画区域マスタープランにおける公共交通に関する位置づけ**

計画名	策定年月	目標年次	公共交通機関等の整備方針
大槌都市 計画区域 マスタープラン	H27.6 (2015.6)	H47年 (2035)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道施設のバリアフリー化や広場の整備など各駅の交通結節点機能の強化を検討する。</li> <li>・大槌駅はバス交通のターミナル機能を持たせ、周辺に立地する商業・業務機能との連携を図る。</li> <li>・道路網の整備に合わせ、効率的で利便性の高い公共交通網の見直しを検討する。</li> <li>・低床バスの導入や便数の増加、停留所とその周辺の環境整備などを検討する。</li> <li>・福祉タクシーやスクールバス等との連携も検討する。</li> </ul>
宮古都市 計画区域 マスタープラン	H25.3 (2013.3)	H44 (2032)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波により被災した鉄道施設の早期復旧を進め利用者の利便性の回復を図る。</li> <li>・バス路線の新設・改善を図ることにより、利用しやすく災害に津おい公共交通網の形成を図る。</li> </ul>

### (3) 立地適正化計画

沿線市町村では、山田町が策定済みであり、地域公共交通との連携を位置づけている。

**表3 立地適正化計画における公共交通に関する位置づけ**

市町村名	概要
山田町	都市づくりにおける今後の課題として「公共交通のサービス水準の維持・充実」を掲げており、公共交通は、運転免許を持っていない学生や、自動車を運転しない高齢者等の交通弱者が生活するために必要な移動手段であり、公共交通で利用できるエリアに都市機能誘導施設を誘導するとともに、公共交通の利用者を確保するため、駅・バス停等の徒歩圏に居住の誘導を図っていく必要がある。

## 5-8 復興まちづくり事業

東日本大震災津波からの復興に向けて、土地区画整理事業や防災集団移転促進事業、漁業集落防災機能強化事業などの面整備やまちづくり連携道路整備事業、災害公営住宅整備事業が行われ、災害公営住宅等への公共交通についても、概ね確保されている。

表4 まちづくり（面整備事業）及びまちづくり連携道路整備事業の実施状況一覧）

	土地区画整理事業		防災集団移転促進事業		津波復興拠点整備事業		漁業集落防災機能強化事業		合計	
	地区数	区画数	地区数	区画数	地区数	区画数	地区数	区画数	地区数	区画数
事業対象	7市町村		7市町村		6市町		11市町村		12市町村	
工事完了	19	4,911	88	2,090	10		41	471	158	7,472
洋野町	-		-		-		八木			
久慈市	-		-		-		久慈湊・大崎、元木沢、玉の脇、久喜			
野田村	城内		城内、米田・南浜		-		下安家、中沢			
普代村	-		-		-		堀内・沢			
田野畑村	-		-		-		羅賀、島越			
岩泉町	-		-		-		小本			
宮古市	田老、 鎌ヶ崎・光岸地		田老、崎山、高浜・金浜、法の脇、赤前		中心市街地、津軽石		摂待、堀内、浦の沢・追切、音部・荒巻、重茂里、千鶏、女遊戸、石浜、田老野原			
山田町	大沢、山田、山田国道45号周辺、織笠、織笠(跡浜)		山田、織笠、船越・田の浜、小谷島		山田		大浦、大沢			
大槌町	町方、安渡、赤浜、吉里吉里		浪板1、吉里吉里1、吉里吉里2、吉里吉里3、赤浜1、赤浜2、赤浜6、安渡1、安渡2、安渡3、安渡4、安渡、寺野臼澤、大ヶ口・沢山・夏本・柁内・屋敷前、町方、小枕、花輪田		町方、安渡		吉里吉里、浪板、赤浜、安渡			
釜石市	片岸、鶴住居、嬉石松原、平田		室浜、根浜、箱崎、箱崎白浜、桑ノ浜、両石、尾崎白浜、花露辺、本郷、唐丹、荒川		鶴住居、東部		花露辺、室浜、仮宿、桑ノ浜、大石、新浜町、佐須、根浜、箱崎、両石、箱崎白浜、尾崎白浜、本郷、唐丹			
大船渡市	大船渡駅周辺		大船渡、峰岸、平林、上山、鶴巻、神坂、細浦、小細浦、梅神、門之浜、泊里、佐野、中赤崎、永浜、清水、蛸ノ浦、田浜、港・岩崎、泊、浦浜南、浦浜仲・西、浦浜東・甫嶺、崎浜		大船渡		越喜来(浦浜東)			
陸前高田市	今泉、高田		月山、上長部、双六、要谷、福伏、下矢作、館、下沢、高田、今泉、堂の前、脇の沢、両替、三日市、柳沢、茂里花、新田、只出、長洞、大野、広田大野、田谷、六ヶ浦、泊、中沢、久保		高田北、高田南		-			

(R3.3.31現在)

出典：岩手県 主な取組の進捗状況 いわて復興インデックスを一部修正

※ 区画整理事業での完成の取扱は、宅地供給又は使用収益開始による。

※ 漁業集落防災機能強化事業の計画41地区には、宅地造成を伴わない9地区を含む。

表5 災害公営住宅の整備状況

段階区分		県整備			市町村整備			合 計		
		箇所数	戸数(進捗率)		箇所数	戸数(進捗率)		箇所数	戸数(進捗率)	
沿岸地域※	計画	53	2,595		139	2,955		192	5,550	
	工事完成	53	2,595	(100%)	139	2,955	(100%)	192	5,550	(100%)
内陸 向け 避難者	計画	8	232		3	51		11	283	
	工事完成	8	232	(100%)	3	51	(100%)	11	283	(100%)
県全体	計画	61	2,827		142	3,006		203	5,833	
	工事完成	61	2,827	(100%)	142	3,006	(100%)	203	5,833	(100%)

※ 沿岸地域の数値に一関市に整備した27戸を含む。

(R2.12.31現在)

## 第6章 三陸鉄道沿線地域等公共交通の現況

### 6-1 三陸鉄道の沿革

三陸鉄道は、旧国鉄から廃止転換された久慈線、宮古線、盛線及びこれらを結ぶ新線（田老～普代、吉浜～釜石）の完成を受け、昭和59年4月に全国初の国鉄地方交通線転換の第三セクター鉄道として開業した鉄道であり、開業以来、三陸沿岸地域の通勤、通学、通院、買物、高齢者などの交通弱者の日常生活の足として、また観光振興の基盤としての役割を担っている。

開業後、平成5年度まで順調に黒字経営を行ってきたところであるが、「モータリゼーション」や「人口減少・少子高齢化」の進展、「沿線公共施設の移転」など様々な環境の変化により、輸送人員が減少を続け、平成6年度から収支欠損を生じている状況である。

それに加え、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、三陸鉄道は、橋梁、レール、駅舎等が流出するなど甚大な被害を受けたところであるが、地域住民をはじめ国内外から多くの声援と支援を受け、地域にとっては必要不可欠な鉄道という認識のもと、早期に復旧が決まり、平成26年4月には全線で運行を再開している。

平成31年3月には、三陸鉄道北リアス線、南リアス線の間を結ぶJR山田線（宮古～釜石）の三陸鉄道への移管により、久慈～盛間をリアス線として一貫運行している。

表6 三陸鉄道の沿革

年月日	内容
昭和59年 4月 1日	営業開始（久慈～宮古間、釜石～盛間）
3月23日	旅行代理店営業開始
4月	国鉄廃止、東日本旅客鉄道株へ継承
平成 9年 1月 1日	北リアス線で列車無線運用開始
7月26日	リアスシーライナー（仙台～久慈間）運転開始
12月 1日	南リアス線で列車無線運用開始
12年 1月 4日	日本鉄道建設公団から鉄道資産を無償譲受
17年 3月13日	レトロ調気動車「さんりく しおさい」運行開始
12月17日	こたつ列車（北リアス線久慈～宮古間）運転開始
22年10月 6日	山口団地駅（北リアス線）新設
23年 3月11日	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生 全線で運転不能に ※津波被害 死者4,672名、行方不明者1,142名、傷者209名
3月16日	北リアス線陸中野田～久慈間で運転再開
3月20日	北リアス線宮古～田老間で運転再開
3月29日	北リアス線田老～小本間で運転再開
24年 4月 1日	北リアス線陸中野田～田野畑間の運転再開
25年 4月 3日	南リアス線盛～吉浜間の運転再開
26年 4月 5日	南リアス線吉浜～釜石間の運転再開（南リアス線全線運転再開）
4月 6日	北リアス線小本～田野畑間の運転再開（三陸鉄道全線運転再開）
29年 3月25日	十府ヶ浦海岸駅（北リアス線）新設
31年 3月23日	山田線（宮古～釜石間）が三陸鉄道に移管されリアス線として運行 弘川駅（リアス線）、八木沢・宮古短大駅（リアス線）新設
3月24日	リアス線営業運転開始
10月12日	台風19号の影響により、リアス線163kmのうち約7割が不通
令和 2年 3月20日	リアス線全復旧
5月18日	新田老駅（リアス線）開業
令和 6年 3月26日	宮古駅にエレベーター設置

出典：三陸鉄道資料

## 6-2 三陸鉄道の現況

### (1) 営業路線・駅

三陸鉄道リアス線は、盛駅～久慈駅間の 163km を結ぶ路線であり、北の久慈駅では JR 八戸線に、南の盛駅では JR 大船渡線 BRT に接続し、三陸沿岸地域を南北方向に貫く路線となっている。沿線地域の通学をはじめとした日常生活の足として利用されているほか、風光明媚な三陸沿岸地域を通る路線として観光利用も多く、イベント列車等の企画運行も多く実施されている。

駅は 41 駅あり、そのうち有人駅は 11 駅（うち三陸鉄道からの業務委託が 8 駅）、無人駅は 30 駅である。

表7 駅名・営業キロ等

路線	駅名	営業キロ		駅管理形態	運行本数	所在地
		駅間	累計			
旧北リアス線 (71.0 km)	久慈	0.0	163.0	有人(業務委託)	12往復	久慈市
	陸中宇部	7.7	155.3	無人		
	陸中野田	3.4	151.9	有人(業務委託)		
	十府ヶ浦海岸	2.3	149.6	無人		
	野田玉川	1.7	147.9	無人		
	堀内	4.5	143.4	無人		
	白井海岸	3.1	140.3	無人		
	普代	3.4	136.9	有人(業務委託)		
	田野畑	9.3	127.6	有人(業務委託)		
	島越	2.0	125.6	有人(業務委託)		
	岩泉小本	8.5	117.1	有人(業務委託)		
	摂待	3.6	113.5	無人		
	新田老	8.3	105.2	無人		
	田老	0.5	104.7	無人		
	佐羽根	3.6	101.1	無人		
	一の渡	2.9	98.2	無人		
山口団地	4.6	93.6	無人			
旧山田線 (55.4 km)	宮古	1.6	92.0	有人(直営)	11往復 ※加えて、 岩手船越～ 宮古1本	宮古市
	磯鶏	2.0	90.0	無人		
	八木沢・宮古短大	1.8	88.2	無人		
	津軽石	5.4	82.8	無人		
	弘川	2.1	80.7	無人		
	豊間根	4.1	76.6	無人		
	陸中山田	11.1	65.5	有人(業務委託)		
	織笠	1.2	64.3	無人		
	岩手船越	3.8	60.5	無人		
	浪板海岸	6.4	54.1	無人		
	吉里吉里	1.8	52.3	無人		
	大槌	3.4	48.9	有人(業務委託)		
	鶉住居	4.0	44.9	無人		
	両石	2.2	42.7	無人		
旧南リアス線 (36.6 km)	釜石	6.1	36.6	有人(直営)	11往復	釜石市
	平田	3.5	33.1	無人		
	唐丹	5.4	27.7	無人		
	吉浜	6.1	21.6	無人		
	三陸	4.6	17.0	無人		
	甫嶺	2.7	14.3	無人		
	恋し浜	2.3	12.0	無人		
	綾里	2.9	9.1	無人		
	陸前赤崎	5.4	3.7	無人		
	盛	3.7	0.0	有人(直営)		
						大船渡市

三陸鉄道は単線であり、以下のとおり、北リアス線で9駅、旧山田線で8駅、南リアス線で5駅が1本線となっている。

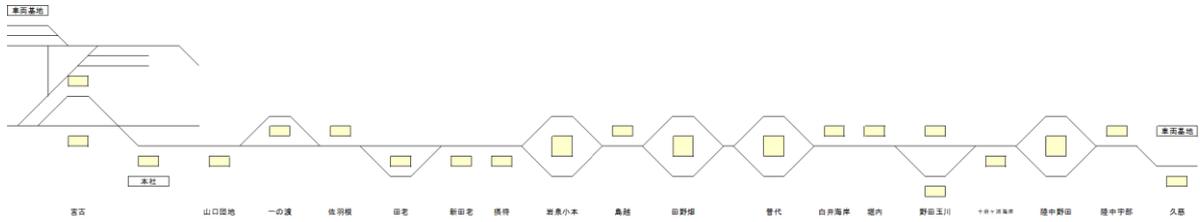


図 22 三陸鉄道リアス線（久慈～宮古）線路略図

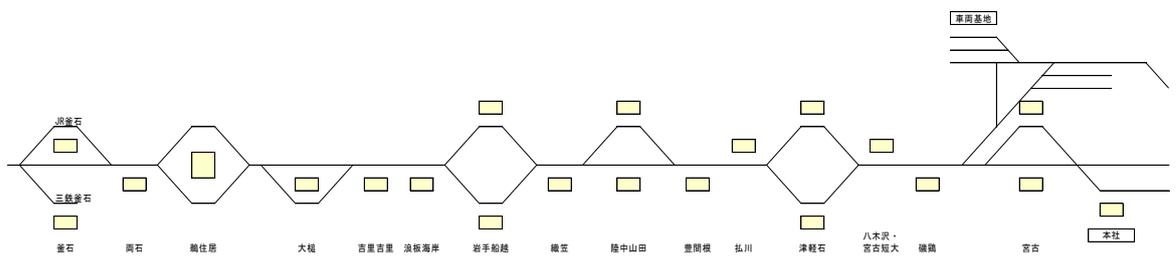


図 23 三陸鉄道リアス線（宮古～釜石）線路略図

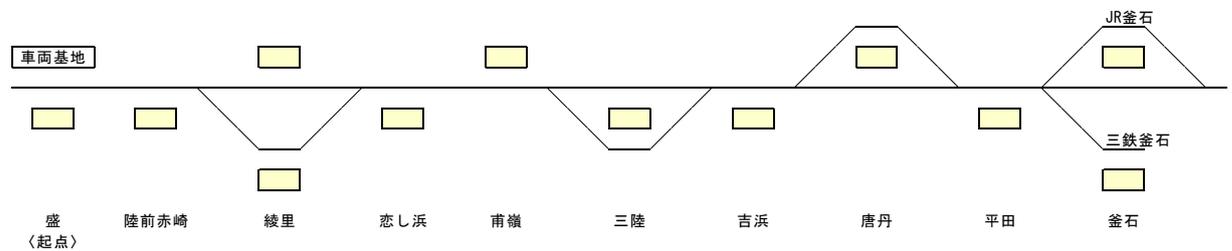


図 24 三陸鉄道リアス線（釜石～盛）線路略図

凡 例	
	旅客ホーム
	線路
	片開き分岐器
	両開き分岐器
	片渡り線
	両渡り線
	線路終端

## (2) 駅設備等の状況

三陸鉄道の駅の設備等の状況については、以下のとおりであり、全 41 駅中、売店は 9 駅、トイレは 27 駅で整備されている。

バリアフリー対策としては、久慈駅や釜石駅、盛駅などでスロープ、岩泉小本駅や新田老駅、宮古駅でエレベーターの設置が行われているが、階段が特に多い普代駅、摂待駅、平田駅、跨線橋を越える必要がある久慈駅、綾里駅など、課題も残っている。

また、地域の交流拠点となる施設を併設する駅としては、久慈広域観光協議会のある久慈駅、レストランやカフェのある陸中野田駅、普代駅、田野畑駅、岩泉町役場小本支所や診療所のある岩泉小本駅、田老総合事務所のある新田老駅、山田町ふれあいセンターがある陸中山田駅、観光案内所がある大槌駅、鶴の郷交流館がある鶴住居駅、大船渡市役所吉浜地域振興出張所や診療所のある吉浜駅などがある。

表 7 三陸鉄道各駅の設備整備状況

路線	駅名	駅施設の状況											駅併設の拠点					
		駅員	待合室	売店	コインロッカー	エレベーター	エスカレーター	トイレ設備			スロープ 駅舎外から改札口	駐車場		駐輪場	レンタカー	レンタサイクル	バス	タクシー
								トイレ	水洗トイレ	身障者用								
旧北リアス線 (71.0 km)	久慈	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・久慈広域観光協議会 ・リアス亭
	陸中宇部		○									○	○					
	陸中野田	○	○	○				○	○	○	○	○	○		○	○	○	・道の駅のだ
	十府ヶ浦海岸		○									○	○				○	
	野田玉川		○					○				○	○					
	堀内		○										○					
	白井海岸		○										○					
	普代	○	○	○				○	○	○	○	○	○		○	○	○	・道の駅ふだい ・カフェ ・コインランドリー ・喫茶&スナック ・お魚センター
	田野畑	○	○	○				○	○	○	○	○	○			○	○	・喫茶コーナー
	島越	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	・島越コミュニティセンター
	岩泉小本	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○					・岩泉町小本津波防災センター (岩泉町役場小本支所、会議室、診療所)
	摂待		○					○	○	○	○	○	○			○	○	・産直
	新田老		○			○		○	○	○	○	○	○			○	○	・田老総合事務所 (田老保健センター、宮古商工会議所田老支所、宮古信用金庫田老支店)
	田老		○					○	○			○	○			○	○	
佐羽根		○					○											
一の渡		○																
山口団地		○									○	○						
旧山田線 (55.4 km)	宮古	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・宮古観光文化交流協会
	磯鶏		○					○	○	○	○	○						
	八木沢・宮古短大		○									○	○					
	津軽石		○					○	○			○	○					
	弘川		○									○	○					
	豊間根		○									○	○					
	陸中山田	○	○					○	○			○	○		○	○	○	・山田町ふれあいセンターはびね
	縄笠		○									○	○					
	岩手船越		○									○	○			○	○	
	浪板海岸		○									○	○					
	吉里吉里		○									○	○					
	大槌	○	○	○				○	○			○	○			○	○	・観光案内所 ・ラーメン屋(麺匠ときしらず)
	鶴住居		○					○	○			○	○			○	○	・鶴の郷交流館 ・鶴住居トモス
	両石		○									○	○					
釜石	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
旧南リアス線 (36.6 km)	平田		○					○	○			○	○					
	唐丹		○					○	○			○	○			○	○	
	吉浜		○					○	○			○	○					・吉浜地区拠点センター (大船渡市役所吉浜地域振興出張所、集会所、会議室) ・吉浜診療所
	三陸		○					○	○	○	○	○	○			○	○	・大船渡市農協三陸支店
	甬嶺		○					○	○			○	○					
	恋し浜		○					○	○			○	○					
	綾里		○					○	○			○	○					
	陸前赤崎		○					○	○	○	○	○	○					・大洞ふれあい交流館
	盛	○	○	○				○	○	○	○	○	○		○	○	○	

### (3) 施設及び運営の概要

#### ①営業時間・運行頻度

運行時間帯は、久慈～宮古間で久慈駅始発 5:03～終発 20:46、宮古駅始発 5:00～終発 20:50、宮古～釜石間で宮古駅始発 5:00～終発 21:20、釜石駅始発 6:02～終発、釜石～盛間で釜石駅始発 5:45～終発 21:04、盛駅始発 5:43～終発 21:02 であり、運行頻度は、久慈～宮古間で 12 本/日、宮古～釜石間と釜石～盛間で 11 本/日となっている。

**表 8 三陸鉄道（久慈～宮古間）運行頻度**

駅名(方面)	運行本数		始発時間	終発時間
	平日	土日祝		
久慈駅(宮古方面)	12	12	5:03	20:46
宮古駅(久慈方面)	12	12	5:00	20:50

**表 9 三陸鉄道（宮古～釜石間）運行頻度**

駅名(方面)	運行本数		始発時間	終発時間
	平日	土日祝		
宮古駅(釜石方面)	11	11	5:00	21:20
釜石駅(宮古方面)	11	11	6:02	21:09

**表 10 三陸鉄道（釜石～盛間）運行頻度**

駅名(方面)	運行本数		始発時間	終発時間
	平日	土日祝		
釜石駅(盛方面)	11	11	5:45	21:04
盛駅(釜石方面)	11	11	5:43	21:02

## ②運賃・料金

三陸鉄道の普通旅客運賃は、対キロ区間制で、170円から3,780円となっている。吉里吉里～浪板海岸、織笠～陸中山田、八木沢・宮古短大～磯鶏、宮古～山口団地、田老～新田老、野田玉川～十府ヶ浦海岸間は、特定運賃区間として170円の運賃である。

定期券は、通勤定期、通学定期があり、各々の割引率は0.40、0.60となっており、通学定期については、片道のみ定期乗車券も販売している。その他の割引制度として、障がい者（身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者）割引、被救護者割引、運転免許返納者割引、団体割引があるほか、回数券やお得切符などを設定している。お得切符の一つである三陸鉄道全線フリー乗車券は、2日間有効で6,100円で販売している。

表 11 三陸鉄道割引切符の概要

運賃・切符名称		概要
割引運賃	障害者割引	【普通運賃】半額 【普通回数乗車券】半額 【通勤定期乗車券】介護者と同一区間の利用に限り本人と介護者が半額
	被救護者割引	【普通運賃】半額 ●「被救護者旅客運賃割引証」を駅窓口で提出
	運転免許返納者割引	【普通運賃】半額 ●65歳以上で、警察で発行する運転経歴証明書提示で、三陸鉄道線内の普通運賃が半額 ●また、通勤定期乗車券が半額で購入可能
団体運賃		【普通団体】 ●団体(8名以上)の場合、乗車区間の普通運賃を1割引き(10円未満切上げ)
		【学生団体】 ●学生8人以上と教職員等の引率者が1人以上の場合、乗車区間の運賃を2割引き(10円未満切上げ)
	8人から半額きっぷ	●岩手県在住者のみ利用可能
	貸切列車借り上げ半額助成	●岩手県在住者のみ半額
回数券	普通回数券	【11枚綴り】10枚分の運賃
	シルバー回数券	【12枚綴り】10枚分の運賃 ●条件:65歳以上
	通院回数券	【12枚綴り】10枚分の運賃 ●条件:通院していることが証明できるものを提示
	金額式回数券	【100円券22枚綴り】2,000円
	地域限定特別回数乗車券(釜石～宮古間)	【15枚綴り】10枚分の運賃 ●条件:宮古市、山田町、大槌町、釜石市に居住していることが証明できるものを提示
	小中学生用特別回数券	【6枚綴り】中学生は大人運賃の半額、小学生は子供運賃から半額 ●条件:岩手県内に居住する小中学生
お得切符	三陸鉄道全線フリー乗車券	●リアス線全線で2日間乗り放題の乗車券 大人用:6,100円、小人用3,050円
	三陸鉄道1日フリー乗車券	●三陸鉄道が土休日1日乗り放題の乗車券(区間別) 【盛駅～釜石駅間】1,500円(小人用750円) 【釜石駅～宮古駅間】2,400円(小人用1,200円) 【宮古駅～久慈駅間】2,600円(小人用1,300円)
	三陸鉄道片道途中下車きっぷ	●途中下車が可能な切符(区間別) 【盛駅→久慈駅】【久慈駅→盛駅】3,780円(小人用1,890円) 【盛駅→宮古駅】【宮古駅→盛駅】2,310円(小人用1,160円) 【釜石駅→久慈駅】【久慈駅→釜石駅】3,050円(小人用1,530円) 【宮古駅→久慈駅】【久慈駅→宮古駅】1,890円(小人用950円)
	きたいわてぐるっとバス	●盛岡-二戸:IGRいわて銀河鉄道、二戸-久慈:JRバス東北(スワロー号)、久慈-宮古:三陸鉄道、宮古-盛岡:岩手県北バス(106バス)にて「きたいわて」を1周できる 【大人】5,200円 【小人】2,600円
	湯ったり日帰りきっぷの	●往復乗車券に入浴施設の昼食と入浴がセットになった「湯ったり日帰りきっぷ」を販売
貸切列車	●三陸鉄道の車両を貸し切りできる ●定期列車に連結、通常のダイヤにはない臨時列車としての運転も可能 【一般車両1両】50,000円 【お座敷車両、レトロ車両1両】60,000円	

### (3) 設備の状況

#### ① トンネル、橋りょう

三陸鉄道の南北リアス線には62箇所のトンネルがあるが、建設時から45年経過しているトンネルもあり、老朽化が進み漏水箇所が多数確認され、レール及び締結装置の摩耗、腐食を加速させる要因となっている。また、冬期間には、側氷及び氷柱の発生から、列車の安全運行に支障を及ぼす恐れがある。

同様に南北リアス線296箇所の橋りょうについても、建設時から45年経過しているものもあり、鋼桁及び高欄等の塗装状況は、経年劣化により全体的に錆が発生してきており、立体的に進行すれば耐久性に支障を及ぼす恐れがある。

表 12 トンネル、橋りょうの老朽化及び改修状況

トンネル			
	【綾里トンネル(H29点検時)】 軌間内に漏水	【第2白浜トンネル(H29点検時)】 アーチからの漏水状況	【第2白浜トンネル(H29点検時)】 軌間内に漏水
	橋梁		
【十三塚架道橋】 塗膜劣化状況		【十三塚架道橋】 下面塗膜劣化状況	【第2普代川橋梁(H29点検時)】 塗膜劣化状況
			
【十三塚架道橋(H29施工時)】 桁塗膜改修状況	【第2長内架道橋(H29施工時)】 下面塗膜改修状況	【第2長内架道橋(H29施工時)】 塗膜改修状況	

出典：三陸鉄道資料

## ②軌道、電気・通信

軌道に関しては、レール締結装置の腐食及び木マクラギの腐食が数多く確認、また、トンネル内レールの波状摩耗等が確認され、これらは軌間拡大又は、レール損傷等の要因となり安全を脅かす恐れがある。

通信ケーブルにおいては、経年劣化による絶縁不良等が確認され、信号情報の誤動作及び列車無線等の通信不良が懸念され、安全運行に支障を及ぼす恐れがある。

継電連動装置及び踏切保安装置においても計画的更新が必要となっている。

風速計の増設により運行の安全を確保し、風による規制区間の変更により、利用者の利便性向上を図っている。

表 13 軌道、電気・通信設備の老朽化及び更新状況

軌道			
	レール締結装置腐食状況	木マクラギ腐食状況	トンネル内レール腐食状況
	電気通信		
通信ケーブル鼠害状況		各駅信号設備継電連動装置計画的更新	風速計増設

出典：三陸鉄道資料

#### (4) 利用促進に向けた取組

三陸鉄道の利用促進と地域振興及び活性化を図るため、岩手県、三陸沿岸地域 12 市町村を構成員とする三陸鉄道強化促進協議会が中心となり、関係団体等と連携し三陸鉄道の利用促進に向けた取組が積極的に行われている。

#### 【令和 5 年度岩手県三陸鉄道強化促進協議会事業概要】

##### ① 地元利用の底上げ

###### ● マイレールさんてつ推進事業

- ・三陸鉄道イベント等運営支援（三陸鉄道主催の地域イベント経費支援）
- ・園児お絵かき列車等運行支援

表 12 マイレールさんてつ運動推進事業の内容

事業名	内容
園児お絵かき列車等運行支援事業	・沿線市町村の幼稚園の園児等を対象に三陸鉄道を利用したお絵かき会を実施 ・応募作品展示列車を運行、優秀作品を表彰
地域密着型企画列車運行支援事業	・市町村が地域と連携し、特色ある企画列車を自主企画する場合の運行経費を補助
地域イベント運営費補助事業	・三鉄のPRと三鉄の乗車機会創出を図るための「さんてつまつり」等の開催を支援
山田線沿線鉄路啓発・PR事業	・山田線沿線を中心に 広く(仮)「山田線がある風景写真」を公募し、沿線地域主要施設において巡回写真展を開催。

###### ● 沿線等利用促進事業

市町村等の企画による三陸鉄道乗車機会創出等を支援

###### ● 利用者補助事業

- ・団体利用等助成（8人以上の団体、エージェント）
- ・貸切列車借上げ料助成

表 13 利用者補助事業の内容

事業名	内容
団体利用等助成事業	・団体利用者(8名以上)に対する運賃について半額補助 ・旅行代理店による団体利用運賃の10分の5以内を補助(※従前10分の4以内を補助)
貸切列車借上げ料助成事業	・列車貸切利用料(借上げ料)を半額補助 ・旅行代理店による列車貸切利用運賃(借上げ料)の10分の5以内を補助(※従前10分の4以内を補助)

##### ② 交流人口の拡大

###### ● 誘客強化支援事業

- ・観光ガイド派遣（こたつ列車への「なもみ」派遣等）
- ・営業強化支援（営業旅費支援）
- ・PR素材強化支援

表 14 誘客支援・交流人口拡大事業の内容

事業名	内容
観光ガイド派遣事業	地元団体と連携し、車内に観光ガイド(なもみ等)を派遣(団体利用の場合のみ。)
エージェント営業強化支援事業	・観光協会等との連携営業支援 ・営業向けプログラム(震災学習列車、ジオパーク、国体等関連企画)強化/造成支援
地域連携・ネットワーク強化支援事業	・沿線自治体観光素材(観光地、イベント等)と三陸鉄道利用の連携企画の造成支援。
インバウンド対応支援事業	・平成30年のラグビーW杯開催等を見据え、インバウンド環境整備を支援

③商品力向上

- 企画列車等造成支援事業
  - ・かいけつゾロリ列車
  - ・三陸縦断列車

表 15 企画列車等造成支援事業の内容

事業名	内容
ゾロリ列車造成支援事業	・北リアス線において、小学生に人気の「かいけつゾロリ」と一緒に三陸を冒険する企画列車の造成を支援(ポプラ社協力企画)

④ふるさと納税活用枠

- 開業 40 周年機運醸成事業
  - 特設ホームページの開設、車両ステッカー・ポスターの作成を支援
- 運行情報の周知媒体改良支援事業
  - 「さんてつアプリ」の改修と専用サイトの開設を支援

表 16 震災学習列車の取組



出典：三陸鉄道沿線地域等公共交通活性化連携計画（H26年2月）、三陸鉄道HP、三陸鉄道強化促進協議会事業計画資料（H28）

## 6-3 三陸鉄道の利用状況

### (1) 利用者数の推移

#### ①乗客数の推移

三陸鉄道の輸送人員は、開業時（昭和 59 年度）をピークに、以降一貫して減少傾向にあり、平成 22 年度は開業時の約 3 割（約 7 割減少）まで、更に平成 23 年に発生した東日本大震災の影響もあり、平成 27 年度は、開業時の約 2 割（約 8 割減少）まで落ち込んだ。

定期外・定期別で見ても、いずれも開業時の約 2 割まで落ち込んでいる。特に安定した収入が得られる定期利用者が大幅に減少している。

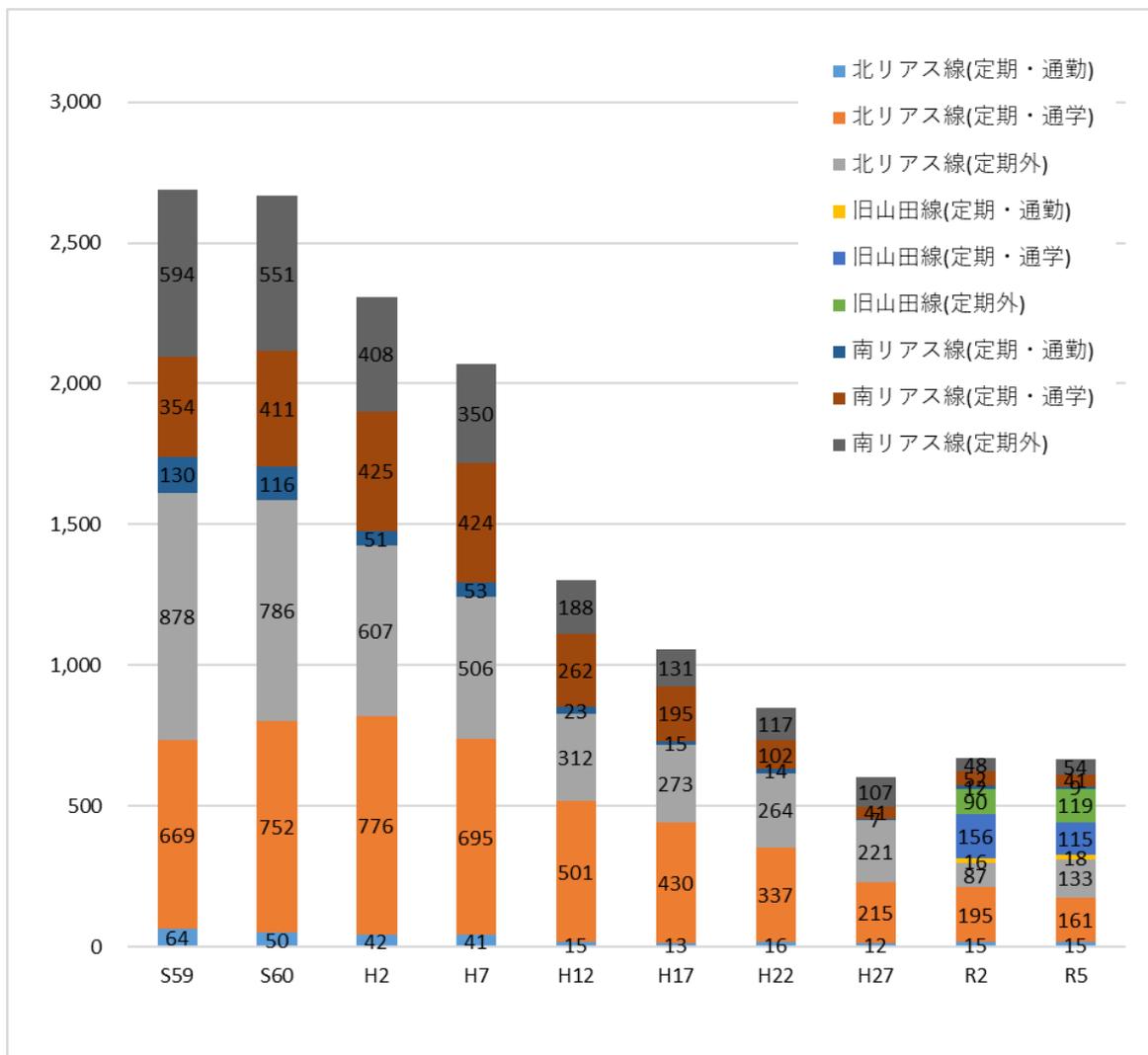


図 25 三陸鉄道の定期（通学・通勤）、定期外乗客数の推移

## ②全体乗客数に占める観光団体の割合の推移

エージェント（旅行代理店）扱いの観光団体の利用動向を見ると、全体での乗客数が年々減少している中、観光団体利用の割合は震災前から増加しており、平成 27 年度でも約 1 割を占めるまでとなっている。

なお、東日本大震災を教訓とした学習機会を提供する震災学習列車の利用人員は、年間約 1 万人となっている。

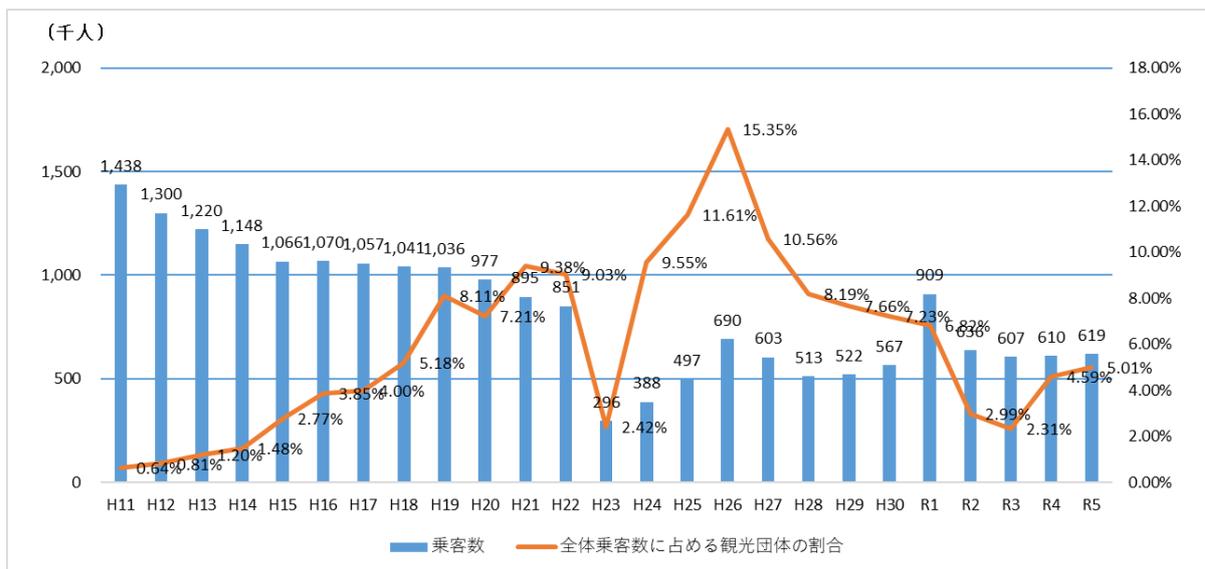


図 26 三陸鉄道の全体乗客数に占める観光団体の割合の推移

## (2) 利用者の状況

### ①利用者アンケート調査概要

三陸鉄道および JR 山田線代替バスについて、現在の利用特性や利用者のニーズを把握するためのアンケート調査を実施している。調査の概要は、以下のとおり。

調査日 : (休日) 平成 28 年 10 月 16 日(日)

(平日) 平成 28 年 10 月 19 日(水)

調査対象 : 三陸鉄道・JR 山田線代替バス利用者 (全便対象)

調査方法 : 三陸鉄道および JR 山田線代替バスに調査員が乗込み、直接配布・回収

回収数 : 1,722 票 (平日 1,182 票、休日 540 票)

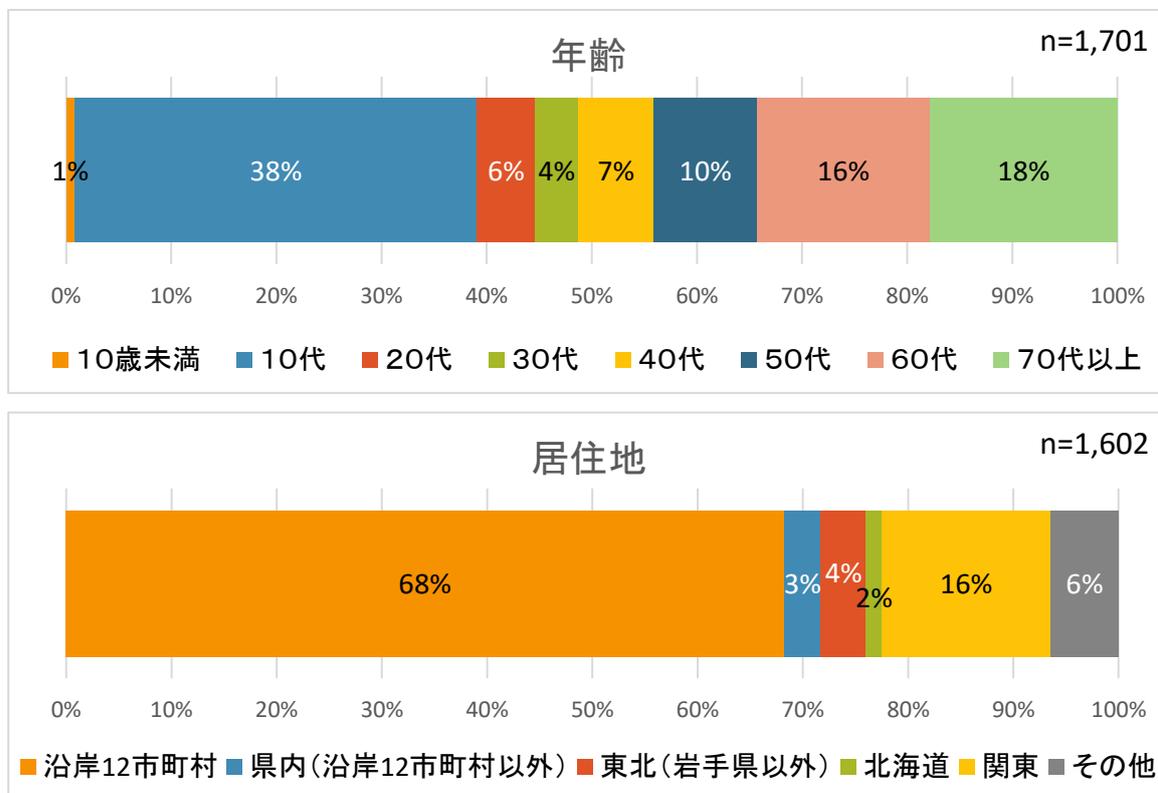
**表 33 利用者アンケート調査票回収数**

(単位: 票)

	三陸鉄道		JR 山田線 代替バス	合計
	北リアス線	南リアス線		
【平日】10月19日(水)	728	246	208	1,182
【休日】10月16日(日)	299	134	107	540
合計	1,027	380	315	1,722

### ②三陸鉄道等利用者の属性

三陸鉄道及び JR 山田線代替バスの利用者としては、10 代及び 60 代以上が多く、約 7 割が沿岸 12 市町村、約 2 割が関東の居住者となっている。



**図 27 三陸鉄道の利用者属性**

出典: H28 三陸鉄道・JR 山田線代替バス利用者アンケート調査

### ③利用目的

三陸鉄道等利用者の利用目的は、平日で通学、観光、通勤、休日で観光、通学、買物の順で多くなっている。

その中でも、北リアス線では、通学、観光での利用が特に多く、南リアス線は、通学、観光をはじめ多様な使われ方をしており、JR山田線代替バスは、通勤、通学が多く、観光目的は少なくなっている。

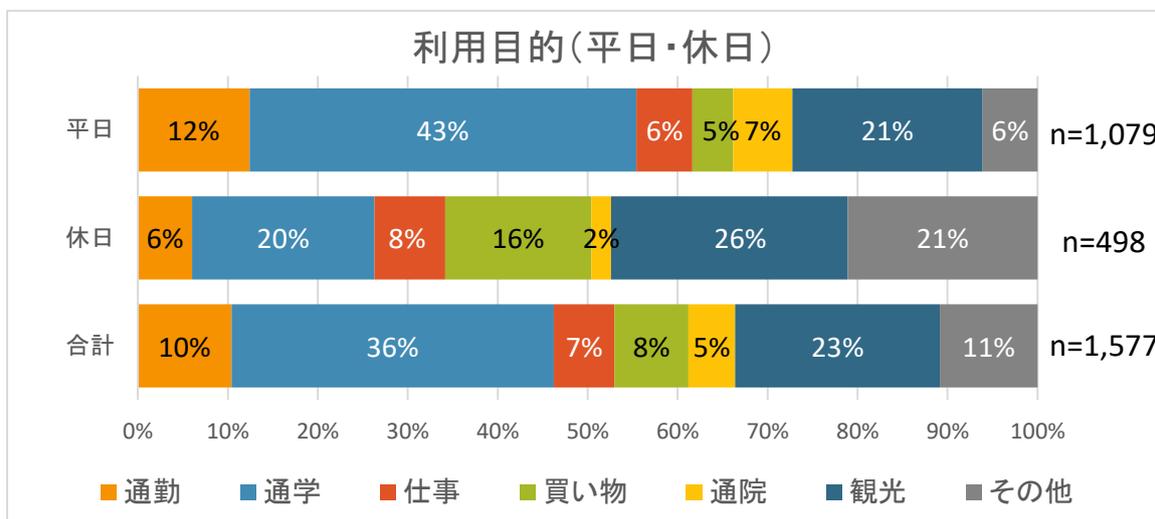


図 28 三陸鉄道利用目的 (平日・休日別)

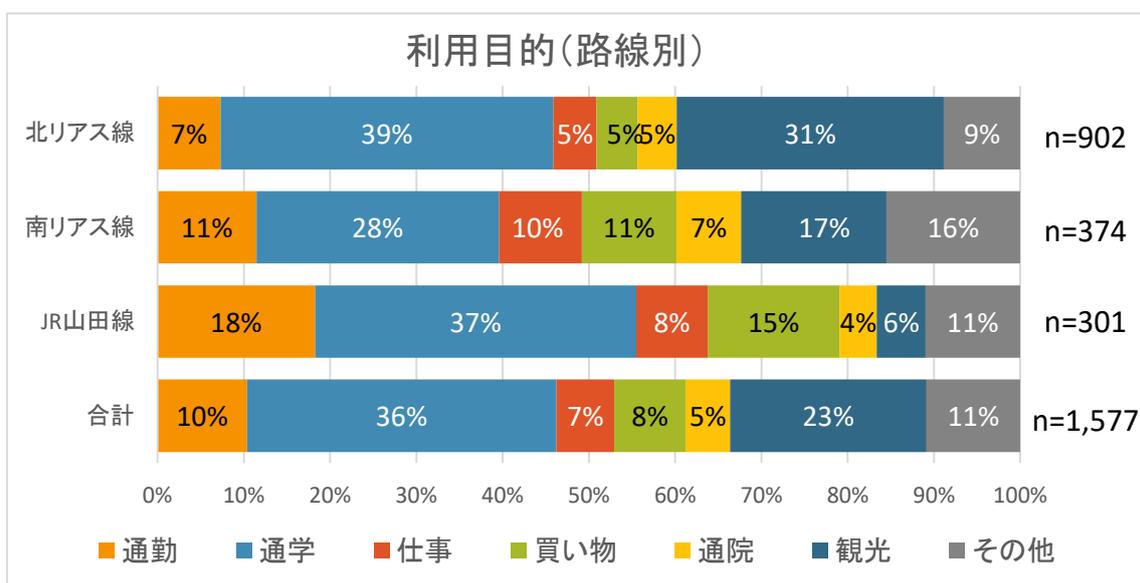


図 29 三陸鉄道利用目的 (利用路線別)

出典：H28 三陸鉄道・JR山田線代替バス利用者アンケート調査

#### ④乗車前の交通手段

三陸鉄道等利用者の駅アクセス交通手段としては、徒歩が最も多いが、北リアス線では、観光バスや自動車での送迎、南リアス線では、鉄道やバスでの乗り継ぎ、自動車が多く、観光バスは少ない。JR山田線代替バスは、バス、自動車での送迎、自動車でのアクセスが多くなっている。

乗り継ぎに着目すると、いずれの路線でも、2~3割は鉄道やバスからの乗り継ぎが行われている。

利用目的別で見ると、通勤では自動車でのアクセス、通学では自動車による送迎、仕事や観光では鉄道間の乗り継ぎ、買い物や通院ではバスとの乗り継ぎが多くなっている。

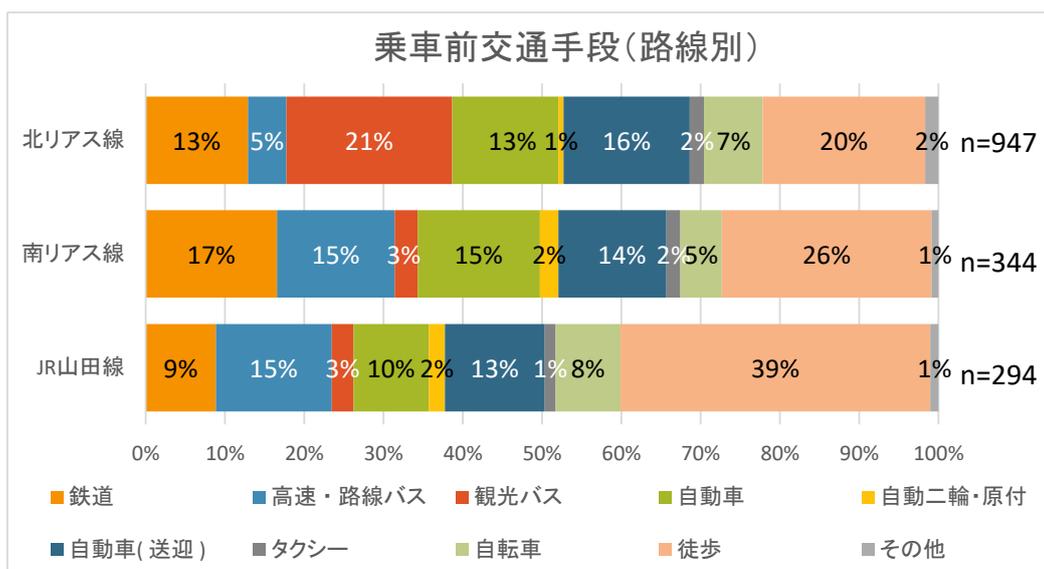
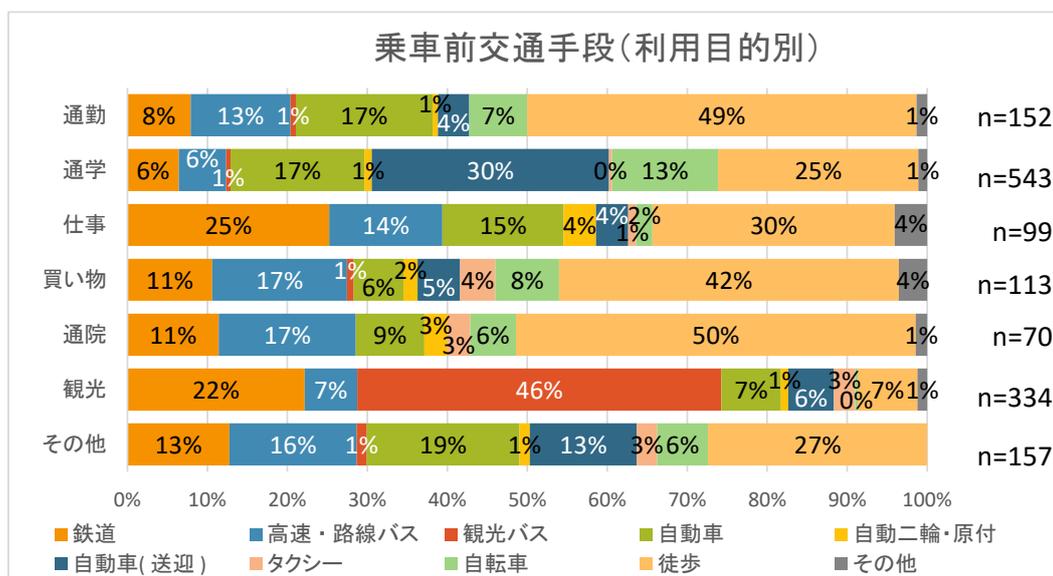


図 30 乗車前の交通手段 (利用路線別)



注) 観光目的で、一時的なものとして観光バスを除いた場合、鉄道 41%、高速・路線バス 12%となる

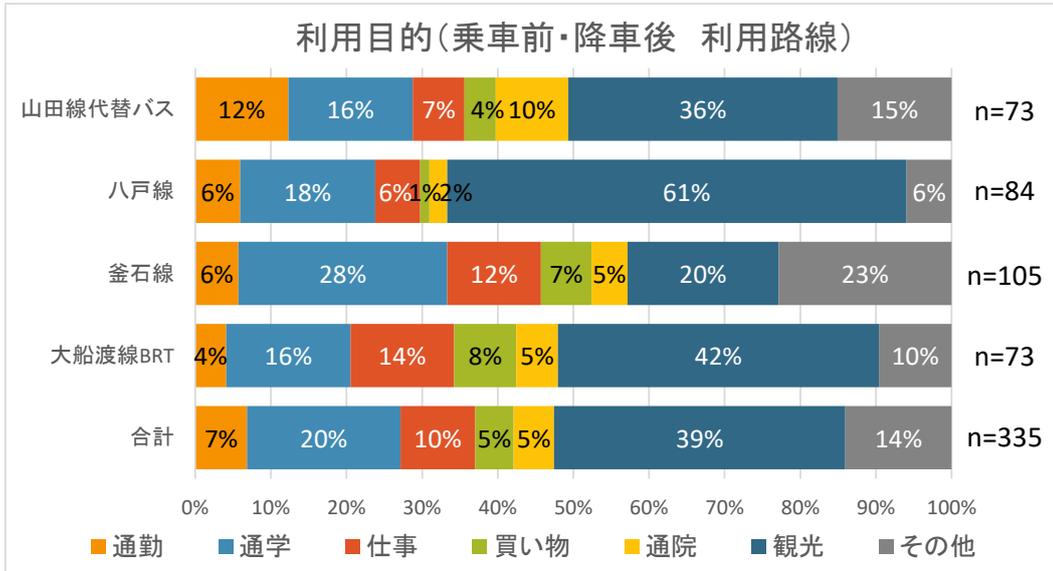
図 31 乗車前の交通手段 (目的別)

出典：H28 三陸鉄道・JR山田線代替バス利用者アンケート調査

⑤乗り継ぎ利用者の特性

三陸鉄道と鉄道・バスの乗り継ぎ利用者の目的別割合としては、軒並み観光利用の割合が高くなっている。

宮古駅・釜石駅で接続する JR 山田線代替バスとでは、観光、通学、通勤、通院、久慈駅で接続する JR 八戸線とでは、観光、通学、釜石駅で接続する JR 釜石線とでは、通学、観光、仕事、盛駅で接続する JR 大船渡線 BRT とでは、観光、通学、仕事の順で多くなっている。

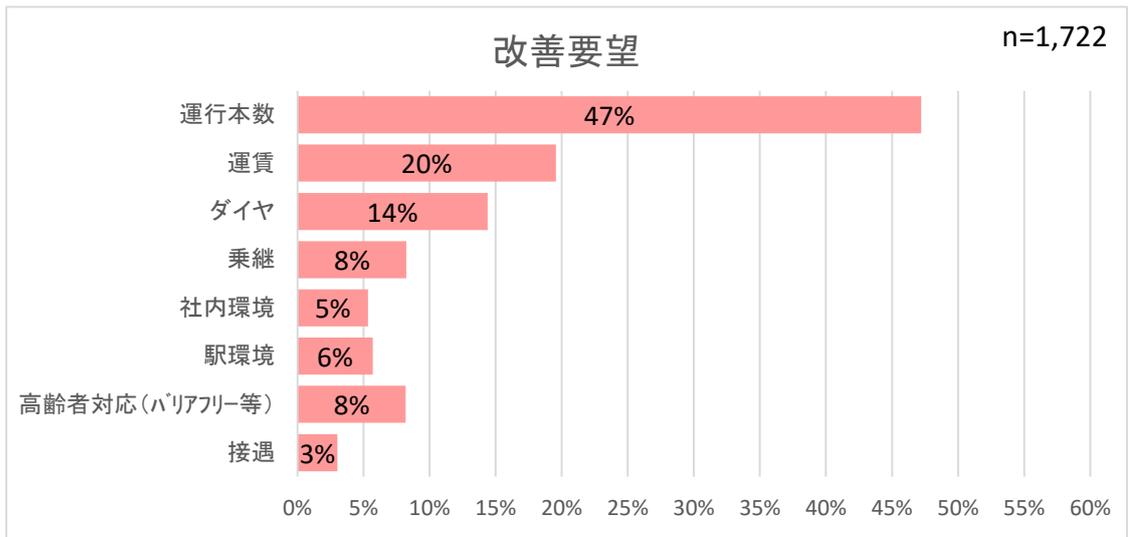


※三陸鉄道・JR 山田線代替バスの乗車前または降車後に各路線を利用した方の回答を合計

図 32 乗り継ぎ利用者の利用目的 (路線別)

⑥改善要望

三陸鉄道等利用者が特に改善を望むこととしては、平日利用者・休日利用者ともに「運行本数」の割合が約 5 割、「運賃」が約 2 割と高くなっている。



※複数回答/回答者数に対する割合を表示

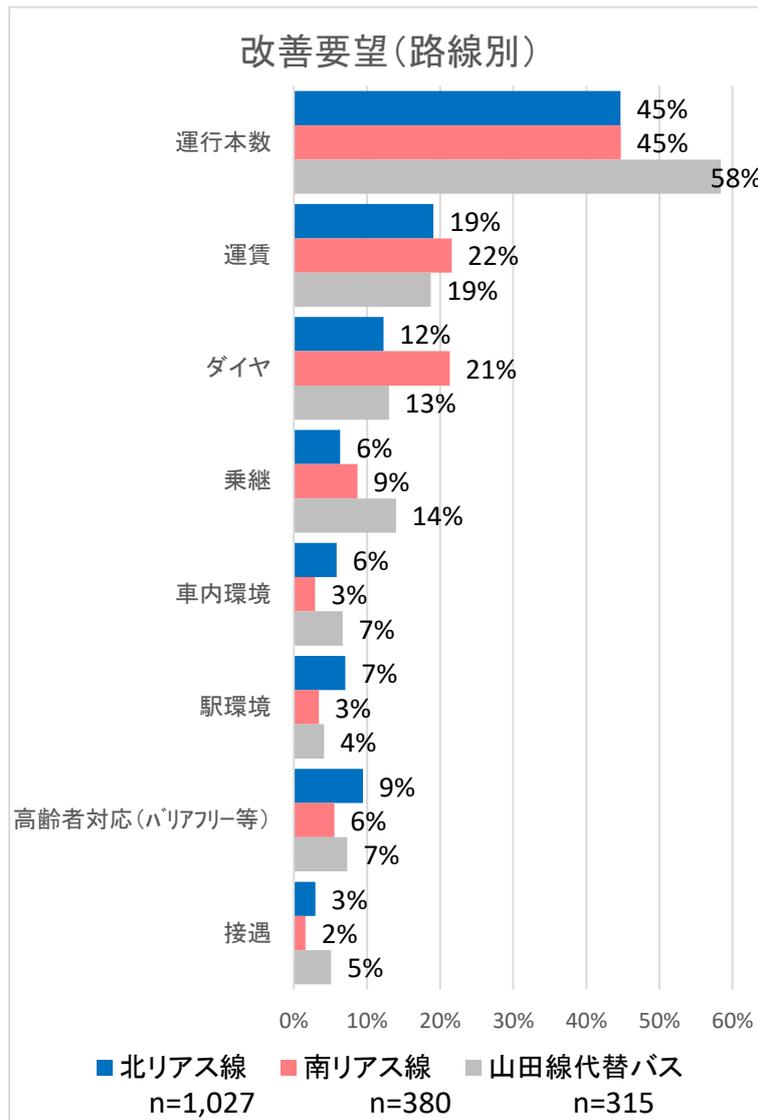
図 33 三陸鉄道利用者による改善要望 (全体)

出典：H28 三陸鉄道・JR 山田線代替バス利用者アンケート調査

【路線別】

路線ごとで見ても、全体的には、運行本数、運賃、ダイヤ、乗り継ぎといった改善要望の高い項目の順位は変わらない。

他路線と比較して改善要望が多くなっている項目としては、北リアス線では「駅環境」や「バリアフリー」、南リアス線では「運賃」や「ダイヤ」、JR山田線代替バスでは「運行本数」や「乗り継ぎ」となっている。



※複数回答/回答者数に対する割合を表示

図 34 三陸鉄道利用者による改善要望 (沿線別)

出典：H28 三陸鉄道・JR山田線代替バス利用者アンケート調査

【年代別】

年代別で見ると、「運行本数」や「運賃」については、特に通学世代の10代以下による改善要望が特に多くなっている。

また、「ダイヤ」や「乗り継ぎ」については、通勤世代の20～40代、「バリアフリー等の高齢者対応」については、60代以上で比較的が多くなっている。

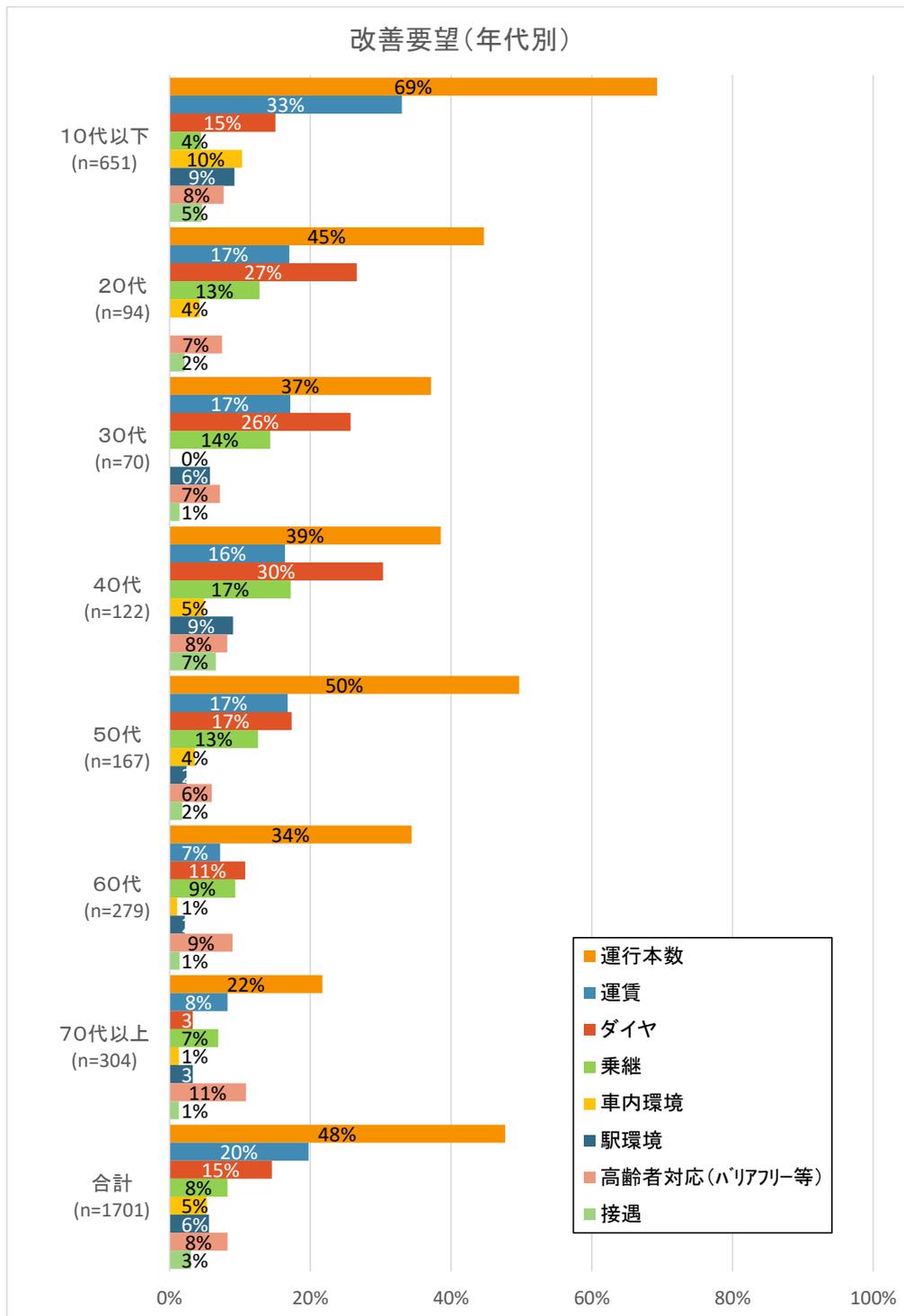


図 35 三陸鉄道利用者による改善要望（年代別）

出典：H28 三陸鉄道・JR 山田線代替バス利用者アンケート調査

【目的別】

目的別で見ると、通勤で「運行本数」「ダイヤ」、通学で「運行本数」「運賃」が比較的高い割合となっている。観光目的では、全体的に改善要望の割合が低くなっている。

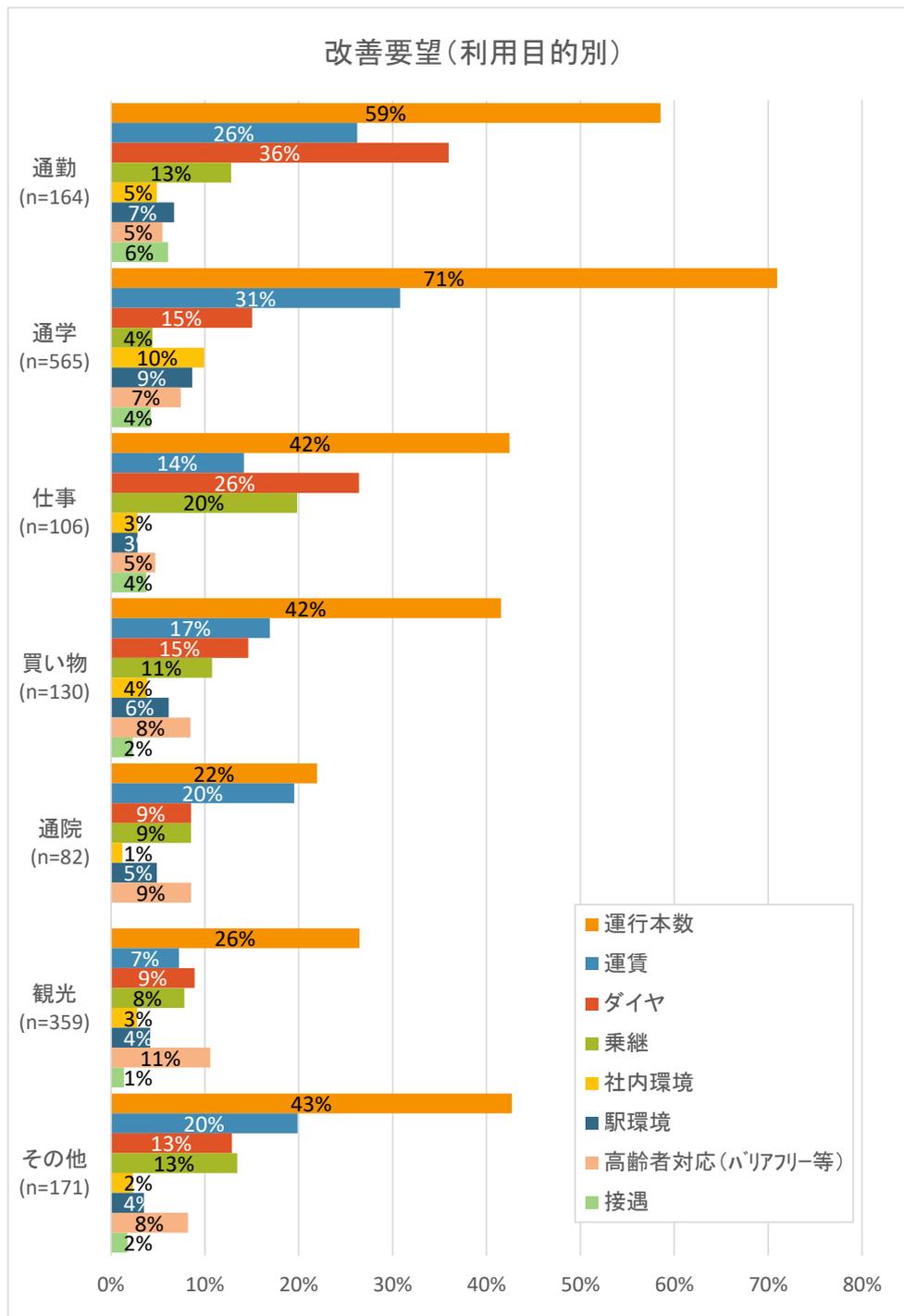


図 36 三陸鉄道利用者による改善要望（目的別）

出典：H28 三陸鉄道・JR 山田線代替バス利用者アンケート調査

### (3) 沿線住民の状況

#### ①住民アンケート調査概要

三陸鉄道および JR 山田線代替バス沿線市町村の住民について、現在の日常生活移動の特性や移動ニーズ、交通サービスへの評価、三陸鉄道の必要性や課題等を把握するためのアンケート調査を実施している。調査の概要は、以下のとおり。

調査対象：三陸沿岸地域 12 自治体（洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市）

調査方法：市町村協力により住民をランダムで抽出し、郵送配布・郵送回収

配布数：1500 世帯（1 世帯あたり 3 票・配布票数 4500 票）

回収数：852 票（回収率 18.9%）

表 17 住民アンケート調査票配布・回収状況

市町村	対象区域世帯数	配布世帯数	配布票数	回収票数	回収率(対票数)
宮古市	16,686	361	1,082	191	17.7%
大船渡市	12,318	266	798	115	14.4%
久慈市	9,369	202	607	106	17.5%
釜石市	9,912	214	643	97	15.1%
大槌町	5,516	119	358	56	15.7%
山田町	6,605	143	428	102	23.8%
岩泉町	671	14	43	7	16.1%
田野畑村	1,094	24	71	15	21.2%
普代村	1,042	23	68	11	16.3%
野田村	1,578	34	102	15	14.7%
洋野町	3,940	50	150	39	26.0%
陸前高田市	6,402	50	150	33	22.0%
空白・その他				65	-
合計	75,133	1,500	4,500	852	18.9%

回答者属性：各年代約 1～2 割、男女比は概ね半々

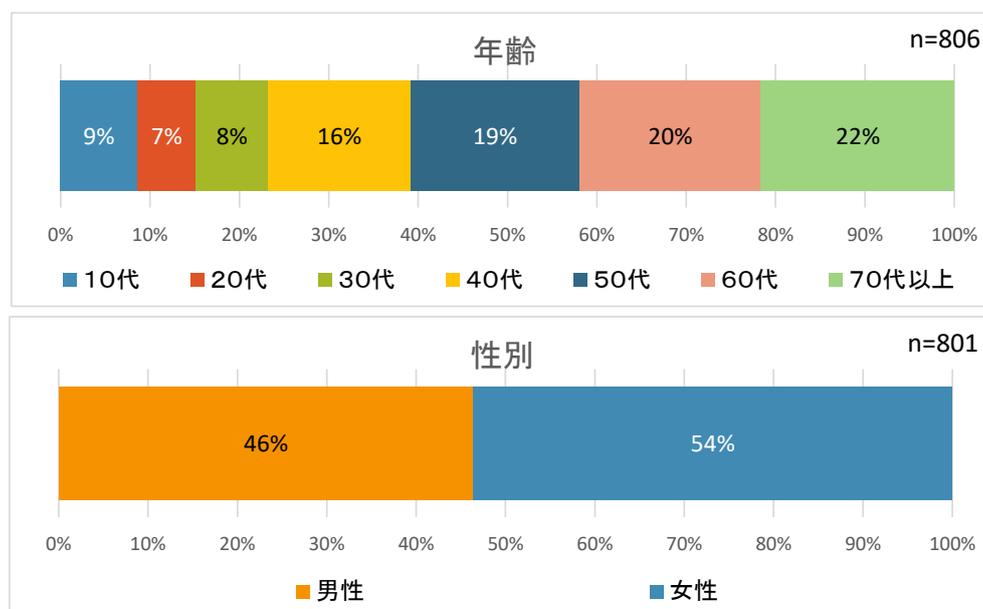


図 37 住民アンケート調査回答者属性

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

## ②自動車の利用環境

三陸沿岸地域住民の自動車の利用環境を見ると、30～60代では8割以上が自家用車を保有し自ら運転しているが、10代で約9割、70代以上で約5割が自ら運転しておらず、特に70代以上では、約2割が自家用車を保有しながら自ら運転していない状況である。

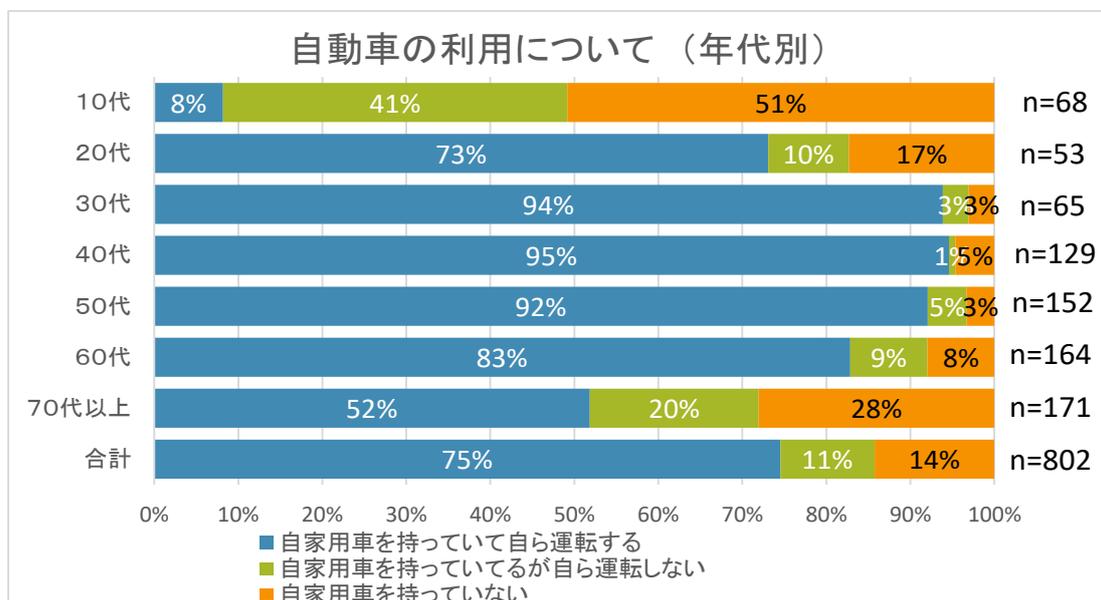


図 38 住民の年代別外出頻度【三陸沿岸地域】

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

## ③日常の外出頻度

三陸沿岸地域住民の日常の外出頻度について目的別では、通勤・通学が週に5日以上が約7割と特に多くなっており、週1回以上の外出で見ると、日用品の買物が約8割、日用品以外の買物が約4割、趣味・娯楽が約3割、通院が約1割となっている。

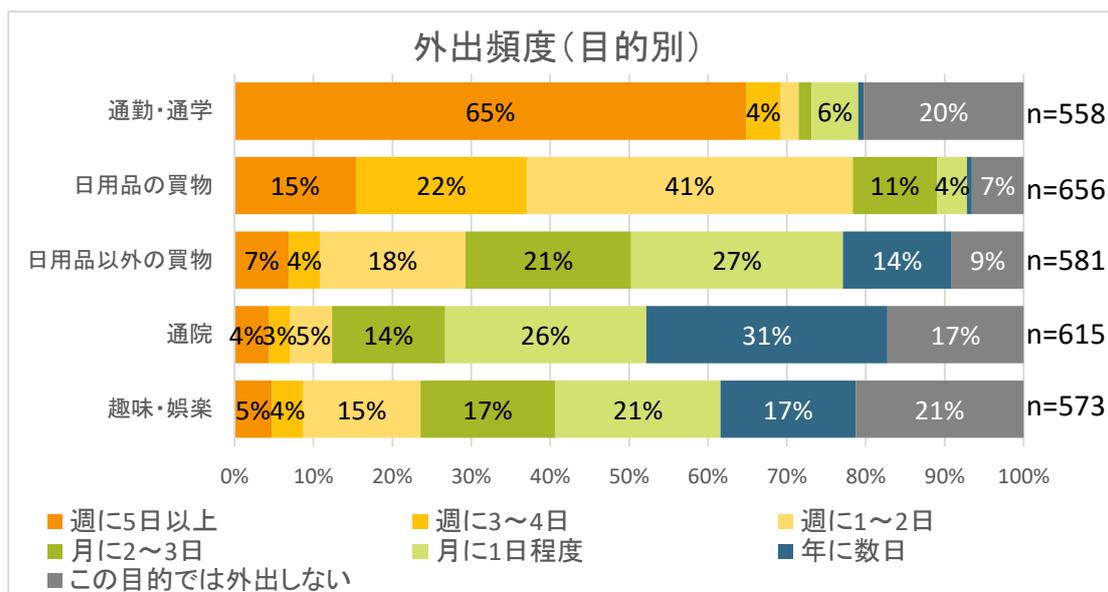


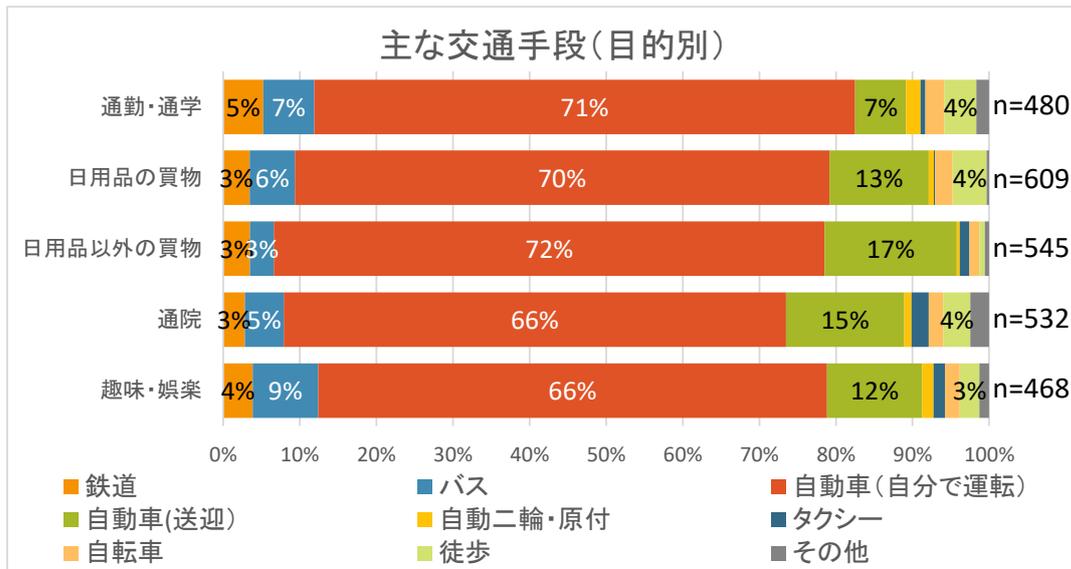
図 39 住民の目的別移動頻度【三陸沿岸地域】

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

④ 日常の交通手段

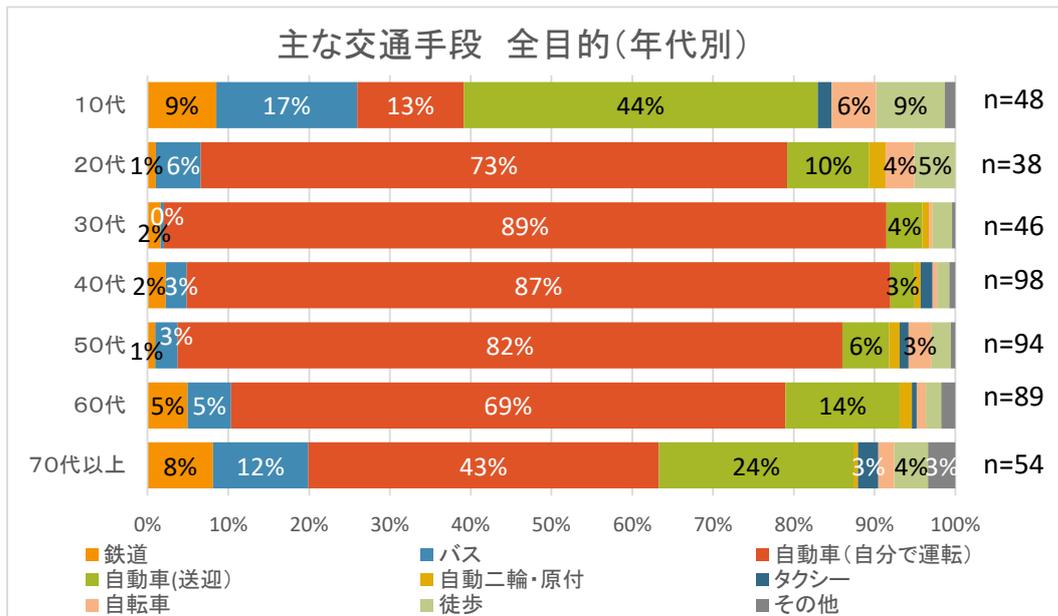
三陸沿岸地域住民の日常の移動交通手段について、目的別では、全体的に送迎も含めた自動車の分担率が約8～9割を占めている。鉄道やバスを使う割合が比較的高いのは、通勤・通学、趣味・娯楽となっている。

年代別で見ると、30～50代は8～9割が自分で運転して自動車を利用しており、10代の4割以上、70代の2割以上が送迎に頼っている状況である。鉄道やバスを使う割合が高いのは、10代及び60代以上となっている。



※目的別の外出時における「最も移動距離が長い交通手段」を回答

図 40 住民の目的別交通手段割合【三陸沿岸地域】



※目的別の外出時における「最も移動距離が長い交通手段」を回答

図 41 住民の年代別交通手段割合【三陸沿岸地域】

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑤三陸鉄道等の利用状況

三陸沿岸地域住民の三陸鉄道、J R山田線代替バスの利用状況については、約8割が最近1年間はいずれの路線も利用していない状況である。

利用している方の路線別の利用目的としては、北リアス線が「通院」「観光」「仕事」、南リアス線が「買物」「観光」「通院」、J R山田線代替バスについては、「通学」「通院」が多くなっており、各路線共通で沿線住民が「通院」で使う割合が高くなっている。

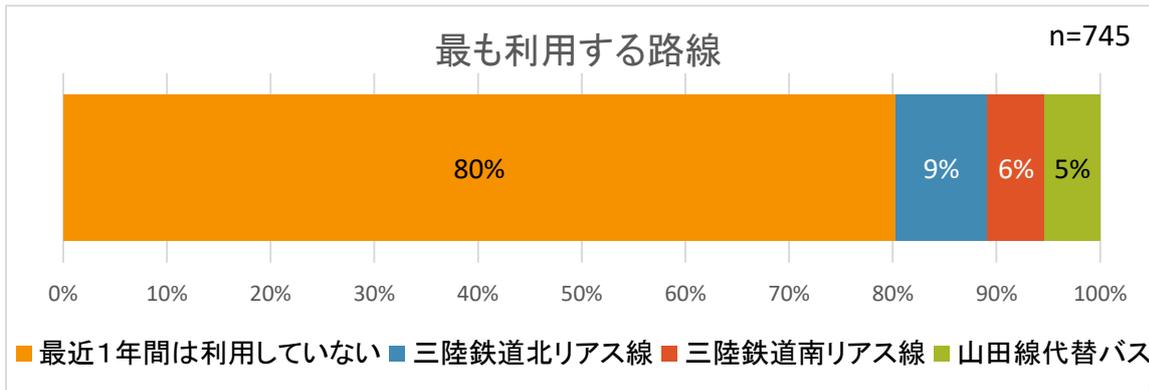
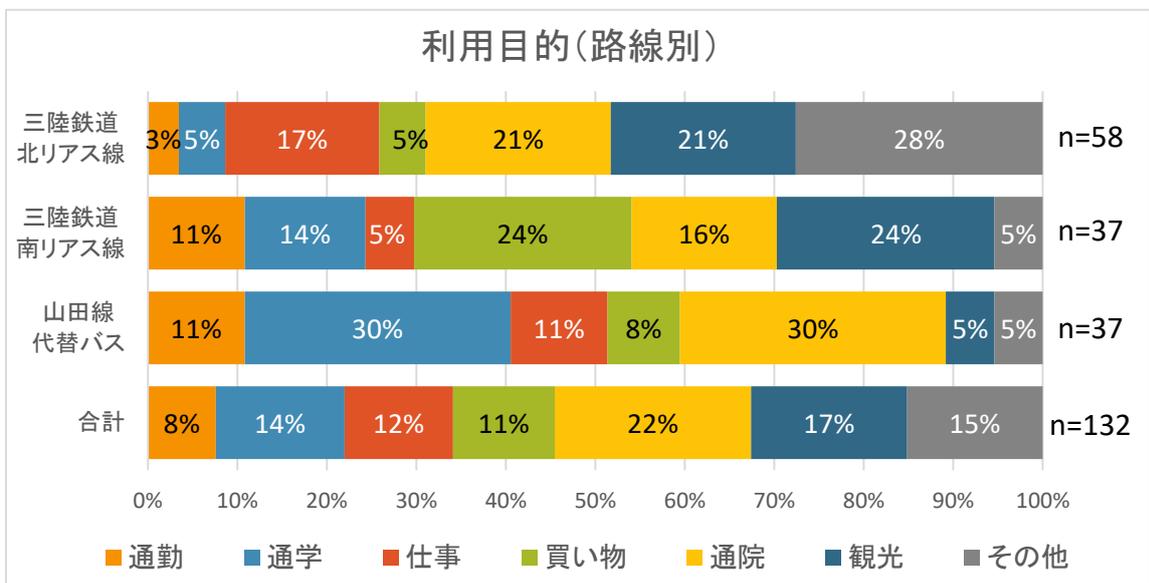


図 42 住民による三陸鉄道等の利用状況



※最近1年以内に三陸鉄道等を利用した方のみで集計

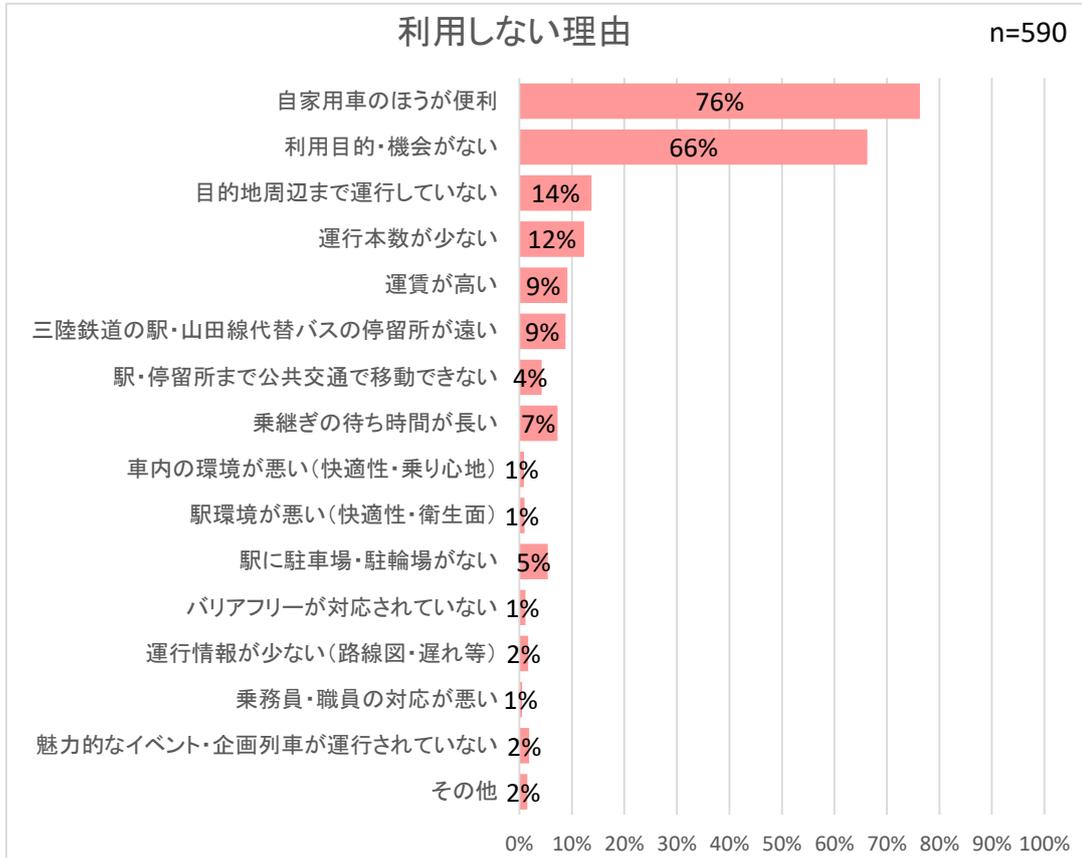
図 43 住民による三陸鉄道等の利用目的

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑥三陸鉄道等を利用しない理由

三陸沿岸地域住民で最近1年以内に三陸鉄道等を利用していない方の理由としては、「自家用車の方が便利」が約8割、「利用目的・機会がない」が約7割と多くなっている。

年代別で見ると、10～20代で「運行本数」「運賃」「乗継の待ち時間」、30～50代で「駅の駐車場・駐輪場」を挙げる割合が高くなっている。



※最近1年以内に三陸鉄道等を利用していない方のみで集計

図 44 住民による三陸鉄道等を利用しない理由

表 18 住民による三陸鉄道等を利用しない理由（年代別）

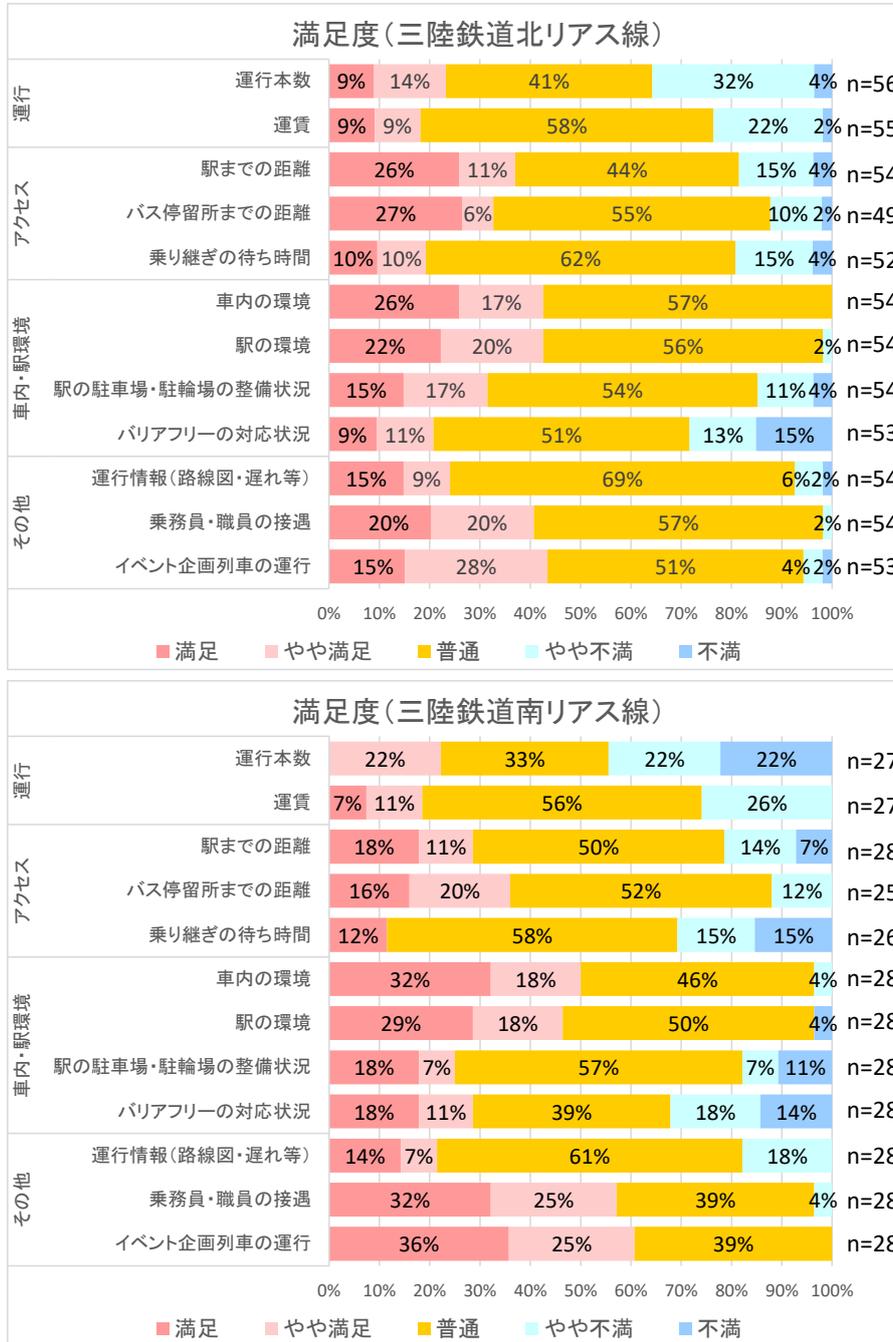
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
自家用車の方が便利	46%	85%	90%	86%	75%	74%	68%
利用目的・機会がない	66%	73%	61%	69%	69%	71%	54%
目的地周辺まで運行していない	11%	20%	10%	18%	15%	8%	14%
運行本数が少ない	26%	20%	8%	16%	12%	7%	10%
運賃が高い	17%	17%	4%	15%	7%	5%	7%
駅・バス停が遠い	11%	10%	10%	8%	6%	7%	10%
駅・バス停まで公共交通移動できない	9%	10%	4%	6%	3%	2%	4%
乗継ぎの待ち時間が長い	11%	12%	6%	9%	6%	4%	7%
車内の環境が悪い	3%	2%	2%	1%	1%	0%	0%
駅環境が悪い	6%	2%	2%	1%	1%	0%	0%
駅に駐車場・駐輪場がない	3%	5%	6%	10%	7%	1%	4%
バリアフリーが対応されていない	3%	0%	2%	2%	2%	0%	1%
運行情報が少ない	3%	0%	4%	3%	2%	1%	1%
乗務員・職員の対応が悪い	3%	0%	2%	0%	1%	0%	0%
魅力的なイベント・企画列車がない	3%	2%	4%	0%	2%	3%	2%
その他	6%	0%	0%	2%	1%	1%	3%

※最近1年以内に三陸鉄道等を利用した方のみで集計

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑦三陸鉄道等のサービスの満足度

三陸沿岸地域住民のうち、三陸鉄道等の利用者の満足度が比較的高い項目として、北リアス線、南リアス線ともに、「車内の環境」「駅の環境」「乗務員・職員の接遇」「イベント企画列車の運行」等となっている。不満の多い項目としては、「運行本数」「バリアフリーの対応状況」「運賃」「乗り継ぎの待ち時間」等が挙げられ、両路線とも同様の傾向である。



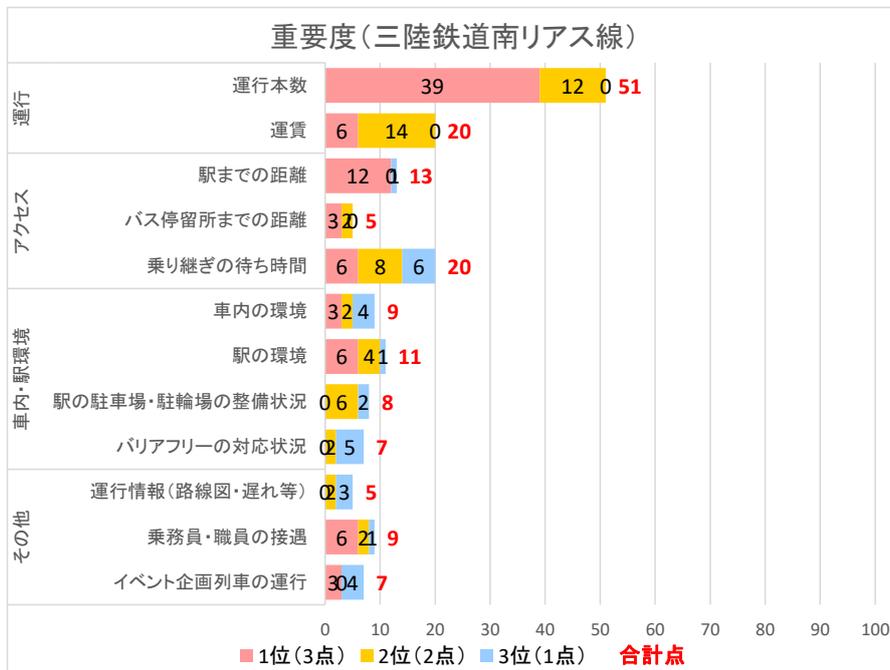
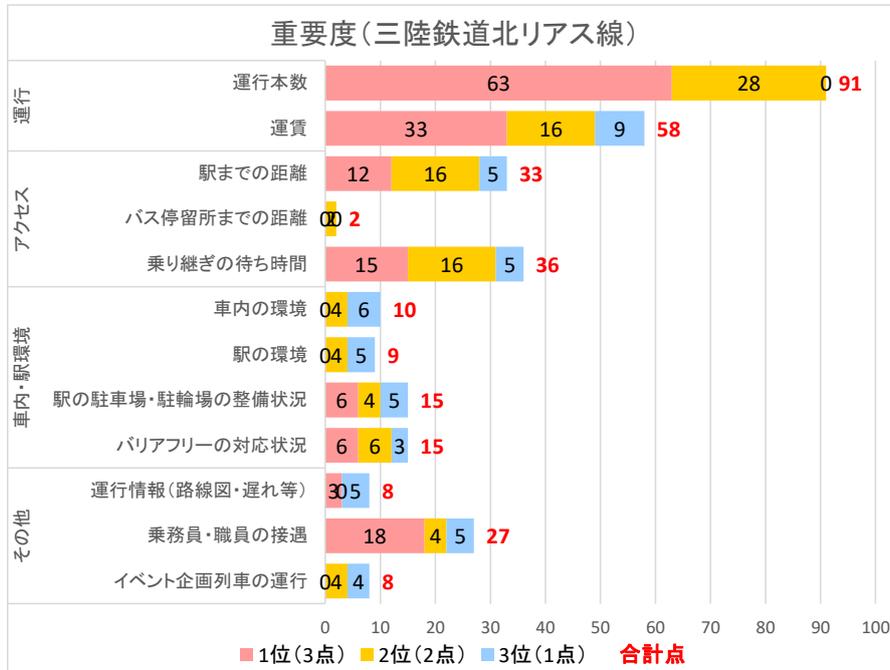
※最近1年以内に三陸鉄道等を利用した方のみで集計

図 45 住民の三陸鉄道等利用者による満足度

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑧三陸鉄道等のサービスの重要度

三陸沿岸地域住民のうち、三陸鉄道等の利用者による重要度が高い項目として、北リアス線、南リアス線ともに、「運行本数」「運賃」「乗り継ぎの待ち時間」「駅までの距離」「乗務員・職員の接遇」等が挙げられる。



※最近1年以内に三陸鉄道等を利用した方のみで集計

※1位=3点、2位=2点、3位=1点とした合計点

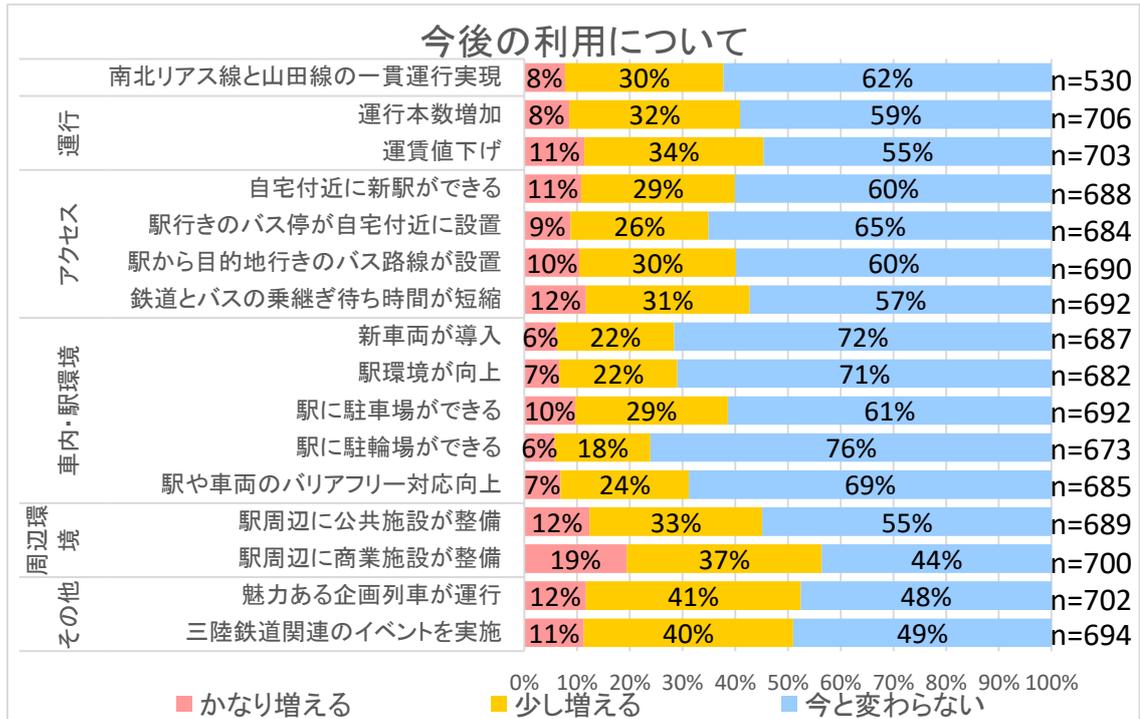
図46 住民の三陸鉄道等利用者による重要度

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑨三陸鉄道等の今後の利用意向

三陸沿岸地域住民において、今後利用を増やすための要素としては、「駅周辺に商業施設が整備」「駅周辺に公共施設が整備」といった駅周辺環境の整備や、「魅力ある企画列車が運行」「三陸鉄道関連のイベントを実施」といった観光企画が特に大きい。

また、「運賃値下げ」、「鉄道とバスの乗り継ぎ待ち時間短縮」、「運行本数増加」等のサービス面、「自宅付近への新駅」「駅に駐車場ができる」等のハード整備が挙げられる。



※最近1年以内に三陸鉄道等を利用した方のみで集計

図 47 三陸鉄道等の今後の利用意向

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

⑩三陸鉄道の必要性

三陸沿岸地域住民による三陸鉄道の必要性としては、沿線外の洋野町、陸前高田市を含め、全体で7割が「必要だと思う」、約1割が「必要だとは思わない」としており、全体的に必要意識は高い。

必要な理由としては、「日常の交通手段として」「観光資源として」「地域活性化の資源として」が概ね同等で5割以上、「地域のシンボルとして」も約3割から挙げられている。

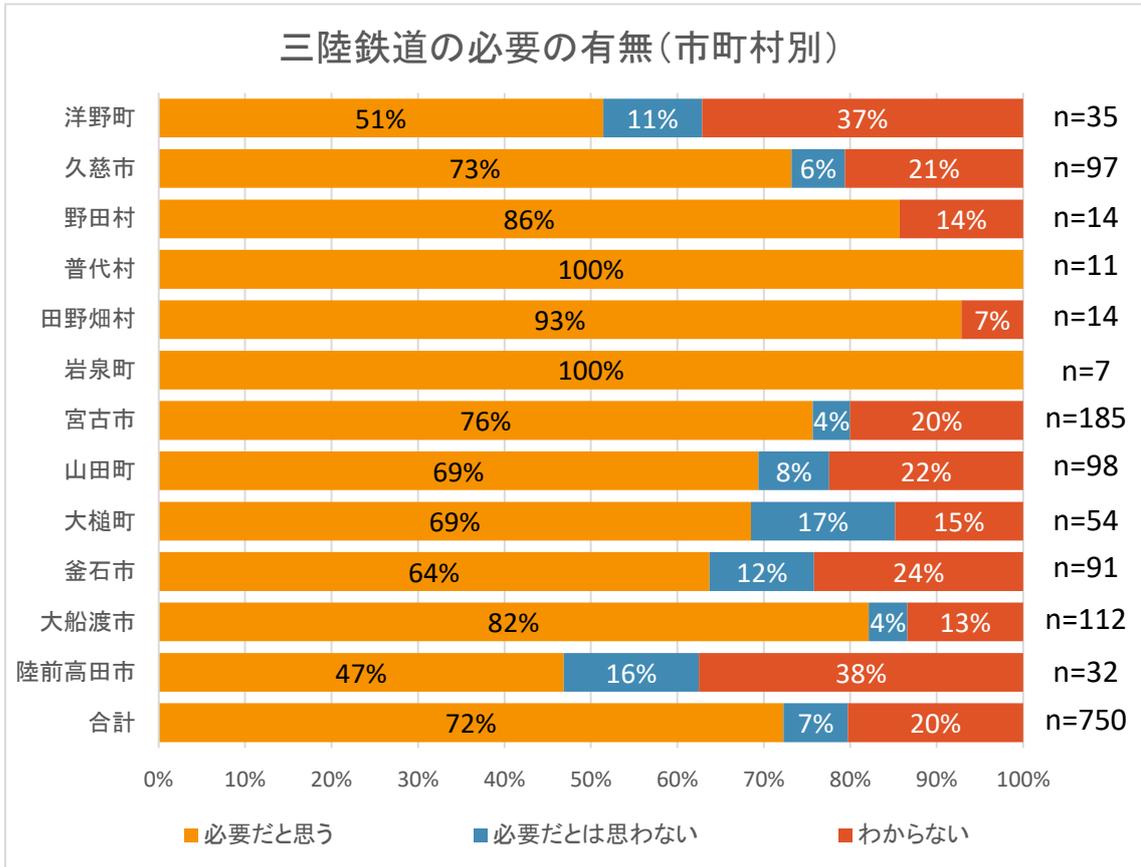


図 48 住民による三陸鉄道の必要性 (沿線市町村別)

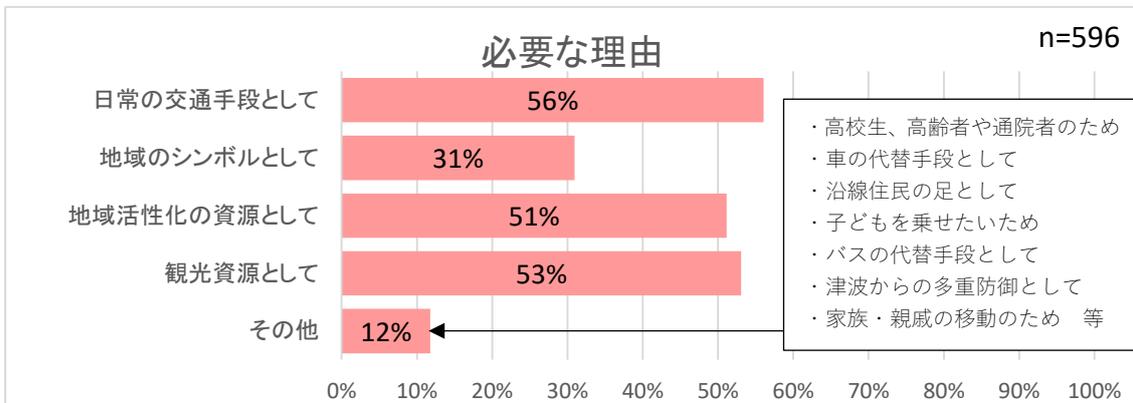


図 49 住民による三陸鉄道が必要な理由

出典：H28 三陸沿岸地域住民アンケート調査

#### (4) 沿線地域への観光客の状況

##### ①観光客アンケート調査概要

三陸沿岸地域を訪れる観光客の意向を把握するため、当地域で観光入込みの多い道の駅を訪れた観光客に対して聞き取りによるアンケート調査を行っている。調査の概要は、以下のとおり。

調査対象：道の駅くじ・道の駅やまだ・道の駅さんりく（入込数の多い道の駅）

調査方法：道の駅に車や団体バスで訪れている観光客に対して聞き取り調査を実施

回答数：150票

回答者属性：50・60代が比較的多い、約7割が東北・約2割が関東から

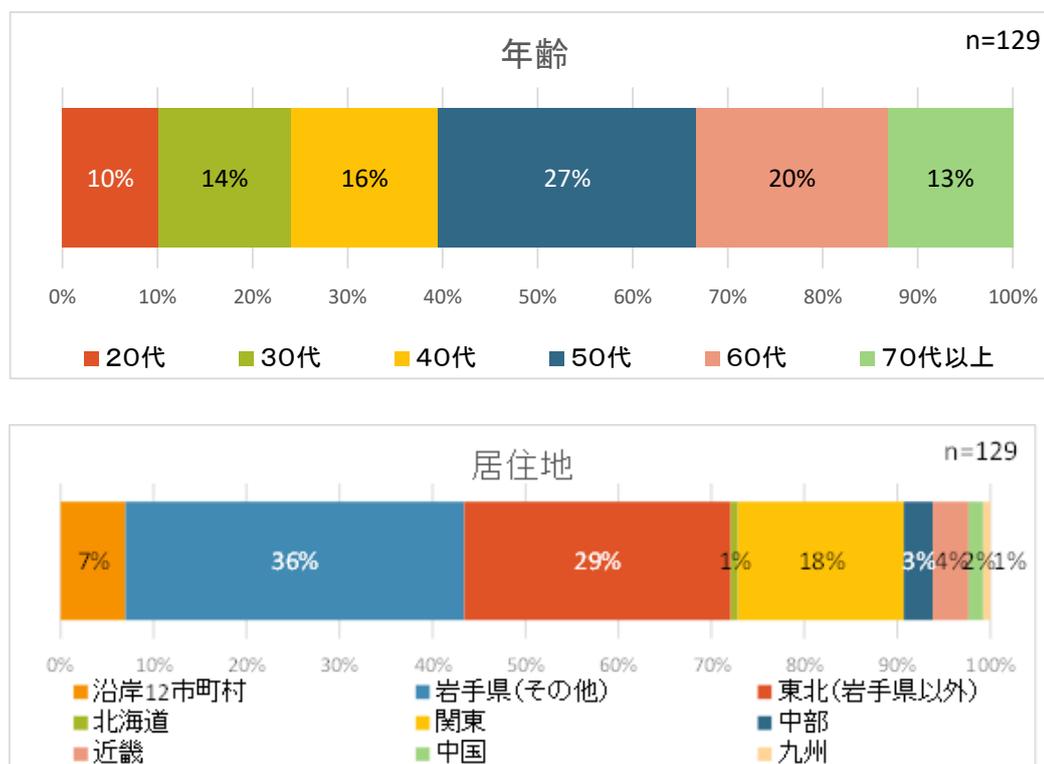


図 50 観光客（道の駅）アンケート調査回答者属性

出典：H28 三陸沿岸地域観光客アンケート調査

②三陸鉄道の認知・利用有無

三陸沿岸地域の道の駅を訪れた観光客のうち、ほぼ全ての方が三陸鉄道を知っていたが、利用経験があるのは約4割に留まっている。

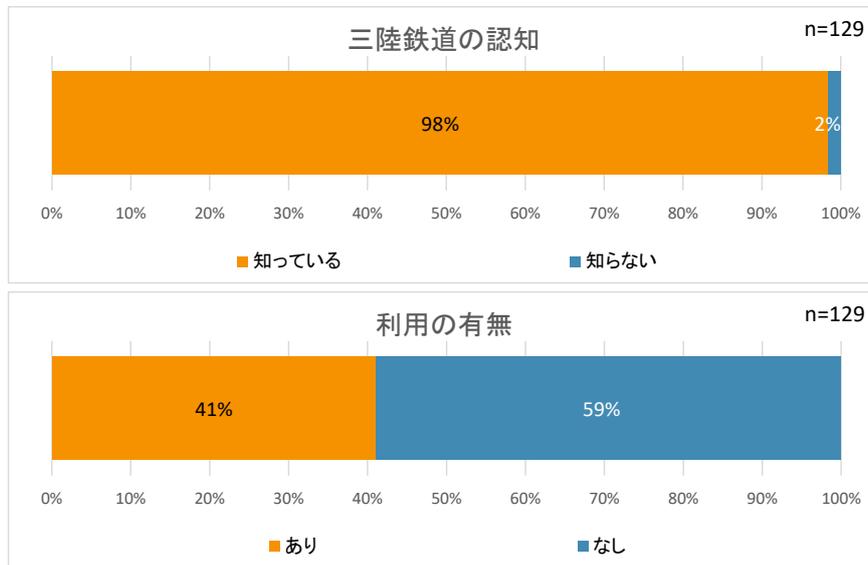


図 51 観光客（道の駅）の三陸鉄道認知状況及び利用経験の有無

出典：H28 三陸沿岸地域観光客アンケート調査

③施策に対する利用意向

三陸沿岸地域の道の駅を訪れた観光客のうち、三陸鉄道を利用する・利用が増加するための施策として、「運行本数の増加」「企画列車の運行」が約3割から挙がっている。

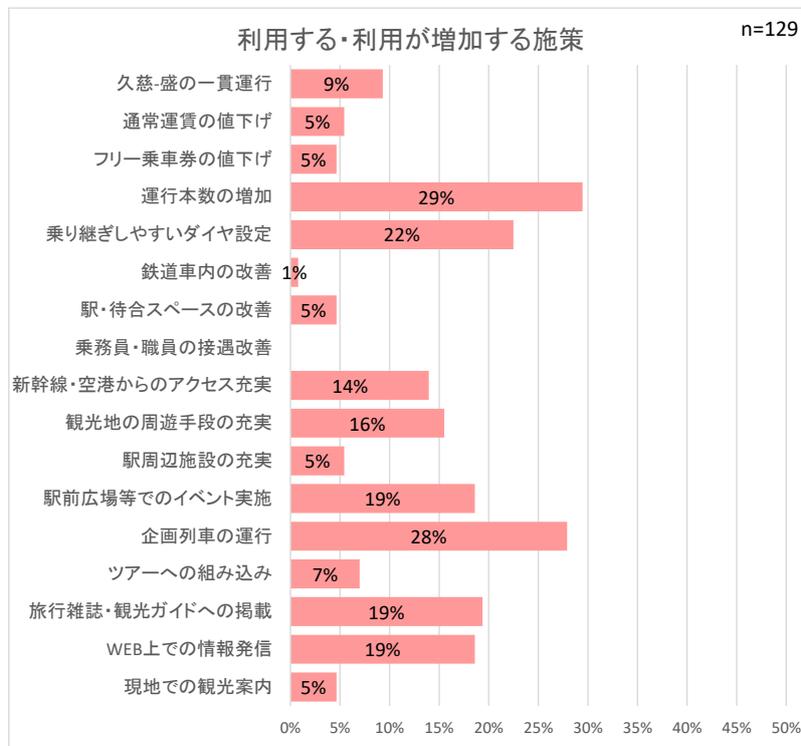


図 52 観光客（道の駅）の各施策に対する三陸鉄道利用意向

出典：H28 三陸沿岸地域観光客アンケート調査

## 6-4 三陸鉄道の経営状況

### (1) 経常損益の推移

三陸鉄道の令和5年度の経常収支の構造を見ると、収入の主なものは、旅客運輸収入(73.3%)、運輸雑入(11.1%)となっており、約458百万円の経常収益となっている。

一方、経常費用については、人件費が過半を占めている(51.0%)他、修繕費(20.6%)、光熱水費などの「その他経費」(14.6%)が主なものとなっている。その結果、令和5年度の年間の経常収支は、約667百万円の欠損を生じている。

三陸鉄道の経常損益について、平成5年までは経常利益を計上していたが、平成6年度以降経常損失が続いており、平成14年以降は毎年1億円以上の損失となっている。

表19 令和5年度三陸鉄道決算内容

(単位：千円、%)

経常収入 A	457,675	100.0%	経常費用 B	1,124,887	100.0%
旅客運輸収入	335,704	73.3%	人件費	574,092	51.0%
運輸雑収	50,820	11.1%	修繕費	231,517	20.6%
旅行業収入	6,865	1.5%	動力費	95,636	8.5%
物販収入	23,352	5.1%	その他経費	164,415	14.6%
営業外収入	27,435	6.0%	固定資産税等	59,227	5.3%
その他収入	13,499	2.9%			

収支(A-B) ▲667,212

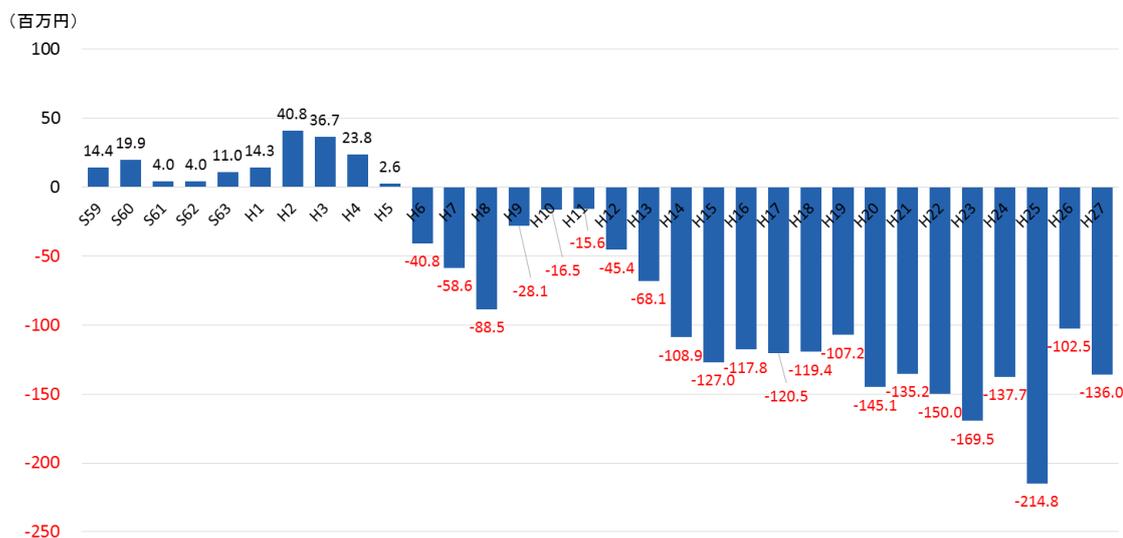


表20 三陸鉄道の経常収益の推移

出典：三陸鉄道資料

## (2) 財政支援の状況

### ①岩手県三陸鉄道強化促進協議会負担金

岩手県及び三陸沿岸地域の 12 市町村を構成員とする岩手県三陸鉄道強化促進協議会において、昭和 59 年の開業から三陸鉄道の利用促進事業に対する支援を行っている。

### ②地域公共交通確保維持改善事業費補助

地域の多様な関係者が協働した地域の公共交通の確保・維持、利便性向上等の取組を支援する地域公共交通確保維持改善事業により、国、岩手県及び三陸鉄道沿線 8 市町村\*が平成 6 年度から施設整備に係る支援を行っている。平成 25 年度より、鉄道事業再構築事業を実施する事業者に対する国の補助率が 1/3 より 1/2 に拡充された。

### ③三陸鉄道運営費補助

三陸鉄道の運営費は、平成 6 年度以降の鉄道軌道近代設備整備事業導入や平成 7 年度以降の経常損失補てんのため、旧国鉄からの転換交付金を財源として設置された三陸鉄道運営助成基金を財源として補助が行われてきた。しかし、基金が枯渇見込みとなった平成 19 年度以降は、基金残高は災害発生時対応の財源とし、岩手県及び 8 市町村の直接負担となっている。

## <参考資料>

### 三陸鉄道沿線地域等公共交通活性化協議会規約

#### (設置)

第1条 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号。以下「法」という。）の規定に基づき、三陸鉄道沿線地域等公共交通活性化協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

#### (事務所)

第2条 協議会の事務所は、宮古市宮町一丁目1番30号に置く。

#### (協議事項)

第3条 協議会は、次に掲げる事項を協議し、関係する事業を実施する。

- (1) 法第5条第1項に定める地域公共交通網形成計画（以下「網形成計画」という。）の策定及び網形成計画の変更に関すること。
- (2) 網形成計画の実施に関すること。
- (3) 協議会の運営方法その他協議会が必要と認めること。

#### (協議会の委員)

第4条 協議会の委員は、別表に掲げる者とする。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、行政機関及び団体の職員については、その職にある期間とし、又、欠員により新たな委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (協議会の役員)

第5条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長1人
  - (2) 副会長2人
  - (3) 監査委員2人
- 2 会長は、委員の互選により選出する。
  - 3 副会長及び監査委員は、会長が指名する。
  - 4 会長は、協議会を代表し、その会務を総理する。
  - 5 副会長は、会長を補佐し、会長不在のときは会長の職務を代理する。
  - 6 監査委員は、協議会の会計監査を行い、その結果を協議会の会議において報告する。

#### (会議)

第6条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員は、都合により会議を欠席する場合、代理の者を出席させることができることとし、あらかじめ会長に代理の者の氏名等を報告することにより、その代理の者の出席をもって当該委員の出席とみなす。
- 3 会議の議決方法は、会議出席委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、会長の決するところによる。
- 4 協議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、資料を提出させ、又は会議への出席を依頼し、助言等を求めることができる。

- 5 会議は原則として公開とする。ただし、会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められる協議については、非公開で行うものとする。

(協議結果の尊重義務)

第7条 協議会で協議の整った事項について、委員はその結果を尊重しなければならない。

(部会)

第8条 第3条各号に掲げる事項について、必要に応じ部会を置くことができる。

(事務局)

第9条 協議会の業務を処理するため、協議会に事務局を置く。

- 2 事務局は、宮古市に置く。
- 3 事務局に事務局長及び事務局員を置き、会長が定めた者をもって充てる。

(経費)

第10条 協議会の経費は、岩手県三陸鉄道強化促進協議会からの負担金、他の団体等からの補助金及びその他の収入をもって充てる。

(財務に関する事項)

第11条 協議会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。  
2 各会計年度の支出は、その年度の収入をもって、これに充てなければならない。

(協議会が解散した場合の措置)

第12条 協議会が解散した場合には、協議会の収支は、解散の日をもって打ち切り、会長であった者がこれを清算する。

(委任)

第13条 この規約に定めるもののほか、協議会の事務の運営上必要な事項は、別に定める。

附則

- 1 この規約は、平成20年7月31日から施行する。
- 2 協議会の設置初年度の委員の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。
- 3 平成20年度の会計年度は、第10条第1項の規定にかかわらず、平成20年7月31日から始まるものとする。
- 4 この規約は、平成29年7月19日から施行する。
- 5 この規約は、平成29年11月7日から施行する。
- 6 この規約は、平成30年7月17日から施行する。
- 7 この規約は、平成30年10月17日から施行する。
- 8 この規約は、令和2年9月16日から施行する。
- 9 この規定は、令和3年9月28日から施行する。
- 10 この規定は、令和4年9月30日から施行する。
- 11 この規定は、令和6年3月13日から施行する。

三陸鉄道沿線地域等公共交通活性化協議会委員

項番	区分	詳細区分	役職
1	地域公共交通網形成計画を作成しようとする地方公共団体	沿線市町村	宮古市 副市長
2			久慈市 総合政策部地域づくり振興課長
3			野田村 未来づくり推進課長
4			普代村 総務課長
5			田野畑村 企画観光課特定政策推進室長
6			岩泉町 政策推進課長
7			宮古市 企画部公共交通推進課長
8			山田町 政策企画課長
9			大槌町 企画財政課長
10			釜石市 市民生活部生活環境課長
11			大船渡市 商工港湾部企業立地港湾課長
12		関係市町	洋野町 企画課長
13			陸前高田市 市民協働部長 兼 まちづくり推進課長
14		岩手県	岩手県 ふるさと振興部交通政策室長
15			岩手県 ふるさと振興部交通政策室地域交通課長
16			岩手県県北広域振興局 経営企画部企画推進課長
17			岩手県沿岸広域振興局 経営企画部企画推進課長
18	関係する公共交通事業者等	JR東日本	東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社 企画総務部 担当課長
19		バス会社	岩手県交通株式会社 取締役 乗合自動車部長
20			岩手県北自動車株式会社 宮古地区統轄長
21			ジェイアールバス東北株式会社 盛岡支店長
22		三陸鉄道	三陸鉄道株式会社 取締役 運行本部長
23			三陸鉄道株式会社 取締役 事業本部長 兼 総務部長
24			三陸鉄道株式会社 旅客営業部長
25			三陸鉄道株式会社 経営企画部長
26	道路管理者	東北地方整備局三陸国道事務所 交通対策課長	
27		東北地方整備局南三陸沿岸国道事務所 工務課長	
28	道路管理者/港湾管理者	岩手県県北広域振興局 土木部長	
29	道路管理者/港湾管理者	岩手県沿岸広域振興局 土木部長	
30	その他地域公共交通網形成計画の定めようとする事業を実施すると見込まれる者	特定非営利活動法人 久慈広域観光協議会 会長	
31		特定非営利活動法人 体験村・たのはたネットワーク 理事長	
32		宮古商工会議所 専務理事	
33		一般社団法人 山田町観光協会 会長	
34		一般社団法人 大槌町観光交流協会 事務局長	
35	一般社団法人 釜石観光物産協会 会長		
36	公安委員会	岩手県警察本部 交通部交通規制課 交通規制課長	
37	地域公共交通の利用者	小本地域振興協議会 会長	
38		小石浜養殖組合長	
39	学識経験者	岩手県立大学 宮古短期大学部教授	
40	その他の当該地方公共団体が必要と認める者	東北運輸局鉄道部 計画課長	
41		東北運輸局岩手運輸支局 首席運輸企画専門官	